

シラバス

——平成 22 年度(2010)——

人間科学編

序 文

本シラバスは、下記に列挙する項目を通して工学部における授業、学習と学修目標に関する情報をまとめたものです。

- (1) 図書館の利用法
- (2) 各学科における学修目標
- (3) 各科目間の関連、科目の系統図
- (4) 授業の内容と受講の仕方、時間外学習への言及
- (5) 成績評価の方法

皆さん方が受講すべき標準的な科目は時間割に組み込まれていますので、時間割にある授業を受講し単位を取得すれば自動的に卒業要件単位は充足されると思われれます。しかし、もう1歩踏み込んで、工学部の学生としてどのように工学のスキルを身につけ、どのように自分自身のキャリアを伸ばしていくか、自問しながら学部4年間を過ごす意識が重要です。本シラバスは皆さん方のそのような自発的な学習における重要な情報源です。毎年、担当の教員による多少の手直しと内容の改善を行いながら今日のシラバスに整理されており、工学部の教育内容を一目で把握できます。教員による授業・指導と本シラバスの活用、そして最も重要である皆さん方の努力によって、4年後には皆さん方が学修目標を十分に達成され、立派なエンジニアとして社会に船出してもらうことを期待しています。

なお、シラバス作成時期と授業の実施時期の関係で、担当者等一部を変更することもあります。

平成22年4月

九州工業大学工学部

教員編成表

(工学部担当教員)

学長 松永守央 ・ 工学部長 石川聖二

(H 22.4.1 現在)

氏名	職名
人間科学科目	
アブドゥハン恭子	教授
井上寛	教授
田吹昌俊	教授
鳥井正史	教授
藤澤正明	教授
本田逸夫	教授
ラックストーン イアン.c	教授
李友炯	准教授
今井敦	准教授
大野瀬津子	准教授
反町裕司	准教授
中村雅之	准教授
虹林慶	准教授
八丁由比	准教授
東野充成	准教授
水井万里子	准教授

目 次

附属図書館における教育支援業務の概要

I. 人間科学基礎科目

1. 人文社会系科目

哲学 I	1
哲学 I	1
哲学 I	2
哲学 II	2
哲学 II	3
哲学 II	3
倫理学 I	4
倫理学 I	4
倫理学 II	5
倫理学 II	5
歴史学 I	6
歴史学 I	7
歴史学 II	8
歴史学 II	9
文学 I	10
文学 I	10
文学 II	11
文学 II	11
心理学 I	12
心理学 II	12
心理学 II	13
教育心理学	13
教育学 I	14
教育学 I	14
教育学 II	15
教育学 II	15
教育原理	16
教育社会学	17
法学	17
日本国憲法	18
社会学 I	18
社会学 I	19
社会学 II	19
社会学 II	20
経済学 I	20
経済学 I	21
経済学 II	21
経済学 II	22
政治学 I	22
政治学 I	23
政治学 II	23
政治学 II	24
地域研究 I	24
地域研究 I	25
地域研究 II	26
地域研究 II	27

哲学と現代 I	28
哲学と現代 II	28
西洋社会史 I・II	29
日本政治論 I	30
日本政治論 II	30
社会システム論 I	31
社会システム論 II	31
都市経済学	32
産業と規制の経済学	32
教育システム論	33
科学日本語	33
選択日本事情 A	34
選択日本事情 B	34

2. 外国語系科目

(1) 英語

英語科目についての全般的説明	35
総合英語 A I	36
総合英語 B I	36
総合英語 B I	37
総合英語 B I	37
総合英語 B I	38
総合英語 B I	38
総合英語 B I	39
総合英語 B I	39
総合英語 C I	40
総合英語 C I	40
総合英語 C I	41
総合英語 C I	41
総合英語 C I	42
総合英語 C I	42
総合英語 C I	43
総合英語 C I	43
総合英語 C I	44
総合英語 C I	44
総合英語 C I	45
総合英語 C I	45
総合英語 C I	46
総合英語 C I	46
中級英語 I	47
中級英語 I	47
中級英語 I	48
中級英語 I	48
上級英語 A I	49
上級英語 A I	49
上級英語 B I	50
上級英語 B I	50
上級英語 C I	51
技術英語 I	51
総合英語 A II	52

総合英語 B II	52	基礎ドイツ語 B	84
総合英語 B II	53	基礎ドイツ語 B	84
総合英語 B II	53	基礎ドイツ語 B	85
総合英語 B II	54	基礎ドイツ語 B	85
総合英語 B II	54	基礎ドイツ語 B	86
総合英語 B II	55	基礎ドイツ語 B	86
総合英語 B II	55	基礎ドイツ語 B	87
総合英語 C II	56	基礎ドイツ語 B	87
総合英語 C II	56	基礎ドイツ語 B	88
総合英語 C II	57	基礎ドイツ語 B	88
総合英語 C II	57	基礎ドイツ語 B	89
総合英語 C II	58	基礎ドイツ語 B	89
総合英語 C II	58	基礎ドイツ語 B	90
総合英語 C II	59	選択ドイツ語 A	90
総合英語 C II	59	選択ドイツ語 A	91
総合英語 C II	60	選択ドイツ語 A	91
総合英語 C II	60	選択ドイツ語 A	92
総合英語 C II	61	選択ドイツ語 A	92
総合英語 C II	61	(3) 中国語	
総合英語 C II	62	基礎中国語 A I	93
中級英語 II	62	基礎中国語 A I	93
中級英語 II	63	基礎中国語 A I	94
中級英語 II	63	基礎中国語 A I	94
中級英語 II	64	基礎中国語 A II	95
上級英語 A II	64	基礎中国語 A II	95
上級英語 A II	65	基礎中国語 A II	96
上級英語 B II	65	基礎中国語 A II	96
上級英語 B II	66	基礎中国語 B	97
上級英語 C II	66	基礎中国語 B	97
技術英語 II	67	基礎中国語 B	98
(2) ドイツ語		選択中国語 A	98
ドイツ語授業科目について	68	選択中国語 B II	99
基礎ドイツ語 A I	69	(4) ロシア語	
基礎ドイツ語 A I	70	ロシア語 A I	100
基礎ドイツ語 A I	70	ロシア語 A II	100
基礎ドイツ語 A I	71	(5) 韓国(朝鮮)語	
基礎ドイツ語 A I	71	選択韓国(朝鮮)語 A I	101
基礎ドイツ語 A I	72	選択韓国(朝鮮)語 A II	101
基礎ドイツ語 A I	72		
基礎ドイツ語 A I	73	3. 保健体育系科目	
基礎ドイツ語 A I	73	保健体育系科目について	102
基礎ドイツ語 A I	74	保健体育 A	102
基礎ドイツ語 A I	74	保健体育 B	103
基礎ドイツ語 A I	75	健康スポーツ科学論	103
基礎ドイツ語 A II	75	応用スポーツコース	104
基礎ドイツ語 A II	76	4. リレー講義科目	
基礎ドイツ語 A II	76	西洋文学と人間理解	105
基礎ドイツ語 A II	77	リレーセミナー「アイデンティティ」	106
基礎ドイツ語 A II	77		
基礎ドイツ語 A II	78	II. 教職に関する専門教育科目	
基礎ドイツ語 A II	78	教職論	107
基礎ドイツ語 A II	79	教育原理	107
基礎ドイツ語 A II	79	教育心理学	108
基礎ドイツ語 A II	80	教育社会学	109
基礎ドイツ語 A II	80	工業教科教育法	109
基礎ドイツ語 A II	81	教科教育法(数学) I	110
基礎ドイツ語 B	81	教科教育法(数学) II	111
基礎ドイツ語 B	82	教育課程論	111
基礎ドイツ語 B	82	特別活動の指導法	112
基礎ドイツ語 B	83	教育方法	112
基礎ドイツ語 B	83	生徒指導(進路指導を含む。)	113

教育相談	113
------	-----

Ⅲ. 人間科学科目（留学生）

人間科学科目（留学生）について	115
日本語AⅠ	115
日本語AⅡ	116
日本語AⅢ	116
日本語AⅣ	117
日本語BⅠ	117
日本語BⅡ	118
日本語CⅠ	118
日本語CⅡ	119
日本事情A	119
日本事情B	120
日本事情C	120
日本事情D	121

附属図書館における教育支援業務の概要

1. 概要

学習や研究活動をより効果的に進めるために、附属図書館で行っている教育支援業務について簡単に説明します。ほとんどの情報はウェブのページに記載されていますので、詳細は次のページを確認してください。

→ <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/>

2. 利用案内 → <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/guide/kaikanjikan/kaikanjikan.htm> ほか

開館時間と休館日、館内の案内図、貸出・返却・更新・予約の方法、図書や雑誌の探し方、文献複写・相互貸借の依頼の仕方について紹介します。

3. 資料案内 → http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/shiryoannai/vod_tobata/index.htm ほか

ビデオオンデマンド教材、新着図書や新着ベストセラー図書、学術雑誌コーナーやブラウジングコーナーに配架している雑誌の一覧、購入雑誌の一覧、本学の博士学位論文の論題と目次(要旨)の一覧を紹介します。

4. その他の図書館サービス

- マイライブラリ → <http://opac.libt.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do>

以下のリクエストサービスを提供：

Webからの文献複写依頼、他大学への図書借用依頼、新着情報、貸出状況照会、貸出期間の延長、図書資料の予約・予約の取消し、依頼状況照会、マイフォルダの利用

- 本館分館間資料取寄せ
- グループ創造学習コーナー：グループによる討議を重ね、個々の発想をイノベーションの成果にまで高めるプロセスを学習することによって、真に創造的な能力を養うことができるようにするための設備（電子黒板、プロジェクタ、ノートPC等）をもったスペース
- eラーニング → <http://www.e-learningcenter.kyutech.jp/index.html>
- PC及び無線LAN

5. 図書館の蔵書データベースの検索

図書館の蔵書は図書、雑誌、視聴覚資料等で構成されており、目録はすべてデータベース化されているためオンライン（OPAC：Online Public Access Catalog）で検索し学内の所蔵を調べることができます。

日本語検索 <http://opac.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=ja>

英語検索 <http://opac.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=en>

携帯電話からも検索可 → <http://opac.lib.kyutech.ac.jp/limedia/i/>

学内に所蔵がない場合 → <http://webcat.nii.ac.jp/> NACSIS Webcat：全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース

6. 文献データベースの検索（一部を除き VPN 接続で学外からも検索可能）

テーマに沿った雑誌論文や新聞記事、データをさがすことができます。

☆国内文献をさがす：主に1年生～3年生からのレベル

- CiNii：学協会発行の学術雑誌と大学等の研究紀要を対象とした論文の引用文献情報データベース。一部本文

の参照も可。 → <http://ci.nii.ac.jp/>

- JDream II：国内や海外の科学技術、医学に関する、学術論文や解説の記事などの抄録付きの文献情報データベース → <http://ninsho.jst.go.jp/loginIP.html>
- 雑誌記事索引検索（国立国会図書館）：国内刊行和文雑誌を対象とした記事データベース
→ <http://opac.ndl.go.jp/index.html>
- 日経BP記事検索サービス：日経BP社が発行する雑誌（約40誌）のバックナンバー記事を、オンライン上で検索・閲覧できるサービス → <http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>
- ヨミダス文書館：読売新聞と“THE DAILY YOMIURI”（英字新聞）とが収録された新聞記事データベースと、「よみうり人物データベース」を提供
→ <https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>
- 理科年表プレミアム：1925年（大正14年）以降最新版までの理科年表の内容を収録
→ <http://www.rikanenpyo.jp/member/>

☆外国文献をさがす：主に卒研究生、院生、教員からのレベル

- JDream II：海外の学術論文の抄録の翻訳を含む。
- Web of Science(Science Citation Index Expanded)：世界的な自然科学系のメジャー雑誌、約6,500誌に掲載された論文の引用関係を効率的に辿ることのできるデータベース。
本学が契約している電子ジャーナルの原著論文へのリンク機能を持つ。
→ <http://isiknowledge.com/WOS>
- INSPEC：物理学、電気工学、エレクトロニクス、コンピュータ分野にわたる世界的な科学技術文献を網羅した優れたリソース、約700万件の書誌事項を収録
→ <http://isiknowledge.com/INSPEC>
- Journal Citation Report on the Web (Science edition)：約200の専門分野にわたる7,000誌以上の、最も引用され・かつ国際的評価の高い学術雑誌が収録し、Impact factorなどの雑誌の重要度、影響度を測るための有用な指標を提供
→ <http://isiknowledge.com/jcr>
- MathSciNet（飯塚キャンパスのみ）：AMS（American Mathematical Society:米国数学会）提供による、世界の数学文献をカバーする包括的な書誌・レビューデータベース
→ <http://www.ams.org/mathscinet/>

7. 電子ジャーナルの検索・閲覧（VPN 接続で学外からも閲覧可能）

文献データベースで検索した原著論文のフルテキストをオンラインで閲覧することができます。

ScienceDirect、SpringerLink、Wiley-InterScience 等はサブジェクト毎のコレクションを有するとともに検索機能をもったデータベースでもあります。学術雑誌約4700タイトルが閲覧可能です。

☆主な電子ジャーナル

- ScienceDirect（Elsevier社）：1970タイトル、自然科学・工学・医学分野他
→ <http://www.sciencedirect.com/>
- SpringerLink（Springer社）：1820タイトル、自然科学・工学・医学分野他
→ <http://www.springerlink.com/>
- Wiley-InterScience（Wiley社）：760タイトル、自然科学・工学・医学分野他
→ <http://www3.interscience.wiley.com/>
- CSDL（IEEE Computer Society Digital Library）：26タイトル、コンピュータサイエンス
→ <http://www2.computer.org/portal/web/csdl>

- APS (American Physical Society) : 7タイトル、物理学 → <http://prola.aps.org/>
- American Chemical Society Web Editions : 34タイトル、化学・応用化学
→ <http://pubs.acs.org/>
- Nature : 6タイトル、Nature本誌と生命科学・材料科学分野 5タイトル
→ <http://www.nature.com/nature/index.html>
- ASME (American Society of Mechanical Engineers) : 23タイトル、機械
→ <http://www.asme.org/Publications/Journals/>
- IMechE (Institution of Mechanical Engineers) : 16タイトル、機械
→ <http://www.pepublishing.com/>

8. 電子ブックの利用

- NetLibrary → <http://www.netlibrary.com/>
OCLC が提供する、大学の学部生向けの基本的な学術図書のコレクションです。
「物理学 30 講シリーズ」、「理工系の数学教室」、「新・数学とコンピュータシリーズ」等
理工系和書（朝倉書店、東京電機大学出版局他）250 タイトルを閲覧できます。
- Springer 社 eBook → <http://www.springerlink.com/>
シュプリンガー・イーブック・コレクションのうち、2005年の全分野（約3000タイトル以上）とEngineering
（工学）分野の2005年から2008年まで（約1600タイトル）を閲覧できます。
- Lecture Notes in Computer Science (Springer 社)
→ <http://www.springerlink.com/content/105633/>
コンピュータ科学や情報技術の研究・開発分野における文献（会議録を含む）を収録するシリーズです。初号
から 1996 年まで閲覧できます。

9. 図書館発信データベースの検索

- 九州工業大学学術機関リポジトリ “Kyutacar (キューテイカー)” : 学内で生産された教育・研究成果情報を
電子的に蓄積・保存し、無償で学内外に発信・提供するインターネット上のデータベース
→ <http://ds.lib.kyutech.ac.jp/dspace/>
- 筑豊歴史写真ギャラリー（情報工学部分館） : 昭和30年代前半まで日本の産業・経済を支え、わが国有数の石
炭生産地であった筑豊の往時の姿を伝える写真データベース
→ <http://search2.libi.kyutech.ac.jp/>
- 博士学位論文 : 九州工業大学で授与された課程博士論文、論文博士論文の論題と目次（要旨）の一覧
→ <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/shiryoannai/thesis/thesis.htm>

10. ビデオオンデマンド教材の閲覧（VPN 接続で学外からも閲覧可能）

丸善BBC等の主に英語教育を目的としたビデオプログラムをVOD配信するサービス

☆戸畑キャンパス → http://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/shiryoannai/vod_tobata/index.htm

- 科学と人間 : クローン時代と生命倫理=Dawn of the Clone Age（英語、日本語字幕版） 他24点
全86巻（若松キャンパスからも閲覧可）

☆飯塚キャンパス → <http://www.lib.kyutech.ac.jp/libi/info/vod.htm>

- 冒険の科学=Rough Science（英語版）テキスト有 6巻 他11点 全42巻

哲学Ⅰ PhilosophyⅠ (月曜1限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

相対主義と普遍主義

古くから存在する相対主義と普遍主義の対立を、さまざまな分野について検討、考察し、現代では無意識のうちにとられがちな相対主義的思考の問題点を浮き彫りにする。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

相対主義、普遍主義、疑似科学

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 相対主義とは何か
- 第2回 さまざまな相対主義
- 第3回 パラダイム相対主義
- 第4回 共約不可能性
- 第5回 科学と合理性
- 第6回 サイエンス・ウォーズ
- 第7回 疑似科学
- 第8回 文化相対主義
- 第9回 翻訳と文化
- 第10回 言語相対主義
- 第11回 サピア・ウォーフ仮説
- 第12回 道徳的相対主義
- 第13回 さまざまな道徳説
- 第14回 道徳の普遍
- 第15回 まとめ

5. 評価方法・基準

期末試験(約70%)および数回のノート提出(約30%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

バーンスタインR.J.,『科学・解釈学・実践：客観主義と相対主義を超えて』1、2(岩波書店、1990)

本館 閲覧室3階 研究用図書 40111B-11 11

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅰ PhilosophyⅠ (月曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

トランスヒューマニズム：人間改造の哲学

コンピュータ技術や医療技術の急速な発展によって、従来の「人間の条件」をも改変するような変革がもたらされるとの予測が一部でなされている。こうした技術発展が近い将来にもたらす可能性のある、人間観、倫理観の根本的変革が何をもたらすかを検討する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

ポスト・ヒューマン 人間の条件 エンハンスメント ヒトゲノム

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 トランス・ヒューマニズムとは何か
- 第2回 新しい人間?
- 第3回 人間の条件
- 第4回 クローン人間
- 第5回 再生医療
- 第6回 新しい優生学
- 第7回 デザイナー・ベビー
- 第8回 エンハンスメント
- 第9回 ポスト・ヒューマン
- 第10回 ヒトゲノム計画
- 第11回 人間を超えるAI
- 第12回 脳のモデル化
- 第13回 ニーチェの「超人」
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(約70%)および数回のノート提出(約30%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

レイ・カーツワイル、『ポスト・ヒューマン誕生：コンピュータが人類の知性を超えるとき』(日本放送出版協会、2007)

本館 閲覧室3階 学生用図書 549.911K-583

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅰ PhilosophyⅠ（金曜2限）

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3年次
学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

地球温暖化論争

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。環境問題を素材に、事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法、他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

●授業の目的

地球温暖化問題については、従来から根強くあった温暖化否定論が近年活発に論じられるようになった。各種温暖化否定論者の主張を検討し、不確実な問題についての合理的判断力を養う。

2. キーワード

地球温暖化、救命艇倫理、環境リスク、世代間倫理

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- 第1～2回 地球温暖化論
- 第3～5回 地球温暖化否定論
- 第6回 レポート検討Ⅰ
- 第7～8回 リサイクルの功罪
- 第9～11回 環境リスク論
- 第12回 レポート検討Ⅱ
- 第13回 世代間倫理
- 第14回 ディープ・エコロジー
- 第15回 救命艇倫理

5. 評価方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

武田邦彦著『偽善エコロジー：「環境生活」が地球を破壊する』（幻冬舎、2008）本館 閲覧室3階 519IT-3

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ PhilosophyⅡ（月曜1限）

対象学科（コース）：全学科 学年：1・2年次
学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

先端医療の急速な発達に伴って、われわれは従来のやり方では十分に扱えない倫理的問題に直面している。人間の生老病死に関わるこのような問題は、専門家のみで解決を任せることはできず、われわれの人間観・死生観に大きな影響を与える可能性を持っている。本講義では、安楽死と脳死移植という現代の「死」に関する倫理的問題を取り上げる。

●授業の目的

先端医療の発達に伴う倫理的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

脳死、尊厳死、自己決定、生命倫理

3. 到達目標

- ・尊厳死および脳死にまつわる倫理的問題を理解する。
- ・それに基づいて、できるだけ一貫した自らの判断ができるようになる。

4. 授業計画

- 第1回 哲学は死の練習
- 第2回 安楽死の二つの概念
- 第3回 安楽死概念の文化的背景
- 第4回 自己決定の諸問題
- 第5回 死の自己決定
- 第6回 <関係>としての死
- 第7回 脳死とは何か
- 第8回 脳死移植の歴史
- 第9回 日本における脳死論議
- 第10回 和田移植の問題
- 第11回 脳死移植に伴う諸問題：免疫系と拒絶反応
- 第12回 免疫系の「自己」
- 第13回 脳死移植をめぐる人間関係
- 第14回 脳死者（ドナー）を「人」として捉える
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。『生と死の倫理学：よく生きるためのバイオエシックス入門』。篠原駿一郎、波多江忠彦編。ナカニシヤ出版、2002。

本館 閲覧室3階 490.11S-7

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ PhilosophyⅡ (月曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

脳・身体・ロボット

近年、人工知能研究やロボット工学の分野で、知能に関する新しいアプローチが提唱されている。それは、人間を環境内存在としてとらえ、脳・身体・環境を相互に作用し合う一体の存在者として、その知能を解明しようとするものである。じつは、このような考え方は身体の哲学にその先駆がある。本講義では、身体の哲学を背景にした新しい知能研究が、知能観、人間観にどのような変革をもたらすかを探る。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

脳、人工知能、身体性

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 インテリジェンス・ダイナミクス
- 第2回 知能とは何か
- 第3回 AIの歴史
- 第4回 記号・情報処理モデルの限界
- 第5回 ニューラル・ネットワーク
- 第6回 力学系
- 第7回 ポランニーの暗黙知
- 第8回 メルロ＝ポンティの身体の哲学
- 第9回 身体図式の獲得
- 第10回 環境内存在
- 第11回 身体性
- 第12回 発達の観点
- 第13回 共同注意
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(約70%)および数回のノート提出(約30%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

土井利忠、藤田雅博、下村秀樹編『脳・身体性・ロボット：知能の創発をめざして』(シュプリンガー・フェアラーク東京、2005)

本館 閲覧室3階 549.911D-

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ PhilosophyⅡ (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

●授業の概要

生殖医療の倫理

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。先端医療を巡る倫理問題の考察を通じて、考える力、論理的表現の力を養う。

●体外受精を前提にした生殖補助医療をめぐる問題のうち、脳死移植および受精卵診断を事例として取り上げる。これら先端医療が、従来の人間観に与える影響の理解を目指す。

2. キーワード

自己決定権、幸福の追求権、パーソン

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 脳死移植の歴史
- 第2～3回 日本の現状
- 第4回 諸外国の現状
- 第5回 病気腎移植
- 第6回 レポート検討Ⅰ
- 第7～8回 受精卵診断
- 第9～11回 「生命の選択」と新優生学
- 第12回 レポート検討Ⅱ
- 第13～15回 生命倫理学の問題

5. 評価方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

『生と死の倫理学』：よく生きるためのバイオエシックス入門。篠原駿一郎、波多江忠彦編。ナカニシヤ出版、2002。

本館 閲覧室3階 490.111S-7

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

倫理学 I Ethics I (月曜1限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代が目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間(自己)の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。(関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。)

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、告白、無からの創造、永遠、時間

3. 到達目標

1. アウグスティヌス著『告白録』に基づいて、超越的神との関係において人間をとらえる宗教的人間観を理解する。
2. 本授業では、まず、哲学と倫理学との関係、哲学とキリスト教との関係を考察し、次に、『告白録』第1巻に基づいてキリスト教の世界観・人間観を概観してから、『告白録』第1巻から第10巻までの要旨を概観し、さらに、第11巻に基づいてアウグスティヌスの時間論を考察することによって神の永遠性と被造物の時間性について理解する。

4. 授業計画

- 第1回 哲学と倫理学
- 第2回 哲学とキリスト教
- 第3回 告白と讃美
- 第4回 神と被造物
- 第5回 人間の罪
- 第6回 神の三位一体と御言の受肉
- 第7回 キリストによる救い
- 第8回 『告白録』第1巻から第10巻までの要旨(1)
- 第9回 『告白録』第1巻から第10巻までの要旨(2)
- 第10回 『告白録』第11巻(1)―旧約聖書創世記巻頭の「始めに神は天地を造りたもうた」の「始めに」の意味
- 第11回 『告白録』第11巻(2)―神の御言と無からの世界創造
- 第12回 『告白録』第11巻(3)―時間とは何か―過去、現在、未来について
- 第13回 『告白録』第11巻(4)―時間と精神
- 第14回 『告白録』第11巻(5)―永遠の現在への精神の集中
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(100%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学 I Ethics I (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代が目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間(自己)の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。(関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。)

2. キーワード

アリストテレス、倫理学、政治学、民主制、寡頭制

3. 到達目標

1. アリストテレスの『ニコマコス倫理学』と呼ばれる著作と『政治学』と呼ばれる著作とは、それぞれアリストテレスの一つの「政治学」の第1部と第2部に当たる著作であるとする観点から、『政治学』と呼ばれる著作を通して、国家・社会的存在としての人間の在り方について考える。
2. 本授業では、まず、倫理学と哲学との関係、倫理学と政治学との関係を概観し、次いで、アリストテレス著『政治学』第1巻から第5巻までの内容を概観した上で、第6巻に基づいて、民主制と寡頭制を組織する固有の方法について考察し、内容を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学(1)
- 第2回 倫理学と哲学(2)
- 第3回 倫理学と政治学
- 第4回 『政治学』第1巻の要点
- 第5回 『政治学』第2巻の要点
- 第6回 『政治学』第3巻の要点
- 第7回 『政治学』第4巻の要点
- 第8回 『政治学』第5巻の要点
- 第9回 『政治学』第6巻について
- 第10回 民主制を組織する固有の方法(1)
- 第11回 民主制を組織する固有の方法(2)
- 第12回 民主制を組織する固有の方法(3)
- 第13回 寡頭制を組織する固有の方法(1)
- 第14回 寡頭制を組織する固有の方法(2)
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(100%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アリストテレス / 山本光雄訳『政治学』(岩波文庫) 081/I-1/6319-6322

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ EthicsⅡ (月曜1限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代が目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間(自己)の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。(関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。)

2. キーワード

アウグスティヌス、キリスト教、告白、無からの創造、天、地、無形の質料

3. 到達目標

1. アウグスティヌス著『告白録』に基づいて、超越の神との関係において人間をとらえる宗教の人間観を理解する。
2. 本授業では、まず、哲学と倫理学との関係、哲学とキリスト教との関係を概観し、次に、『告白録』第1巻に基づいてキリスト教の世界観・人間観を概観してから、『告白録』第1巻から第11巻までの要旨を概観し、さらに第12巻に基づいて無からの天地創造についてのアウグスティヌスの解釈を考察することによってキリスト教の創造の思想を理解することを目指す。

4. 授業計画

- 第1巻 哲学と倫理学
 第2回 哲学とキリスト教
 第3回 告白と讃美
 第4回 神と被造物
 第5回 人間の罪
 第6回 神の三位一体と御言の受肉
 第7回 キリストによる救い
 第8回 『告白録』第1巻から第11巻までの要旨(1)
 第9回 『告白録』第1巻から第11巻までの要旨(2)
 第10回 『告白録』第12巻(1)―「天」についての解釈
 第11回 『告白録』第12巻(2)―「地」についての解釈
 第12回 『告白録』第12巻(3)―無形の質料
 第13回 『告白録』第12巻(4)―「天地」についての様々な解釈
 第14回 『告白録』第12巻(5)―聖書解釈について
 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(100%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ EthicsⅡ (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 堺 正憲

1. 概要

●授業の背景

現代が目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間(自己)の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。(関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。)

2. キーワード

アリストテレス、倫理学、政治学、最高善、教育

3. 到達目標

1. アリストテレスの『ニコマコス倫理学』と呼ばれる著作と『政治学』と呼ばれる著作とは、それぞれアリストテレスの一つの「政治学」の第1部と第2部に当たる著作であるとする観点から、『政治学』と呼ばれる著作を通して、国家・社会的存在としての人間の在り方について考察する。
2. 本授業では、まず、倫理学と哲学との関係、倫理学と政治学との関係を概観し、次いで、アリストテレス著『政治学』の第1巻から第6巻までの内容を概観した上で、第7巻に基づいて、個人と国にとっての最高善、最善の国の構成、最善の国における教育の一般原理、教育の初期段階について考察し、内容を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学(1)
 第2回 倫理学と哲学(2)
 第3回 倫理学と政治学
 第4回 『政治学』第1巻の要点
 第5回 『政治学』第2巻の要点
 第6回 『政治学』第3巻の要点
 第7回 『政治学』第4巻の要点
 第8回 『政治学』第5巻の要点
 第9回 『政治学』第6巻の要点
 第10回 『政治学』第7巻について
 第11回 個人と国にとっての最高善
 第12回 最善の国の構成
 第13回 最善の国における教育の一般原理
 第14回 教育の初期の段階
 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(100%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 教科書・参考書

●教科書

アリストテレス / 山本光雄訳『政治学』(岩波文庫)081/I-1/6319-6322

●参考書

授業の中で必要に応じて指示する。

8. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

歴史学 I History I (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

ヨーロッパの人々が未知の世界に航海し、次々と新しい世界を発見し世界の一体化と世界的な市場の成立が促されたというイメージが「大航海時代」(15世紀末から18世紀)という概念にあてはまる。しかし、最近の歴史学の研究は、この時代に既にアジアやイスラム圏に優れた航海技術が確立され、豊かな地域交易圏が広がっていたことを明らかにしている。大航海時代初めの頃のヨーロッパはそれらを「発見・征服」したのではなく、むしろそれらに「参入」していったのである。授業ではこのような歴史学の新しい視点をとりいれて西洋と東洋の出会いについて考える。

●授業の目的

15世紀末から18世紀を対象時期として、モノの流通に焦点をあてる。交易の成立、国際商業に携わるヒトにも着目し、さまざまな歴史背景を理解した上で具体的なモノ(茶)の歴史と結びつける。広域エリアの人や文化の交流について考えを深める。この当時の歴史が現代の様々な問題につながっていることを理解する。

●授業の位置づけ

中国原産の茶が、インド洋沿岸、アラビア半島、地中海、ヨーロッパへと地球的な規模で流通していった、近世から近代にかけての歴史を追う。茶というモノの流れを時間軸に沿って理解していき、地球規模の流通や食文化、交易ネットワークの成立について考えていく。これらが植民地の形成と大きく関り、その結果現代まで続く経済的な問題を生み出したことを認識する。

2. キーワード

「交易史」「社会史」「モノの歴史学」「茶」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解。(30%)
- ②マクロ・ミクロ史を理解(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②大航海時代とは?・個別事例：スパイス
- ③理論・個別事例：茶
- ④大航海時代：1ポルトガル・スペイン
- ⑤スパイスと北西ヨーロッパ
- ⑥大航海時代：2中核国の推移
- ⑦大航海時代：3オランダ・イギリスの勃興
- ⑧ヨーロッパ各国の東インド会社①
- ⑨ヨーロッパ各国の東インド会社②
- ⑩紅茶・コーヒー・砂糖
- ⑪イギリスの紅茶文化
- ⑫大量消費と植民地生産
- ⑬帝国の揺らぎ
- ⑭植民地：過去・現在
- ⑮期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

- 小テスト 20%
- レポート 20%
- 期末テスト 60%

60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版)11、14』『素晴らしい列車の旅 バイリンガル版1(インド東から西へ)』の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

角山栄『茶の世界史』中公新書、1998年。08111C-111596

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mon1kit@aol.com 1限

Mon2kit@aol.com 2限

歴史学Ⅰ History I (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

現代日本に暮らす私たちは「資源」「開発」というキーワードに対してどのようなイメージを描くだろうか。資源を保有する地域が豊かであると考えるのが一般的なのかもしれない。しかし、世界には資源を保有しているにもかかわらず、その恩恵が人々に十分にいきわたらず、社会に大きな格差が生まれている地域も多い。ヨーロッパ諸国やアメリカが世界の資源開発に着手した大航海時代から19世紀の植民地時代までを通観することで、資源開発に関わる人・国家・物・私企業の関係性の変遷が見えてくる。

●授業の目的

17世紀から19世紀を対象時期として、歴史上の資源開発に焦点をあてる。資源とは何か、資源の所有権、資源開発のプロセス、資源の開発、生産、流通に関する人々の役割、資源開発にともなう諸問題(環境・グローバル化・貧富格差等)について事例を交えて学び歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「資源」や「開発」はヨーロッパやアメリカの経済の歴史を理解する上で、重要なキーワードである。しかし、現代の大規模鉱山は中東、アフリカやラテン・アメリカなど、西洋諸国とは異なるエリアに存在するものが多い。日本でもほんの数十年前まで石炭を中心とする大規模鉱山が各地に存在したが、今や産業遺跡としてのみ形をとどめているものも少なくない。授業ではまず、西洋や植民地における資源の種類(金属・化石燃料等)について個別に学ぶ。また鉱業技術の発達や鉱夫の労働・コミュニティのあり方を理解し、鉱山社会(ヤマ社会)について検討する。資源と開発という現代的な問題をその起源から洗いだしていく。

2. キーワード

「資源」「開発」「技術」「グローバル化」「西洋」「植民地」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解。(30%)
- ②マクロ・ミクロ史を理解(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学方法論
- ③資源と歴史
- ④植民地と開発
- ⑤個別事例 金属1 開発
- ⑥ 2 生産
- ⑦ 3 流通
- ⑧小テスト
- ⑨個別事例 石炭1 開発
- ⑩ 2 生産
- ⑪ 3 流通
- ⑫個別事例 ゴム1 開発
- ⑬ 2 生産
- ⑭ 3 流通
- ⑮期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

- ・成績評価レポート① 20%
 - ・レポート② 30%
 - ・期末テスト 50%
- 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版)11、14』『素晴らしい列車の旅 バイリンガル版4(東南アジア豪華な気分で)』の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

山口梅太郎『放送大学印刷教材140(現代資源論: 鉱物資源とその開発)』1986年。375.9H-2H140

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Fri2kit@aol.com

歴史学Ⅱ History A Ⅱ (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

電気や水道、ガスもない時代(近世・近代)に、イギリスの都市に暮らす人々の生活はどのようなものだったのか。当時の人々は何を食べて、何を楽しみにして何を恐れながら暮らしていたのだろうか。この時代のイギリスには、「宗教改革」や「革命」など年表に記されるような大事件が起こっているが、年表にあらわれることのない当時の普通の人々の暮らしと、このような大事件はどのように交わっていたのか。18世紀末から19世紀にかけてロンドン市は世界で最も早く工業化、都市化を経験し、この時期に起こった大きな変化は現代社会と共通の問題点を数多く生み出した。このような長期に渡る変化の過程を追いつつ、現代社会の諸問題の起源を探る。

●授業の目的

16世紀から19世紀を対象時期として、イギリス史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会など、歴史上のさまざまな都市の事例を見ていく。それらの事例から、歴史学の重要な考え方である社会史の考え方を学び、ヨーロッパ社会の歴史を理解していく。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。これらが西洋で成立した過程を詳しくたどることで、「市民として都市でくらす」ことの歴史的な変化を把握する。また、個別事例としてロンドンを中心にみていく。地球の裏側であるヨーロッパの過去の都市に生きた人々について、生活、レクリエーション、信仰、職業・福祉など幅広い視点で考える。

2. キーワード

「都市史」「社会史」「文化史」「近世近代」「イギリス」「ロンドン」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解(30%)
- ②マクロ・ミクロ史を理解(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②歴史学方法論
- ③西洋中世都市モデル
- ④都市の人口規模比較
- ⑤個別事例 1 成立過程
- ⑥ 2 都市社会構造
- ⑦ 3 社会分極化
- ⑧ 小テスト
- ⑨ 4 都市文化
- ⑩ 5 新興都市
- ⑪ 6 都市化・工業化
- ⑫ 7 貧困と福祉
- ⑬ 8 植民地と都市
- ⑭ 9 都市と外国人
- ⑮ 期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。小テスト、期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。小テスト後に履修者例等集を用いた解説を行い、内容、論述形式のテストについて技術的な説明を行う。またレポートでは指定されたテーマについて調査・分析し表現する力を評価する。

●成績評価

- 小テスト 20% 2問(各10点)
- レポート 20%

期末テスト 60% 3問(25点2問、30点1問)

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD:『サイモン・シャーマの英国史 英語(日本語字幕版) 7、8、11、14』(図書館HP参照)の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』刀水書房、1999年。233.3II-11b

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mon1kit@aol.com 1限: Mon2kit@aol.com 2限

歴史学Ⅱ History A Ⅱ (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

現在日本に暮らす私たちの「都市」に対するイメージは、ヨーロッパの歴史の中の「都市」とはかなり異なっている。中世の西洋の都市は、一般的に人口1万人程度、高い壁で四方を囲まれ、市門は夜間自衛のために閉ざされていた。誰もが「市民」になれるわけではなく、長い年月をかけて、限られた人間に限られた手段を通してようやく市民権獲得することができたのである。16世紀以降になると、これらの都市の中から、成長を続けて巨大な人口を抱えるようになる大都市が出現する。近現代的な都市の誕生であり、現代人にとっての「大都会」のイメージが徐々に形作られてくる。

●授業の目的

16世紀から18世紀を対象時期として、歴史上の都市に焦点をあてる。都市の成立プロセス、都市の生活と社会に関して、さまざまな歴史上の都市の事例を学ぶ。それらの事例を個別に学んだ上で、歴史学における重要な考え方である、比較史の方法を学ぶ。さらに、ヨーロッパ社会の歴史的な理解を深める。

●授業の位置づけ

「都市」や「市民」の概念はヨーロッパの社会を理解する上で、重要なキーワードである。授業ではまず、これらが西洋で成立した過程を詳しくたどる。「市民として都市で暮らす」ということが、現代日本の我々が持つイメージとは異なり、時間を追って変化してきたことを理解する。また、個別事例では、当時人口が増大し巨大都市化が進んだ点が共通する、近世の江戸・ロンドン・パリという3つの首都を見ていく。その上で、過去のヨーロッパの都市と過去の日本の都市という時空の離れた事例から、「都市」を多角的に捉える。

2. キーワード

「都市史」「社会史」「比較史」「近世の首都」「ロンドン」「パリ」「江戸」

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解(30%)
- ②マクロ・ミクロ史を理解(40%)
- ③日本語による歴史記述を習得(30%)

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②ヨーロッパとイギリス
- ③西洋中世都市モデル
- ④3つの首都の人口比較
- ⑤個別都市事例 江戸 1 成立過程
- ⑥ 2 都市社会構造
- ⑦ 3 身分制社会
- ⑧小テスト
- ⑨個別都市事例 パリ 1 成立過程
- ⑩ 2 都市社会構造
- ⑪小テスト解説 3 宗教戦争
- ⑫個別都市事例 ロンドン 1 成立過程
- ⑬ 2 都市社会構造
- ⑭ 3 社会分極化
- ⑮期末試験

5. 評価方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。レポートは学期半ばと授業終了時に計2本提出する。

●成績評価

- レポート① 20%
 レポート② 30%

期末テスト 50%

60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

なお、授業外学習としてVOD：『サイモン・シャーマの英国史英語(日本語字幕版)11、14』(図書館HP参照)の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

参考文献

イギリス都市・農村共同体研究会編『巨大都市ロンドンの勃興』刀水書房、1999年。233.3ⅡI-1Ⅱb

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Fri2kit@aol.com

文学Ⅰ LiteratureⅠ (月曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 石井 和夫

1. 概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つか、描かれた「都市」に焦点を当ててアプローチする。

●授業の目的

文章を読むための技術について理解を促す。反覆表現が作家の意識・無意識の読者に向けたサインになっている点を手がかりにする。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点は変わらない。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想・着想という広い視野から授業を位置づけたい。

2. キーワード

読解 独創 社会

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

4. 授業計画

- 第1回 反覆表現読解の実例1 (講義ガイダンス)
- 第2回 反覆表現読解の実例2
- 第3回 泉鏡花「夜行巡査」
- 第4回 樋口一葉「十三夜」
- 第5回 田山花袋「少女病」
- 第6回 国木田独歩「窮死」
- 第7回 中間試験(作文)
- 第8回 谷崎潤一郎「秘密」
- 第9回 志賀直哉「小僧の神様」
- 第10回 芥川龍之介「舞踏会」
- 第11回 梶井基次郎「檸檬」横光利一「街の底」
- 第12回 中野重治「交番前」堀辰雄「水族館」
- 第13回 江戸川乱歩「目羅博士」織田作之助「木の都」
- 第14回 三島由紀夫「橋づくし」大江健三郎「人間の羊」
- 第15回 筆記試験(期末試験)

5. 評価方法・基準

出席点(10点) 中間試験(作文 800字)(10点)
 期末試験(作文 800字)(80点)
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視
 (3分の2以上出席しなければ期末試験は受けられない)。

7. 教科書・参考書

●教科書

東郷克美・吉田司雄編『近代小説「都市」を読む』(双文社出版 2100円) 913.6/T-187/2

●参考書

ガイダンス、および講義中にその都度指示する。

8. オフィスアワー

文学Ⅰ LiteratureⅠ (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつという働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の意見に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、「文学」と題して、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみることにする。ここでいう古典とは、時間や空間の変遷にも色褪せず、作品の魅力を発揮するものである。

●授業の位置付け

12回に分けて文学作品を輪読し、文学作品の読解力をつけ、作品に描かれたものごとの理解力を深め、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

日本近代文学・夏目漱石

3. 到達目標

文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。現代文学の紹介をとおして文学とはどのようなものかを考える。
- 第2回 樋口一葉『たけくらべ』
- 第3回 泉鏡花『高野聖』
- 第4回 島崎藤村『破戒』
- 第5回 夏目漱石『こころ』
- 第6回 森鷗外『高瀬舟』
- 第7回 芥川龍之介『奉教人の死』
- 第8回 宮沢賢治『よだかの星』
- 第9回 谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第10回 川端康成『雪国』
- 第11回 太宰治『人間失格』
- 第12回 三島由紀夫『仮面の告白』
- 第13回 遠藤周作『海と毒薬』
- 第14回 まとめ・期末試験の説明。
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(80%) 出席および授業への積極的態度状況(20%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るため、遅れずに着席すること。教科書で取り上げる作品は抜粋なので、授業後、各自で作品全体をなるべく読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『文学を読む』花書院

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー

九州女子大学人間科学部荻原研究室(ogihara@kwuc.ac.jp)

文学Ⅱ LiteratureⅡ (月曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 石井 和夫

1. 概要

●授業の背景

日本の近代を明治大正昭和期の作家がどうとらえたか、それは現代においてどういう意味を持つかという問題にアプローチする。

●授業の目的

異界という概念を軸に人間の想像力の持つ意味をとらえる。

●授業の位置付け

文学は工学とジャンルは異なるけれども、独創を求めることが重要である点は変わらない。作品の読解が文章表現で行われる限りそれは一種の創作であり、そこに独創的な読みを導くアイデアが必要になる。発想・着想という広い視野から授業を位置づけたい。

2. キーワード

異界 想像力 臨界点

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。

4. 授業計画

- 第1回 反復表現読解の実例1 (講義ガイダンス)
 (印刷資料を用いて作品読解の方法にふれる。)
- 第2回 反復表現読解の実例2
- 第3回 泉鏡花「龍潭譚」
- 第4回 永井荷風「狐」
- 第5回 佐藤春夫「西班牙犬の家」
- 第6回 谷崎潤一郎「母を恋ふる記」
- 第7回 中間試験
- 第8回 芥川龍之介「奉教人の死」
- 第9回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」夢野久作「瓶詰の地獄」
- 第10回 梶井基次郎「Kの昇天」萩原朔太郎「猫町」
- 第11回 中島敦「狐憑」井伏鱒二「へんろう宿」
- 第12回 太宰治「魚服記」岡本かの子「川」
- 第13回 川端康成「水月」
- 第14回 井上靖「補陀落渡海記」
- 第15回 筆記試験(期末試験)

5. 評価方法・基準

出席点(10点) 中間試験(作文 800字)(10点)
 期末試験(作文 800字)(80点)
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視

(3分の2以上出席しなければ期末試験は受けられない)。

7. 教科書・参考書

●教科書

東郷克美・高橋広綱編『近代小説[異界]を読む』(双文社出版 2000円)913.6/T-195

●参考書

- 1) トドロフ『幻想文学』(ちくま学芸文庫)904/T-5
- 2) サルトル『想像力の問題』(人文書院)958/S-1/12-b

8. オフィスアワー

文学Ⅱ LiteratureⅡ (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 萩原 桂子

1. 概要

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と思考力を高める。

●授業の位置付け

毎回、現代文学を輪読し、作品の読解力をつけ、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

現代文学・読解力・思考力・表現力

3. 到達目標

文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読書力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。現代文学を読む意味について。
- 第2回 松本清張『或る「小倉日記」伝』
- 第3回 大江健三郎『死者の奢り』
- 第4回 中上健次『一九歳の地図』
- 第5回 宮本輝『蜩川』
- 第6回 村上龍『コインロッカー・ベイビーズ』
- 第7回 山田詠美『ベッドタイムアイズ』
- 第8回 吉本ばなな『キッチン』
- 第9回 宮部みゆき『理由』
- 第10回 綿谷りさ『蹴りたい背中』
- 第11回 金原ひとみ『蛇にピアス』
- 第12回 川上弘美『神様』
- 第13回 村上春樹『1Q84』
- 第14回 まとめ・期末試験の説明。
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験(80%)出席および授業への積極的態度(20%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回出席を取るのので、遅れずに着席すること。授業で紹介した文学作品をなるべくたくさん読むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

『現代を読む』(花書院)

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー

九州女子大学 萩原研究室(ogihara@kwuc.ac.jp)

心理学Ⅰ Psychology I (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 麦島 剛

1. 概要

●授業の概要

心理学はこころの法則性についての実証的な学術である。その研究対象は多岐に及び、各々にふさわしい研究方法がある。このため、心理学は大きく二分される。一つは、実験研究によって実証する分野であり、知覚・認知・記憶・学習などが扱われる。もう一つは、調査や面接などによって実証する分野であり、教育・人間関係・産業社会・こころの不調などが扱われる。この授業では、前者の領域、つまり実験心理学について概説する。

●授業の目的

実験心理学の諸分野について満遍なく概観し、そのエッセンスを理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。

2. キーワード

実験心理学・知覚・認知・記憶・学習・生理心理学

3. 到達目標

実験心理学全般に対する知識(理論と現象の両面)を身に付けること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・こころのサイエンスとは？
- 第2回 心理学史
- 第3回 生理心理学1 神経系の構造と機能(1)
- 第4回 生理心理学2 神経系の構造と機能(2)
- 第5回 生理心理学3 神経系と意識・情動・記憶・思考との関係
- 第6回 ストレス理論1 生理学的ストレス理論
- 第7回 ストレス理論2 心理学的ストレス理論とストレスコーピング
- 第8回 知覚心理学1 視覚系の知覚 内的世界と外的世界は同一なのか？
- 第9回 知覚心理学2 聴覚系の知覚 音の精神物理学
- 第10回 認知心理学1 注意とその障害
- 第11回 認知心理学2 記憶とその障害
- 第12回 学習心理学1 学習の2つのプロセス
- 第13回 学習心理学2 学習理論の応用(臨床心理学やマイクロ経済学への応用)
- 第14回 まとめ 実験心理学の今後の方向性
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

試験80%(中間の確認テストを含む)、出席20%で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

教科書：定めない。適宜、印刷資料を配布する。
 参考文献：例えば、木村裕他(2000)『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレイン社 140/K-7/2
 西本武彦他(2009)『現代心理学入門』川島書店

8. オフィスアワー

質問等は、授業直後、あるいは本務校 E-mail (mugi@fukuoka-pu.ac.jp) にて受付。

心理学Ⅱ Psychology II

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期 後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 今村 義臣

1. 概要

●授業の背景

脳科学の発展により、従来の哲学、宗教、あるいは心理学で培われてきた人間観が大きく変化しようとしている。脳は、以前に考えられていたようなブラックボックスでは決してない。脳を知ることが、生きる意味を知ることにつながる。その知識を、認知科学としての現代心理学は与えてくれる。

●授業の目的

“意識とは何か”を統一テーマに最近の脳科学の諸知見を交えながら心理学のさまざまな研究分野を紹介していく、最終的には現代における人間理解に役立つような講義にしたい。

●授業の位置付け

人間に関わる他の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

脳科学、行動科学、認知科学

3. 到達目標

- ①教育・社会系心理学全般に対する知識(理論と現象の両面)を身に付けること。
- ②社会や臨床の場面で生じている事象を心理学あるいは脳科学的に理解すること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 脳と心1 脳と心の考え方について心理学の立場を紹介する。
- 第3回 脳と心2
- 第4回 視覚的意識1 意識研究では最も進んでいる分野である視覚の情報処理を概観する。特に無意識的処理の役割について考察する。
- 第5回 視覚的意識2
- 第6回 視覚的意識3
- 第7回 視覚的意識4
- 第8回 無意識の再考1 分割脳、幻肢、あるいは、共感覚等を紹介しながら脳のメカニズムを見ていく。また、神経生理学的立場から再考したフロイドの無意識について考察する。
- 第9回 無意識の再考2
- 第10回 無意識の再考3
- 第11回 無意識の再考4
- 第12回 情動と意識1 意識における情動の役割を社会心理学や脳神経生理学の諸知見を交えて考察する。
- 第13回 情動と意識2
- 第14回 情動と意識3

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

- 教科書
 使用しない。適宜資料を配付する。
- 参考書
 適宜紹介する。

8. オフィスアワー

E-mail アドレス gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp
 月曜1・2限

心理学Ⅱ PsychologyⅡ (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 麦島 剛

1. 概要

●授業の概要

近年の社会変化(格差社会への変化等)に伴う抑うつ・自殺・いじめなどの臨床心理学的問題がひろく注目されるようになった。また、ゆとり教育・習熟度別授業・特別支援学校(学級)など、教育をめぐる議論が盛んである。これらの問題の検討と解決のためには、確かな心理学理論の理解が必要となる。

心理学Ⅰが実験心理学の概説であるのに対し、本授業では教育・社会系心理学を概説する。

●授業の目的

教育・社会系心理学について理解し、総合的な人間理解の一角を築くことを目的とする。なお、前期に心理学Ⅰ(麦島)を受講しているほうが本授業を理解しやすいと思われる。

2. キーワード

発達心理学・人格・知能・臨床心理学・心理療法・社会心理学・組織心理学

3. 到達目標

- ①教育・社会系心理学全般に対する知識(理論と現象の両面)を身に着けること。
- ②社会や臨床の場面で生じている事象を心理学あるいは脳科学的に理解すること。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション ころの問題の高まりについて
- 第2回 発達心理学1 発達理論の基本
- 第3回 発達心理学2 ピアジェの理論を中心とした発達理論(1)
- 第4回 発達心理学3 ピアジェの理論を中心とした発達理論(2)
- 第5回 教育心理学 発達障害児への支援を中心に
- 第6回 人格と知能の心理学1 性格とは?
- 第7回 人格と知能の心理学2 知能とは?
- 第8回 臨床心理学1 精神病理学
- 第9回 臨床心理学2 各種の心理療法(1)
- 第10回 臨床心理学3 各種の心理療法(2)
- 第11回 社会心理学1 社会的認知
- 第12回 社会心理学2 対人行動
- 第13回 組織心理学 組織行動論に基づく成果主義的人事の検討
- 第14回 まとめ 心理学と現代社会
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

試験80%(中間の確認テストを含む)、出席20%で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

教科書：定めない。適宜、印刷資料を配布する。

参考文献：例えば、木村裕他(2000)『はじめてまなぶ心理学・第二版』アートアンドブレイン社 140/K-7/2

西本武彦他(2009)『現代心理学入門』川島書店

8. オフィスアワー

質問等は、授業直後、あるいは本務校E-mail(mugi@fukuoka-pu.ac.jp)にて受付。

教育心理学 Educational Psychology (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 今村 義臣

1. 概要

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。ここでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

- ①教育心理学で最低必要な知識(発達、学習、人格と適応、障害児教育等)の習得すること。
- ②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につけること。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発達1 ころ(脳)の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
- 3回 発達2
- 4回 発達3
- 5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
- 6回 学習2
- 7回 学習3
- 8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
- 9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
- 10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
- 11回 人格と適応2
- 12回 人格と適応3
- 13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
- 14回 障害児2
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

中西信男・三川俊樹編『新教職課程の教育心理学』ナカニシヤ出版 371.4/N-19

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー

E-mail アドレス：gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育学 I Pedagogy I (月曜 2 限)

対象学科(コース) : 全学科 学年 : 1・2 年次
 学期 : 前期 単位区分 : 選択必修 単位数 : 2 単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

家族と教育に焦点を合わせる。普遍的な現象と考えられがちな家族であるが、その形態や機能は、時代や文化によって様々に変化する。本講義では、家族が有する形態や機能を理解したうえで、現代日本の家族を取り巻く諸問題について考察を深められるようにする。

●授業の位置付け

まず、時代及び文化による家族のあり方の多様性について講義する。その上で、現代我々が自明視している家族が登場する過程について概観する。そして、現代家族が持つ教育機能とともに、それを取り巻く多様な問題群について考察を深められるようにする。

2. キーワード

近代家族 少子化 性別役割分業

3. 到達目標

- ① 家族に関して相対的・批判的な思考方法を獲得できるようにする。
- ② 現代家族を取り巻く諸問題について、自らの思考や考えを深められるようにする。
- ③ それらを的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 家族の誕生
- 2 回 日本近代家族の誕生
- 3 回 結婚への途
- 4 回 結婚を阻まれる人たち
- 5 回 少子化は悪か？
- 6 回 生殖技術と家族
- 7 回 中絶と避妊のポリティクス
- 8 回 「子をもつ」ということ
- 9 回 青年期と家族
- 10 回 児童虐待のポリティクス
- 11 回 家族のリストラクチャリング
- 12 回 現代の家族政策(1) - 教育政策と家族 -
- 13 回 現代の家族政策(2) - 社会保障政策・労働政策 -
- 14 回 新しい「家族」のカタチ
- 15 回 試験

5. 評価方法・基準

小レポート 30%
 期末レポート 70%

レポート評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- 最高裁判所のホームページなどを通して、家族に関する判例に目を通すこと。
- その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。
- 参考文献
 広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書 379.9/H-3
 山田昌弘『パラサイトシングル時代』ちくま新書 367.4/Y-1

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
 higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学 I Pedagogy I (金曜 2 限)

対象学科(コース) : 全学科 学年 : 2・3 年次
 学期 : 前期 単位区分 : 選択必修 単位数 : 2 単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

現代日本の教育問題について、臨床教育社会学の立場から講義する。講義を通して、教育問題に関する一定の理解を得るとともに、巷間に流布している教育言説を相対化しうる視点を獲得することを目的とする。また、レポート課題を通して、文章表現能力の育成も目的とする。

●授業の位置付け

本講義では、臨床教育社会学という立場から教育問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。と同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

2. キーワード

教育問題・教育病理 臨床教育社会学 社会問題の構築主義

3. 到達目標

- ① 現代日本の教育問題に関する理解を深める。
- ② 教育問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な教育言説を相対化する視点を獲得。
- ③ レポート課題を通して、文章表現能力を高める。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 臨床教育社会学と社会問題の構築主義
- 2 回 少年犯罪言説と少年法改正
- 3 回 少年司法のポリティクス
- 4 回 地域防犯活動と子どもの安全環境
- 5 回 被害者なき犯罪
- 6 回 淫行規制条例のポリティクス
- 7 回 「有害メディア」規制のポリティクス
- 8 回 ニートとは誰か？
- 9 回 フリーターはフリーなのか？
- 10 回 児童虐待と監視される家族
- 11 回 不登校と公教育の揺らぎ
- 12 回 いじめ自殺と子ども・家族・学校
- 13 回 マイノリティと学校教育
- 14 回 ジェンダーフリー教育論争
- 15 回 試験

5. 評価方法・基準

小レポート 30%
 期末レポート 70%

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ① 講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ② 最高裁判所のホームページなどを用いて、少年事件や憲法・刑法に関する判例に目を通すこと。
- ③ その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。
- 参考文献
 酒井朗編著『学校臨床社会学』放送大学出版社 375.9/H-4
 浜井浩一他『犯罪不安社会』光文社 368.6/H-2

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
 higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ PedagogyⅡ (月曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

近年、子どもの位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも子どもとは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護と教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、子どもにまつわる保護と権利、責任、自由といった考え方、また子どもそのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのかを探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において子どもが生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

2. キーワード

子ども観 日本国憲法 子どもの権利条約 自己決定権 セクシュアリティ

3. 到達目標

- ①子どもの相対性・構築性について理解すること。
- ②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。
- ③それらを的確に表現できるようにすること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 子どもの権利条約
- 2回 教育権論争
- 3回 教科書裁判
- 4回 義務教育就学拒否は可能か？
- 5回 国公立女子校に男子は入学できるのか？
- 6回 校則と自己決定権
- 7回 思想・信条の自由と学校
- 8回 神の掟と学校の掟
- 9回 内申書開示請求事件
- 10回 体罰と子どもの人権
- 11回 学校事故と過失犯
- 12回 学校事故と国賠請求事件
- 13回 いじめ自殺の家族・学校・子ども
- 14回 子どもとセクシュアリティ
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

小レポート 30%
 期末レポート 70%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、少年事件や憲法・教育法に関する判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。
- 参考文献

東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版 367.6/H-3
 佐々木幸寿他『憲法と教育』学文社 本館 図書館 373.2/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ PedagogyⅡ (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

現代教育が果たす、社会的選抜や人材養成の機能について講義する。特に、現代の高等教育が産業や社会にどういった役割を果たし、個人の志向と社会からの要請とをマッチングさせているのか、あるいはさせていないのかについて理解することを目的とする。そこから、自身が現在所属している高等教育や、近い将来参加するであろう産業や政治の問題点を批判的に考察しうる視点及び表現力を獲得することも目的とする。

●授業の位置付け

現代教育は、個人の人格の完成を目指しつつ、個人を適切な社会的地位へと振り分ける選抜・配分の機能も同時に果たしている。そこから、社会が要請する人材と教育が完成しようとする人間像との一致や矛盾、齟齬なども生み出される。本講義では、現代の高等教育や教育政策の有効性や限界を反省的に考察できる視点を獲得することを目的とする。

2. キーワード

選抜・配分 人材養成・人的資本論 教育投資 教育政策・教育改革 高等教育

3. 到達目標

- ①教育の持つ選抜・人材養成機能について理解すること。
- ②現代の高等教育や教育政策の有効性・限界を把握できるようにすること。
- ③文章表現能力を身につけること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 教育と社会・経済・政治
- 2回 個人的投資としての教育
- 3回 社会的投資としての教育
- 4回 途上国の教育問題
- 5回 高学歴化と職業構造の変化(1)
- 6回 高学歴化と職業構造の変化(2)
- 7回 採用への途
- 8回 ニートとは誰か？
- 9回 フリーターはフリーなのか？
- 10回 働く男、働く女
- 11回 日本型学歴主義の展開
- 12回 教育改革論(1)
- 13回 教育改革論(2)
- 14回 教育改革論(3)
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

小レポート 30%
 期末レポート 70%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献に各自目を通すこと。
- ②各大学のホームページや企業の求人広告、就職サイトなどに授業時間外に目を通し、大学や就職に関する基礎的な知識を身につけておくこと。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。
- 参考文献

マーチン・トロウ『高学歴社会の大学』新潮選書 377/T-3
 天野郁夫『学歴の社会史』UP選書 372.1/A-3

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育原理 Principle of Education (月曜1限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育
職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ① 自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ② 多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③ それらを的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 「教育」及びその近接概念について
- 2回 教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
- 3回 教授法の変遷に見る教育観
- 4回 「子ども」と「大人」の思想史
- 5回 教育と子育て
- 6回 諸外国及び日本の学校教育制度の概要
- 7回 近代日本の教育の歴史と法制
- 8回 初等教育の現状と課題
- 9回 中等教育の現状と課題
- 10回 家族・学校・地域の連携
- 11回 不登校といじめ
- 12回 児童虐待
- 13回 少年非行
- 14回 現代教育の再構築-情報化社会と生涯学習-
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

小レポート 30%
期末テスト 70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育社会学 Sociology of Education (月曜1限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置づけ

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 文化伝達としての教育—育児としつけ—
- 2回 文化的再生産と教育—家族・階層・言語—
- 3回 エスニシティと教育—人種、民族、国家—
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 メディアと教育
- 6回 子ども文化の変遷と現在
- 7回 若者文化の変遷と現在
- 8回 少年非行の社会学
- 9回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10回 学力とカリキュラムの社会学
- 11回 学校教育と職業
- 12回 教育政策の変遷と現在
- 13回 学校経営の現代的課題(1)
- 14回 学校経営の現代的課題(2)
- 15回 試験

5. 評価方法・基準

成績評価

小レポート	30%
期末テスト	70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は、必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

- 荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/S-8
 柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 376.3/S-3

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学 Introduction to Japanese Law (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法が存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

私達の日常の生活関係を規律する法が存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得し、社会における人間関係の有るべき姿を考えるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 法学を学ぶ意味、法の世界観
- 第2回 法律とは何か、判例とは何か
- 第3回 法源、主要法典、法適用の原則を知る。
- 第4回 法律の解釈の仕方を知る①
- 第5回 法律の解釈の仕方を知る②
- 第6回 私法入門—民法の指導原理
- 第7回 民法上の権利
- 第8回 権利の限界—私権の公共性
- 第9回 権利の担い手としての資格①
- 第10回 権利の担い手としての資格②
- 第11回 権利の対象となる財産
- 第12回 取引行為と法①
- 第13回 取引行為と法②
- 第14回 取引行為と法③

5. 評価方法・基準

期末試験の結果(100%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 五十嵐 清著 民法入門 [改訂3版] 有斐閣 324/I-2
- 2) 石川他編集代表『法学六法'10』信山社 320.9/I-1/09

●参考書

- 1) 中川 善之助著 泉 久雄補訂 [補訂版] 法学 日本評論社 321/N-8
- 2) 佐藤幸治他著『法律学入門(第3版)』有斐閣 321/S-6
- 3) 我妻栄=有泉亨=川井健『民法第2版1総則・物権法』勁草書房 324
- 4) 川井 健 『民法総則第3版』有斐閣 324

8. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて日本国憲法の改正論議が盛んになってきています。我々にとって憲法とは何なのか、憲法の意味やその内容を正確に理解し、問題状況を把握し、その本質を見極めたうえで憲法の有るべき姿を考えなければならない時期がきています。

●授業の目的

日本国憲法が保障する国家統治の機構や、基本的人権保障制度の枠組みや目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意味や問題状況を理解することを目的としています。

●授業の位置づけ

国家統治の機構、基本的人権の保障が講義の中心ですが、憲法は、政治と密接な関係がありますから、憲法を学ぶことは、政治のあるべき姿を考える上でのきっかけとなりますし、我々が、個人として政治や国家といかに関わるべきかを考える上での有益な素材をえることができると思います。

2. キーワード

人権保障、自由、平等、平和、議会制民主主義

3. 到達目標

基本的人権がどのような仕組みのもとで守られるようになっていくのかということを理解し、これから基本的人権をどのようにして守っていくべきなのかを主体的に考えることができるようになって欲しいと思います。

4. 授業計画

- 第1回 国家と法
- 第2回 憲法の意味・特質
- 第3回 日本憲法史
- 第4回 国民主権の原理
- 第5回 基本的人権の原理
- 第6回 法の下での平等・生命・自由・幸福追求
- 第7回 内心の自由
- 第8回 表現の自由
- 第9回 経済的自由
- 第10回 人身の自由
- 第11回 参政権・社会権
- 第12回 平和主義の原理
- 第13回 国家統治の機構①－国会・内閣
- 第14回 国家統治の機構③－裁判所・憲法保障

5. 評価方法・基準

期末試験の結果(100%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

講義には毎回出席すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 伊藤 正巳 著 憲法入門〔第4版〕有斐閣 323.1/I-17
- 2) 石川他編集代表『法学六法'10』信山社 320.9/I-1/09

●参考書

- 1) 清宮 四郎 著 憲法I〔第3版〕有斐閣 323.1/K-12/1
- 2) 宮沢 俊義 著 憲法II〔新版〕有斐閣 323.1/K-12/2
- 3) 佐藤 功 著 日本国憲法概説〔全訂五版〕学陽書房 323.1/S-5/5
- 4) 芦部 信喜 著 高橋和之 補訂 憲法 第三版 岩波書店 323.1/A-10

8. オフィスアワー

講義の前後質問があればいつでも受け付けます。

社会学 I Sociology I (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

いつの時代にもまして現代を危機的な時代と捉える見方がある。人類はそのように危機にみまわれる時代を、できるだけ客観的に捉える努力してきた。人間と社会現象を観察し、記述し、そしてそこに規則性を発見することである。それは、それは人と社会のよりよい意思決定を支援することにつながる。この講義はその活動の一分野である社会学を学ぶ授業である。

●授業の目的

社会学の諸理論、すなわち行為理論、コミュニケーション理論、相互作用論、集団理論、社会階層理論、紛争理論、集合行動理論、資源配分理論、逸脱と統制の理論、社会的選択理論などを学び、それらの応用によって、マスコミ、経済、政治、家族、ジェンダー、社会階層、民族、都市、医療、教育などについて知識をふやし、かつそれらの社会的な分析と表現の力を習得することを目的とする。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会的な知識と分析を実践し、論理的な思考と表現の力をつけることを促すような編成となっている。

2. キーワード

動機、価値志向、合理的選択、集合行動、意図せざる結果

3. 到達目標

- ①社会学の基礎概念と理論の基礎を習得すること
- ②マスコミ、社会階層、社会組織、教育、福祉、犯罪などの基礎知識をえること
- ③それらを社会的に分析し議論する力を習得すること

4. 授業計画

- 第1回 導入講義
- 第2回 個人と集団と国家(1)
- 第3回 マスコミ
- 第4回 経済と社会
- 第5回 政治と社会
- 第6回 格差と社会階層
- 第7回 ジェンダー
- 第8回 教育
- 第9回 医療
- 第10回 自殺
- 第11回 犯罪
- 第12回 都市
- 第13回 家族
- 第14回 福祉社会
- 第15回 個人と集団と国家(2)

5. 評価方法・基準

中間試験(30%)、期末試験(50%)、レポート(20%)によって評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。予習・復習とレポートの提出が要求される。

7. 教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

井上の研究室(総合教育棟3階)の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

社会学Ⅰ Sociology I (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

人間行動と社会をできるだけ科学的に捉えようとする人類の長い精神史がある。社会科学の重要な努力の一つは、社会現象を量的に測定し、さらにそこに規則性を発見することにある。それは人と社会のよりよい意思決定を支援することにつながる。この講義はその活動の一分野である計量社会学を学ぶ授業である。

●授業の目的

前期に引き続き、社会を計量社会的にとらえる方法を学ぶ。測定、確率、平均、分散などの基礎概念の理解、社会調査の基本的な枠組み、クロス表分析、回帰分析、分散分析の理論と技法の基礎を学習し、その応用を具体的なデータを用いて学び、それらを通して現代社会の仕組みを理解することが、目的である。

●授業の位置づけ

これは金曜日の2限に開講される選択必修であるが、「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。

2. キーワード

社会調査、クロス表分析、回帰分析、検定、分散分析

3. 到達目標

- ①人間行動と社会を測定するというものの理解
- ②確率、平均、分散などの基本概念の理解
- ③社会調査の一つとしての標本調査の理論と技法の理解
- ④回帰分析の理論の理解と技法の習得
- ⑤クロス表分析の理論の理解と技法の習得
- ⑥検定の理論の理解と技法の習得
- ⑦分散分析の理論の理解と技法の習得

4. 授業計画

- 第1回 人間行動と社会の測定
- 第2回 確率
- 第3回 確率
- 第4回 平均と分散
- 第5回 社会調査
- 第6回 社会調査
- 第7回 回帰分析
- 第8回 回帰分析
- 第9回 クロス表の分析
- 第10回 クロス表の分析
- 第11回 検定
- 第12回 検定
- 第14回 分散分析
- 第15回 分散分析

5. 評価方法・基準

中間試験(20%)、期末試験(30%)、授業中の積極性(30%)、レポート(20%)で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

この授業は、選択必修科目「社会学」の中級として位置づけられる。授業では演習での課題達成とプレゼンテーションが要求される。なお統計学にたいする好奇心を前提とする。

7. 教科書・参考書

授業の最初、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

井上の研究室(総合教育棟3階)の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

社会学Ⅱ Sociology II (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

一方で現代社会は安定した集合表象やその高度の構造体である科学、芸術、道徳・法、宗教をもつといわれ、他方では変化し続ける表象と意識、またぶつかりあう価値観の衝突と葛藤が顕著な社会といわれる。そのような状況が文化について考える講義の背景である。

●授業の目的

(1)文化の諸領域・諸側面をできるだけ具体的に見聞し、それらについて議論できるようになること、(2)その文化の内部構造と変遷についての経験的・理論的な理解を深め、それらについて議論できるようになること、(3)最後に文化と社会の関連についての経験的・理論的な理解を深め、それについて議論できるようになること。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、文化と人間(社会)についての知識と理論を習得し、そしてそれらを議論するための論理的な思考力を習得することができるように、授業を編成している。

2. キーワード

文化、デカルト主義、パーソンズのスキーム、ベルのジレンマ、正統と非正統、集合表象、記憶

3. 到達目標

- ①T.パーソンズの文化の概念の理解
- ②科学の中核にあるデカルト主義と合理主義の理解
- ③ルネサンス期など、芸術史上のいくつかの転回の理解
- ④祭、スポーツ、ファッション、美術、音楽、映画の構築と社会的機能の理解
- ⑤法と道徳の機能の理解
- ⑥現代の集合表象あるいは価値意識の闘争の理解
- ⑦現代正義論の理解
- ⑧宗教の諸様式と機能の理解

5. 評価方法・基準

- 第1回 導入(文化の概念)
- 第2回 科学と技術
- 第3回 デカルト主義の未来
- 第4回 芸術的表象
- 第5回 音楽と美術
- 第6回 祭りとスポーツ
- 第7回 ファッションの記号論
- 第8回 映画
- 第9回 法と道徳
- 第10回 集合表象の亀裂と闘争
- 第12回 象徴と権力
- 第13回 正義論の行方
- 第14回 宗教
- 第15回 個人と集団の記憶

5. 評価方法・基準

中間試験(30%)、期末試験(50%)、レポート(20%)によって評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

よく聞き、よく読み、よく発言し、よく書くこと。予習・復習とレポートの提出が要求される。

7. 教科書・参考書

授業の最初に、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

井上の研究室(総合教育棟3階)の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

社会学Ⅱ SociologyⅡ (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

人間行動と社会をできるだけ科学的に捉えようとする人類の長い精神史がある。社会科学の重要な努力の一つは、社会現象を量的に測定し、さらにそこに規則性を発見することにある。それは人と社会のよりよい意思決定を支援することにつながる。この講義はその活動の一分野である計量社会学を学ぶ授業である。

●授業の目的

前期に引き続き、社会を計量社会的にとらえる方法を学ぶ。前期よりさらにレベルを高くし、多変量解析の理論と技法を社会学データの分析の実践を通して実践的に学ぶこと、そしてそれを媒介に現代社会の仕組みを理解することが、目的である。

●授業の位置づけ

これは金曜日の2限に開講される選択必修であるが、「社会学」の中級レベルとして位置づけられる。

2. キーワード

社会調査、因子分析、多次元尺度法、ログリニア分析、分散共分散分析

3. 到達目標

- ①人間行動と社会を測定するというものの理解
- ②確率、平均、分散などの基本概念の理解
- ③推定と検定の理論の理解
- ④因子分析、クラスター分析、多次元尺度法などのデータ縮約の理論と技法の理解
- ⑤分散分析、回帰分析、ログリニア分析などのメカニズム解明を支援する方法の理論と技法の理解

5. 評価方法・基準

- 第1回 人間行動と社会の測定
- 第2回 社会調査
- 第3回 平均と分散
- 第4回 推定と検定
- 第5回 因子分析
- 第6回 クラスター分析
- 第7回 多次元尺度法
- 第8回 多次元尺度法
- 第9回 多重分散分析
- 第10回 多重回帰分析
- 第11回 多重回帰分析
- 第12回 ログリニア分析
- 第13回 ログリニア分析
- 第14回 分散共分散分析
- 第15回 分散共分散分析

5. 評価方法・基準

中間試験(20%)、期末試験(30%)、授業中の積極性(20%)、レポート(20%)で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

この授業は、選択必修科目「社会学」の中級として位置づけられる。予習・復習と、授業での演習及びプレゼンテーションが要求される。なお統計学にたいする好奇心を前提とする。

7. 教科書・参考書

授業の最初と、期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

井上の研究室(総合教育棟3階)の前とホームページの掲示板に掲示している。

経済学Ⅰ EconomicsⅠ (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

一国の経済における諸問題及び政府の経済政策を理解するためには経済学、特にマクロ経済学の知識が必要である。本講義ではマクロ経済学の標準的なテーマを取扱う。特に、戦後から現在に至るまでの日本経済の足跡を経済政策とその政策の背景にある経済理論を中心に考察することによってマクロ経済学に対する理解を深める。さらに、これらをベースに国際経済に関する基本理論を学び、日本経済と国際経済の将来について考えてみるのが本講義の目的である。

●授業の位置づけ

最近、国際化や情報化の進展に伴い、経済システムも益々複雑になっており、また経済に関する情報も簡単に入手できるようになった。しかしながら、その内容を理解して、それに対し自分なりの判断ができる人は意外と多くないと思われる。国内外の経済現状を理解するためには本授業で取り扱う諸理論に関する全般的な理解が必要である。

2. キーワード

「GDP」、「財政」、「金融」、「為替」、「景気」

3. 到達目標

- ①一国の経済の仕組みを学ぶことによって国際経済のメカニズムを理解する。
- ②現在われわれが直面している経済問題を分析し、問題解決の糸口を見出す力を養う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 戦後からの日本経済の歩み ①
- 3回 戦後からの日本経済の歩み ②
- 4回 国民経済計算 ①
- 5回 国民経済計算 ②
- 6回 財市場 ①
- 7回 財市場 ②
- 8回 貨幣市場①
- 9回 貨幣市場②
- 10回 財政金融政策 ①
- 11回 財政金融政策 ②
- 12回 国際経済 ①
- 13回 国際経済 ②
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

レポート、小テスト、中間試験及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD)の貨幣・富・経済発展の歴史(英語版)の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00 ~ 16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅰ Economics I (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 李 友炯

1. 概要**●授業の目的**

経済活動を営む各主体はお互いに影響を与えながら様々な意思決定を行っている。本講義では、「ゲーム理論」を通じてその意思決定の相互依存について考察する。特に、実際の経済社会で発生している様々な事例を取り上げ、戦略的思考に対する理解を深めることによって経済主体として合理的な意思決定能力の向上を目指す。

●授業の位置付け

複数の経済主体がそれぞれの目的の実現を目指して相互に依存している状況を認識し、そのような状況の下で戦略的思考法に基づく意思決定のメカニズムを理解する。

2. キーワード

「戦略的思考」、「意思決定」、「不確実性」

3. 到達目標

- ①ゲーム理論の基礎を学び、戦略的行動とは何かを理解する。
- ②様々な経済現象に対して合理的な判断ができる思考力を養う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション：市場と経済
- 2回 ゲーム理論の基礎
- 3回 戦略型ゲーム
- 4回 戦略的思考法
- 5回 展開型ゲーム①
- 6回 展開型ゲーム②
- 7回 交渉ゲーム①
- 8回 交渉ゲーム②
- 9回 繰り返しゲーム
- 10回 情報とゲーム①
- 11回 情報とゲーム②
- 12回 情報とゲーム③
- 13回 経済学とゲーム理論
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、中間試験及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD)の貨幣・富・経済発展の歴史(英語版)の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00～16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅱ Economics II (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 李 友炯

1. 概要**●授業の目的**

経済を理解するにあたって最も重要なのは市場メカニズムに対する理解である。本授業ではまず、経済主体の行動理論、特に消費者の行動や生産者の行動に関する理論を学んだ上、その理論に基づいて機能している市場メカニズムについて学ぶ。また、その市場が不完全競争状態である場合どのような問題が発生するか、そして実際われわれが住んでいる社会が抱えている市場構造の問題点について考察する。

●授業の位置付け

近年、社会における様々な現象を分析する研究分野において経済学の概念を導入することが増えている。特に、都市、交通、環境などの分野では費用便益分析、ヘドニック・アプローチやゲーム理論のような経済理論が頻繁に利用されるようになった。これらの経済理論を有効に使用するためには、本授業で取り扱う経済主体の行動理論や市場理論を理解することが不可欠である。

2. キーワード

「効用最大化」、「利潤最大化」、「市場メカニズム」、「不完全競争市場」

3. 到達目標

- ①各経済主体の合理的な行動原理について理解する。
- ②各経済主体の行動が市場の形成や既存市場に与える影響について理解する。
- ③様々な経済問題を常に市場メカニズムに基づいて考える能力を培う。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 市場とは何か
- 3回 需要と供給のメカニズム
- 4回 消費者の行動原理 ①
- 5回 消費者の行動原理 ②
- 6回 生産者の行動原理 ①
- 7回 生産者の行動原理 ②
- 8回 市場均衡の理論
- 9回 不完全競争市場 ①
- 10回 不完全競争市場 ②
- 11回 公共財と外部性
- 12回 効率性と公正
- 13回 市場理論の応用
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

レポート、小テスト、中間試験及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD)の貨幣・富・経済発展の歴史(英語版)の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00～16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

経済学Ⅱ Economics II (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 李 友炯

1. 概要**●授業の目的**

本講義は、新聞やテレビで日々報道されている経済現象を正しく理解するために必要な経済学の基礎知識の習得を目的とする。特に、経済記事や経済関連統計データを用いて日本や世界の経済動向に対する理解を深め、経済主体が実際に直面する様々な経済現象を広い視野をもって分析・判断する能力を養う。

●授業の位置付け

日本や世界経済と関連する時事トピックスとそれに対する経済専門家や政府関係者のコメントを理解し、今我々が置かれている経済状況を分析・判断するために必要な知識を学ぶ。

2. キーワード

「時事経済」、「経済政策」、「日本と世界経済」

3. 到達目標

- ①経済関連の統計データを収集・分析し、経済の現況を理解する。
- ②時事トピックスを取り上げ、その背景にある経済理論を理解する。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 マクロ統計と経済の動向 ①
- 3回 マクロ統計と経済の動向 ②
- 4回 マクロ統計と経済の動向 ③
- 5回 経済政策 ①
- 6回 経済政策 ②
- 7回 経済政策 ③
- 8回 企業と経済 ①
- 9回 企業と経済 ②
- 10回 日本経済 ①
- 11回 日本経済 ②
- 12回 日本と世界 ①
- 13回 日本と世界 ②
- 14回 まとめ

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、中間試験及び期末試験で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD)の貨幣・富・経済発展の歴史(英語版)の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00 ~ 16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

政治学Ⅰ Political Science I (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書(の抜粋)などの比較的読みやすいプリントや視覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的に考える訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表(インターネットなども活用)、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウトゥー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む
- 第3回 ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む
- 第4回 「鉄の三角形」の意味と概要
- 第5回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(1)
- 第6回 「鉄の三角形」ケース・スタディ(2)
- 第7回 政官関係・公益法人論など
- 第8回 戦争と政治(1)
- 第9回 戦争と政治(2)
- 第10回 従来の講義の補足と展開
- 第11回 ナショナリズム論(1)
- 第12回 ナショナリズム論(2)
- 第13回 市民的实践とNGO(1)
- 第14回 市民的实践とNGO(2)
- 第15回 試験

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

期末試験(80%)およびレポートの結果(20%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日 12時 - 13時 30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅰ Political Science I (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 自由主義と民主主義(1)
- 第4回 自由主義と民主主義(2)
- 第5回 現実主義(1)
- 第6回 現実主義(2)
- 第7回 従来の講義の補足と展開
- 第8回 政治的責任(1)
- 第9回 政治的責任(2)
- 第10回 保守主義(1)
- 第11回 保守主義(2)
- 第12回 従来の講義の補足と展開
- 第13回 自由テーマ(1)
- 第14回 自由テーマ(2)
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

レポートの結果(100%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science II (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書(の抜粋)等の活字資料=プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識の獲得と理論的思考の訓練を行なう。一方通行的な講義=筆記ではなく、学生諸君の調査・発表(インターネット等も活用)、これをうけた討論等を特に重視する。

政治学は民主主義国の市民あるいは“社会人”にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文化主義。

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 教育と政治、民主主義との関連など
- 第3回 教育と政治、ケース・スタディ(1)
- 第4回 教育と政治、ケース・スタディ(2)
- 第5回 教育と政治、ケース・スタディ(3)
- 第6回 補足と展開
- 第7回 開発と補助金政治
- 第8回 開発と地方自治
- 第9回 戦争責任論
- 第10回 開発をめぐる国際政治(1)
- 第11回 開発をめぐる国際政治(2)
- 第12回 軍事化と平和研究(1)
- 第13回 軍事化と平和研究(2)
- 第14回 開発教育論など
- 第15回 試験

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

期末試験(80%)およびレポートの結果(20%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science II (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。具体的なテーマとしては、グローバリゼーションの下での現代政治の世界的な諸課題を中心に検討する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

ナショナリズム、文明の衝突、多元主義、寛容

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析的訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 ナショナリズム(1)
- 第4回 ナショナリズム(2)
- 第5回 ナショナリズム(3)
- 第6回 文明の衝突?(1)
- 第7回 文明の衝突?(2)
- 第8回 文明の衝突?(3)
- 第9回 従来の講義の補足と展開
- 第10回 多元主義(1)
- 第11回 多元主義(2)
- 第12回 多元主義(3)
- 第13回 自由テーマ(1)
- 第14回 自由テーマ(2)
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は学生諸君の関心や時事、テキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価方法・基準

レポートの結果(100%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習(自ら補習)し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでおくのは当然の前提である。

7. 教科書・参考書

- 教科書 なし。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究Ⅰ Regional Studies I (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰(伝統の新たな発明であるが)やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ(ミャンマー)及びインドネシア、そしてメラネシアからはバブア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との間きあい具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hopの感染力その1
- 第5回 親族の解釈学1-親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2-普遍的な解釈(親族の代数学)
- 第7回 親族の解釈学3-相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力その1
- 第13回 世界観パート1-構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2-構造主義の展開編：神話分析(あるいは「奇妙な言説」の解説法)
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験及びレポート(95%)、出席(5%)で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書 特になし。適宜プリントを配布する。
- 参考書
 - 1) Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press.
 - 2) Stephen A. Tyler (ed.) 1969 Cognitive Anthropology., Holt, Rinehart and Winston, inc.
 - 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ（金曜日2限）

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との闘きあい具体的な映像資料を通して見ること、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジー

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるというdispositionを身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 フィールド・ワークの方法論1：理論編
- 第2回 フィールド・ワークの方法論2：実践編
- 第3回 ニューギニアのグリビ族の民族誌：アナロジックな親族
- 第4回 ニューギニアのグリビ族の民族誌（続き）
- 第5回 ニューギニアのGimi族の民族誌：交代するジェンダー
- 第6回 ニューギニアのPaiela族の民族誌：女が成長のエージェント
- 第7回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌：アナロジックなジェンダー
- 第8回 グローバル化を考える1 Hip-Hopの感染力その1
- 第9回 ニューギニアのHagenの人々の民族誌（続き）
- 第10回 ニューギニアのpersonの概念とagentの概念：市場交換システムと贈与交換システム
- 第11回 東南アジアの民族誌：イントロダクション
- 第12回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第13回 東北タイ：生活世界分類と民族生物分類学1
- 第14回 東北タイ：生活分類と民族生物分類学2
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験及びレポート（95%）、出席（5%）で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等
時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1967. The Curse of Souw. Cornell University Press.. 389.7/W-1
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
- 3) E. R. Leach 1995『高地ビルマの政治体系』（訳：関本照夫）弘文堂。
- 4) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press.

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional StudiesⅡ (月曜1・2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：1・2年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰(伝統の新たな発明であるが)やローカルの傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ(ミャンマー)及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカルの間の闘きあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期はジェンダー・宗教(呪術)・国家に関するトピックを取り上げる。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、フェミニズム

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるdispositionを身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 ジェンダー パート1：定義と歴史的背景及びフェミニズムとの関係
- 第2回 ジェンダー パート2：その多様性と解釈
- 第3回 ジェンダー パート3：ポスト・モダンのジェンダー論
- 第4回 イスラムのジェンダーと欧米のジェンダーに関するビデオ上映
- 第5回 宗教 パート1：宗教の定義を巡って
- 第6回 宗教 パート2：呪術の効果を如何に解釈するか《その①》
- 第7回 宗教 パート3：呪術の効果を如何に解釈するか《その②》
- 第8回 グローバル化を考える4 Hip-Hopの感染力その2
- 第9回 事例研究1 東北タイの除霊儀礼、中央タイの仏教的治療カルト
- 第10回 事例研究2 北部タイの精霊信仰-祖先の崇りを巡って-
- 第11回 事例研究3 ニューギニアのホログラフィックな世界-隠喩のフォース-
- 第12回 グローバル化を考える5 ロックの浸透力その2
- 第13回 植民地化の中の東南アジアの国家概念-劇場国家論
- 第14回 東南アジアの伝統的国家概念-銀河政体論
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験及びレポート(95%)、出席(5%)で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press.
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
- 3) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press.

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ (金曜2限)

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰(伝統の新たな発明であるが)やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

具体的な事例として、主に東南アジアからタイ王国、ビルマ(ミャンマー)及びインドネシア、そしてメラネシアからはバブア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々の民族誌を取り上げるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れことになる。またタイ王国やイスラム諸国と欧米諸国とを対比させた映像資料を見ることで均一化とローカル化との闘きあいを具体的に実感できるように構成する予定である。尚、前期とは異なり、後期は宗教(呪術)・国家に関するトピックを取り上げる。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、構造主義、言語行為論。

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるdispositionを身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 宗教を捉えるための概念整理(宗教・呪術の定義を中心に)
- 第2回 呪術論基礎(1)－表現的行為(象徴的コミュニケーション)と技術的行為。
- 第3回 呪術論基礎(2)－呪術の効果を巡って。
- 第4回 グローバル化を考える3 Hip-Hopの感染力その2
- 第5回 事例検討1：構造主義による呪術の効果の解釈－象徴効果－北米インディアン・パナマ共和国のクナ族の治療儀礼。
- 第6回 事例検討2：物語生成装置論－アフリカのザンデ族の呪術を中心に。因果関係とは何か。
- 第7回 事例検討3：言語行為論-アフリカのザンデ族の呪医と薬学。アナロジーの力。
- 第8回 グローバル化を考える4 ロックの浸透力
- 第9回 事例検討4：Symbolic Obviationの観点からの呪術の分析－ニューギニア・ダリビ族のpobiと夢
- 第10回 事例検討5：中央タイの仏教カルトにおける病気治療
- 第11回 事例検討6：北部タイの精霊信仰2：妖術と祖先霊
- 第12回 東南アジアの国家論①-19世紀バリの都市国家：劇場国家論。

第13回 東南アジアの国家論②-タイ・ビルマ・ラオスの国家論：マンダラ国家論

第14回 総括

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期末試験及びレポート(95%)、出席(5%)で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

時折、出席を取るので注意すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press.
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press.
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

8. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

哲学と現代Ⅰ Contemporary Philosophy I

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

2. キーワード

思考停止、法令遵守

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

- 第1回～第3回 食の「偽装」「隠蔽」に見る思考停止
- 第4回～第6回 思考停止するマスメディア
- 第7回～第9回 厚生年金記録改竄を巡る思考停止
- 第10回～第12回 「遵守」はなぜ思考停止につながるのか
- 第13回～第15回 司法への市民参加を巡る思考停止

5. 評価方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

郷原信郎 『思考停止社会』(講談社現代新書) 081/K-3/1978

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅱ Contemporary Philosophy II

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

2. キーワード

メディア・リテラシー、ニセ科学、リスク論

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

- 第1回～第2回 ニセ科学
- 第3回～第5回 自然志向の罫
- 第6回～第9回 警鐘報道の功罪
- 第10回～第15回 科学報道のメディア・リテラシー

5. 評価方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

開講までに教科書を必ず手に入れておいて下さい。各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 教科書・参考書

松永和紀 『メディア・バイアス』(光文社新書) 404/M-28

8. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ History of European Society

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3・4年次

学期：前期・後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えている。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いつながりながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック(例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など)を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート1、2(以下PR1・PR2)およびファイナルレポート(以下FR)の計3本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」「技術史」「科学史」「社会史」

3. 到達目標

<レポートに関する目標>

- ①文献調査
- ②資料分析
- ③プレゼンテーション(2回)
- ④オリジナリティ：独自の議論
- ⑤プログレス(PR2とFRのみ)

<個別発表に関する目標>

- ①簡潔明瞭な発表
- ②的確な質疑

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド(文献検索について)
- ③調査ガイド(公共図書館と他大学図書館利用について)
- ④プログレスレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート2提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表
- ⑭ファイナルレポート提出

5. 評価方法・基準

プログレス・レポート1	25%	(上記レポート目標①から④各25%)
プログレス・レポート2	30%	(①から⑤各20%)
ファイナル・レポート	40%	(①から⑤各20%)
発表および質疑	5%	

*総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 教科書・参考書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源1-4』岩波文庫、1999年。

502/B-4/1~3

(担当教員が管理し、授業中に回覧した後で貸出)

8. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

日本政治論Ⅰ Japanese Politics, Past and Present I

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本(の抜粋)や資料などを精読して学問的に(ジャーナリストティックに、ではなく)学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国(史)的な視野におちいらないためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治(制度)論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2回 人間性と政治(権力分立の問題など)
- 第3回 自由・人権観
- 第4回 戦後社会と管理化(1)
- 第5回 戦後社会と管理化(2)
- 第6回 戦後社会と管理化(3)
- 第7回 東北アジアと日本(1)
- 第8回 東北アジアと日本(2)
- 第9回 東北アジアと日本(3)
- 第10回 補足と展開
- 第11回 琉球・沖縄と日本(1)
- 第12回 琉球・沖縄と日本(2)
- 第13回 宗教と政治(1)
- 第14回 宗教と政治(2)
- 第15回 戦争・戦後責任論

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価方法・基準

報告と討論(80%)・レポート(20%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。

元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力(知識、読解・思考、表現等)の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習(自ら補習)することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書 プリントを配布する他、相談して決定(複数)。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ Japanese Politics, Past and Present II

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本(の抜粋)や資料などを精読して学問的に(ジャーナリストティックに、ではなく)学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国(史)的な視野におちいらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治(制度)論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義。

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 INTRODUCTION
- 第2回 自由主義論(1)
- 第3回 自由主義論(2)
- 第4回 諸文明と「国際化」(1)
- 第5回 諸文明と「国際化」(2)
- 第6回 諸文明と「国際化」(3)
- 第7回 市民社会論(1)
- 第8回 市民社会論(2)
- 第9回 市民社会論(3)
- 第10回 補足と展開
- 第11回 厚生行政をめぐる政治(1)
- 第12回 厚生行政をめぐる政治(2)
- 第13回 厚生行政をめぐる政治(3)
- 第14回 政治的リアリズム
- 第15回 日本の戦後政治史をめぐる

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価方法・基準

報告と討論(80%)・レポート(20%)で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力(知識、読解・思考、表現等)の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習(自ら補習)することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 教科書・参考書

- 教科書 プリントを配布する他、相談して決定(複数)。
- 参考書 講義の中で適宜紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日12時-13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

社会システム論Ⅰ Social Systems Theories I

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

社会に現れる競争、闘争、交換、協同などを合理的選択行為の理論とゲーム理論の枠組みによって捉え、そこからさらに制度や権力や社会構造の発生のメカニズムを理解しようとする努力は、20世紀後半からの大きな潮流の一つである。

●授業の目的

ゲーム理論の基礎概念と基礎理論を学び、その応用によって社会を分析する力を習得すること、そしてそれを通して現代社会にかんする視野を広げることが目的としている。

●授業の位置づけ

この授業は社会学の中・上級科目として位置づけられ、金曜日の3限に開講される。

2. キーワード

合理的選択、ナッシュ均衡、囚人のジレンマ、部分ゲーム完全均衡

3. 到達目標

- ①非協力ゲームの理論の基礎概念と基礎理論の学習、
- ②交渉、契約、合意形成のメカニズムの理解、
- ③協力ゲームの理解

4. 授業計画

- 第1回 合理的選択と人間行為
- 第2回 同時決定の場合の標準形ゲーム
- 第3回 囚人のジレンマ
- 第4回 混合戦略
- 第5回 情報と展開形のゲーム
- 第6回 駆け引きとコミットメント
- 第7回 2段階ゲーム
- 第8回 繰り返しゲーム
- 第9回 情報不完備ゲーム
- 第10回 スクリーニングとシグナリング
- 第11回 共有地の悲劇
- 第12回 社会的ジレンマ
- 第13回 交渉と契約
- 第14回 協力ゲーム
- 第15回 制度と権力

5. 評価方法・基準

中間試験（20%）、期末試験（30%）、授業中の積極性（30%）、レポート（20%）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習・復習と演習・プレゼンテーションに積極的であることが要求される。

7. 教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

井上の研究室（共通教育研究棟3階）の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

社会システム論Ⅱ Social Systems Theories II

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 井上 寛

1. 概要

●授業の背景

ばらばらの個人からなる社会でもなく、また強い規範と規則と垂直的な構造をもつ公式組織からなる社会でもなく、人と人、集団と集団がネットワークを形成し、それによってコミュニケーションと交換と協同が実現し、さらにどのネットワークが動的に変化していくような社会を描くことが、20世紀後半からの一つの思潮である。

●授業の目的

社会ネットワーク理論を学び、ネットワークの視点から社会過程と社会構造の分析の力を習得し、さらにそれを通して現代社会にかんする視野を広げることが目的とする。

●授業の位置づけ

この授業は社会学の中・上級科目として位置づけられ、金曜日の3限に開講される。

2. キーワード

ネットワーク、中心度、クリーク、ブロックモデル、構造ホール、ネットワーク複合、ネットワーク形成、ネットワークゲーム

3. 到達目標

- ①社会ネットワーク理論の基礎概念と基礎理論を学びこと
- ②社会ネットワークの理論と技法によって社会関係と社会構造を分析する能力を修得すること

4. 授業計画

- 第1回 社会過程とネットワーク構造
- 第2回 グラフ理論の基礎
- 第3回 中心性
- 第4回 クリーク
- 第5回 バランス理論
- 第6回 ブロックモデル
- 第7回 弱い紐帯の理論
- 第8回 p*系のモデル
- 第9回 偏ネットワーク
- 第10回 ランダムネットワーク
- 第11回 スモールワールド
- 第12回 多重ネットワーク
- 第13回 ネットワーク制約のもののゲーム
- 第14回 ゲームとネットワーク変動・形成
- 第15回 ゲームとネットワーク変動・形成

5. 評価方法・基準

中間試験（20%）、期末試験（30%）、授業中の積極性（30%）、レポート（20%）で評価する。100点満点のうち60点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習・復習と演習・プレゼンテーションに積極的であることが要求される。

7. 教科書・参考書

最初の授業、また期間中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

井上の研究室（共通教育研究棟3階）の前とホームページの掲示板に掲示している。なお授業の前後でも面談に応じる。

都市経済学 Urban Economics

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

戦後、世界各国において都市化が急速に進行しており、日本の場合人口の約7割以上が都市に居住している。本授業では、我々の経済活動の中心になっている都市を経済学の観点から考える。特に、都市経済学の理論や分析手法を習得することによって都市の形成・立地問題をはじめ、様々な都市問題を考えると同時にその政策に対する理解を深める。

●授業の位置付け

政府や住民が都市に居住しながら直面している様々な問題を理解し、その解決策を考える上で必要な基礎知識を学ぶ。また、外国書（英語）を輪読することによって都市経済学の基礎的な知識や英語の専門用語を習得する。

2. キーワード

「都市化」、「都市問題」

3. 到達目標

- ①都市経済学の基本的な考え方や理論の理解
- ②都市問題に対する諸政策の理解

4. 授業計画

- ① Definitions of Cities and Urban Growth
- ② Aggregate Analysis of Metropolitan Areas
- ③ Land Use Controls
- ④ Housing problems and Policies

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、テスト考慮し、総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の企業革命 [英語 (日本語字幕入り) 版] の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

W. T. Bogart (1998), The Economics of Cities and Suburbs, Prentice Hall. の一部を随時配布する。

8. オフィスアワー

火曜日 14:00 ~ 16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

産業と規制の経済学 Industrial Organization

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 李 友炯

1. 概要

●授業の目的

本講義では、産業組織論における多様なテーマを取り扱い、現代の産業や企業の行動を理解するための基礎知識を習得する。特に、「市場メカニズム」の意義と役割に対する理解を通じて、産業組織の問題点やその対策について考察する。

●授業の位置付け

市場の構造や産業政策の影響などを供給サイドから分析することによって市場が有効に機能するために必要な条件に対する理解を深める。また、外国書（英語）を輪読することによって産業組織論の基礎的な知識や英語の専門用語を習得する。

2. キーワード

「産業政策」、「企業」、「市場」、「規制」

3. 到達目標

- ①市場経済のメカニズムを産業組織の状況や理論を通じて理解する。
- ②政府による規制など産業政策の重要性を理解する。

4. 授業計画

- ① What Is Industrial Organization?
- ② Market Structures and Market power
- ③ Perfect Competition, Monopoly and Oligopoly
- ④ Government Policies and their effects

5. 評価方法・基準

授業への参加、レポート、テスト考慮し、総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

経済に関する理解を深めるために、Video on Demand (VOD) の企業革命 [英語 (日本語字幕入り) 版] の視聴を進める。VODは付属図書館のホーム・ページから視聴可能。

7. 教科書・参考書

L.B.Cabral (2000), Introduction to Industrial Organization, The MIT Press, D.W.Carlton and J.M.Perloff (2005), Modern Industrial Organization の一部を随時配布する

8. オフィスアワー

火曜日 14:00 ~ 16:00

質問や授業に関する意見があれば授業の前後いつでも受け付けます。

教育システム論 Educational Systems Theory

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システムとの接点に発生する諸種の問題を取り上げ、教育と法律とのかかわりについて検証する。

●授業の位置付け

毎回テーマを決め、受講者のプレゼンテーションをもとに進める。プレゼンテーション後は、全員で討議する。

2. キーワード

日本国憲法 教育基本法 教育権 少年法

3. 到達目標

- ①教育と法律のかかわりについて理解を深める。
- ②調査能力・プレゼンテーションの技術を身につける。
- ③討論の技術を身につける。

4. 授業計画

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。また、1回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 校則問題
- 3回 学校とプライバシー
- 4回 法の下での平等と教育（1）－同和教育論－
- 5回 法の下での平等と教育（2）－外国人児童生徒の教育－
- 6回 法の下での平等と教育（3）－障害児教育論－
- 7回 生命倫理と子ども（1）－非嫡出子問題－
- 8回 生命倫理と子ども（2）－生殖医療問題－
- 9回 生命倫理と子ども（3）－中絶問題－
- 10回 日の丸・君が代と学校
- 11回 エホバの証人剣道受講拒否事件
- 12回 教科書検定裁判
- 13回 旭川学力テスト事件
- 14回 パターンナリズム論
- 15回 まとめ

5. 評価方法・基準

プレゼンテーション・討議での発言など平素の授業態度 50%
 期末レポート 50%
 プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
- その他、少年事件や教育問題に関する最新の動向に注意すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書
特に指定しない。
- 参考文献
授業の中で適宜指定する。

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
 higashi@dhs.kyutech.ac.jp

科学日本語 Basic Technical Writing

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子・橘 武史

1. 概要

●授業の目的

中心に述べられていること、キーワードなどを意識しながら話を聞き取る力を養う。まとまりのある文章を書く力を養う。論理的に考え、根拠をきちんと示して自分の意見を述べる力を養う。また、エンジニアとして科学日本語に出会う場面を知り、どのようなコミュニケーション能力が必要か考える。

●授業の位置付け

2年生以上で、エンジニアとして必要なコミュニケーション能力を身に付けたい、つまり、事実に基づいて考察し、自分の意見を明確に述べるできるようになりたいと思う学生を対象とする。初めから書ける必要はない。ただし、他人の意図を理解しようとして聴く力が必須である。

2. キーワード

「科学技術」「要旨」「意見文」「根拠」「エンジニア」

3. 到達目標

- ・キーワードや段落構成を考えながら要旨が書ける
- ・根拠に基づいて自分の意見が述べられる
- ・技術の背景や将来性についてより広い見方ができる
- ・エンジニアとして必要なコミュニケーション能力に関して自己評価ができる

4. 授業計画

科学技術を題材にした視聴覚資料あるいは特別講義を聴いて、まず文章の構成を考えつつ要旨をまとめる練習をする。その要旨についてピア（学生同士の）評価を行う。次に、その技術の意義や将来性について討議し、根拠を示しつつ自分の意見をまとめる練習をする。また、第1、4、8回にはエンジニアとして実際に遭遇する場面例を紹介し、そこでどのような資質が求められるかなどについても議論する。

- 第1回 オリエンテーション：まずやってみる；日本語で科学はできない？
- 第2回 要約のしかた（1）キーワードを探す；バイオメトリクス認証
- 第3回 要約のしかた（2）段落を作る；安全技術車
- 第4回 要約のしかた（3）中心文を置く；折り紙の不思議
- 第5回 要約のしかた（4）まとめの書き方；ペットボトルリサイクル
- 第6回 意見を書く（1）感想から出発；スペースシャトル事故
- 第7回 意見を書く（2）どこに注目するか；無人IT基地
- 第8回 意見を書く（3）事実の見方は正しいか；脳科学の応用
- 第9回 意見を書く（4）別の視点から見たら；ICTタグ
- 第10回 意見を書く（5）将来的には？；ナノテクで人体を作る
- 第11回 特別講義を聴いて討議する：電磁波の生体に対する影響（岡本良治先生）
- 第12回 特別講義を聴いて討議する：バリアフリー技術におけるニーズの衝突（寺町賢一先生）
- 第13回 特別講義を聴いて討議する：車なし社会の実現（橘武史先生）
- 第14回 まとめ－自己評価と授業評価－

5. 評価方法・基準

毎回の要旨（40%）、授業への参加度（20%）、意見文課題（40%）の伸びで評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をよく推敲して提出すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書
特に指定しない

8. オフィスアワー

月曜日4限

選択日本事情A Elective Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、日本について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ① 日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する
- ② 討議に積極的に参加して考えを深める
- ③ 異なる文化、社会について理解する
- ④ 日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

- 第1回 アイスブレイキング：国のイメージ
- 第2回 学校生活
- 第3回 日本料理と食生活
- 第4回 しつけとマナー、人間関係
- 第5回 若者文化
- 第6回 年中行事
- 第7回 まんが（世界に発信する現代日本文化）
- 第8回 結婚と女性
- 第9回 住宅事情と住文化
- 第10回 宗教と信仰
- 第11回 労働観
- 第12回 社会保障制度
- 第13回 自殺
- 第14回 外国から見た現代日本
- 第15回 まとめ

5. 評価方法・基準

レポート（60%）及び 毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

自分の意見を分かりやすく伝えようと努力すること。相手の実情を理解しようとし、日本との違いはどこからくるのか考えを深めること。関連する項目について図書館等で資料を探して学習する習慣を身につけよう。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考書

授業中に紹介する。

8. オフィスアワー

月曜日3限

選択日本事情B Elective Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位
 担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について知見を広げ、留学生と共に討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「ニュース」「日本社会」「異文化理解」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて考えることができる
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

学生自身がその時々のニュースや話題になっている出来事から興味のある話題を取り上げて、紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。

その背景や対策について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価方法・基準

発表（50%）及び毎回のノート（30%）授業への参加度（20%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

日頃から報道されるニュースに関心を持つこと。図書館で複数の新聞を読む習慣をつけよう。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

8. オフィスアワー

月曜日3限

英語科目についての全般的説明

総合英語について（必修科目：1、2年次）

1. 目的および目標

1、2年次の必修科目である総合英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

総合英語 A I / A II（1年次）については、全担当教員が英語母語話者とする。会話力を中心に4技能を習得することを目指しており、その目標の例の一つは英語圏における日常会話である。きめ細かな対応が必要となるため、入学時にプレイズメント・テストを行い、能力別少人数クラス編成を行っている。

総合英語 B I / B II（1年次）は、総合英語 A I / A IIを補完すべく、読解力を中心に4技能をまんべんなく学ぶ。目標の例の一つは英語で発行された新聞などの印刷物を、自助努力をもって理解する能力を獲得することである。

総合英語 C I / C II（2年次）は、総合英語 A I / A IIや B I / B IIにおける学習内容を深め、レベルを高めることを目標としている。具体的な役割は2年次以降に開講されている（一部1年次より）上級英語などへ繋がる科目であり、大学生として必要最低限の英語運用能力を身につけることを目標としている。各学科で開講されている英語科目や英語を使用した科目にも繋がる科目である。

2. 科目の内容

総合英語 A（会話を中心として4技能を学ぶ。作文なども特徴の一つ。）

総合英語 B（読解を中心として4技能を学ぶ。聴解力、作文能力、あるいは発信能力を並行して行うこともある。）

総合英語 C（総合英語 A、Bを発展させた内容。具体的内容は担当教員によりさまざまなものを用意している。）

3. 履修上の注意

- 1) 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。未履修となった場合には、次年次に同一曜日、時限の同一教員による授業を履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、教員によって再履修の条件が異なる場合があるので、必ず当該教員に事前に相談すること。
- 3) 編入生の場合、時間割上履修可能な時限を選び、必ず当該教員に相談すること。
- 4) 総合英語 A I / A IIについては、入学当初に行われるプレイズメント・テストを必ず受けること。また受けそこねたものは、必ず総合英語 A コーディネーターへ相談すること。
- 6) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども主な評価要素となる。

中級英語について（選択科目：1年次以上）

1. 目的および目標

総合英語 A、B、Cと同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなるメニューを提供することを主眼としている。レベルとしては総合英語と上級英語群をむすぶ科目である。英語が苦手な学生から、総合英語でできない内容を求める学生まで幅広く対応している。多様な授業内容のメニューを用意しており、リメディアル的学習、視聴覚授業、海外語学研修準備講座等を、随時展開している。外国人と日本人教員の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分にあった授業を選択する。

2. 科目の内容

多様な授業内容のメニューを用意しており、リメディアル的学習、視聴覚授業、海外語学研修準備講座等を、随時展開している。外国人と日本人教員の双方が担当する。履修希望学生は各教員のシラバスを参照し、自分の興味とレベルにあった授業を選択する。

3. 履修上の注意

- 1) 同一科目の複数履修は認めない。（前期に中級英語 I を2コマなど）
- 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。

上級英語について

（選択科目：2年次以上、条件付で1年次以上。下記参照）

1. 目的および目標

総合英語で培った能力を更に伸ばすのが上級英語の目的である。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

2. 科目の内容

これらはすべて例であり、詳細な内容についてはそれぞれの科目のシラバスを参照すること。

上級英語 A（会話、コミュニケーション能力など。英語母語話者が担当。）

上級英語 B（読解、作文能力、コミュニケーション能力など。）

上級英語 C（読解、聴解、批判的思考能力など。）

技術英語（工業英語など、専門的知識を英語で身に付ける。）

3. 履修上の注意

- 1) 1年次で履修する（履修可能科目は、上級英語 A I、A II、上級英語 B I、B IIのみ）学生のみ TOEIC 500 点のスコア（あるいは同レベルの他の英語検定試験スコア）が必要である。2年次より履修する学生は、総合英語 A と B の単位を取得済みであることを条件とする。また、履修希望者が多い場合、人数制限を行う。担当教員の指示に従うこと。
 - 2) 演習形式のため、定期試験のみの評価はしない。
 - 3) 同一科目の複数履修は認めない。（半期に上級英語 A を2コマ、など）
 - 4) 鳳龍賞によるオールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、履修していない上級英語科目分をもって行う。
 - 5) TOEIC スコア（600 点以上）で上級英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。
- （注）大学院においても英語（ロング、ラクストン）、言語学特論（村田）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解（虹林）を開講している。こちらを聴講（履修は不可）する希望の学部生は担当教員に連絡すること。

総合英語 A I Comprehensive English A I

対象学科 (コース) : 全学科 学年 : 1 年次 学期 : 前期

単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson,
Mike Mackay, Chris O' Sullivan, Gareth
Steele, Andrew Watt, Mason Lampert, Peter
Polmeartagami

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English

(b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions

(c) To practice the writing of English paragraphs and compositions

(d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける

3. 到達目標

1. Placement test
2. Meeting new people, self-introductions.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う。(工学部学修細則第 11 条 2)

Wednesday students will be sorted into classes based on performance in a Placement Test at the beginning of the year.

必ず一年生の間この必修単位を取ってください!! 後は専攻で忙しくなるから。Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

- (1) Headway - Pre-Intermediate
- (2) Instructors may use other textbooks approved by the coordinator

8. オフィスアワー

Mondays, 12.00- 2.30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科 (コース) : 機械知能工学科・電気電子工学科・

応用化学科

学年 : 1 年次 学期 : 前期 単位区分 : 必修 単位数 : 1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1 Welcome to the E-mail Combat Zone
3. "
4. 発表
5. Topic 4 Beckham Is Most Influential Man in the UK
6. "
7. 発表
8. Topic 13 Finding Utility and Respect
9. "
10. 発表
11. Topic 22 How the Moon Was Created
12. "
13. 発表
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 教科書・参考書

教科書 : World Outlook (朝日出版社)
Go Overseas! (松柏社)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室 : 総合教育棟 S408)

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
応用化学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

4. 授業計画

1. Animals are Moral Beings
2. Animals are Moral Beings
3. Obscenity and the Public Eye
4. Obscenity and the Public Eye
5. Pushing Free Trade
6. Pushing Free Trade
7. Lindows vs. Windows
8. Lindows vs. Windows
9. Female Students Dog-tired
10. Female Students Dog-tired
11. Dad's Lack of Parenting
12. Dad's Lack of Parenting
13. Stopping Spam
14. Stopping Spam
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 試験— 60%
 - (2) 授業での小テスト— 20%
 - (3) 授業での発表やレポート— 20%
- 総合評価で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long: Reflections on Social and Environmental Issues (Seibido)
2. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414)

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
総合システム工学科・マテリアル工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるような授業にしている。いわば、大学生にとってのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

異文化理解、科学、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Thinks... (1)
3. Thinks... (2)
4. Thinks... (3)
5. Locke in Place (1)
6. Locked in Place (2)
7. Locked in Place (3)
8. Review Test 1
9. Why the Mind is in the Head (1)
10. Why the Mind is in the Head (2)
11. Why the Mind is in the Head (3)
12. Why the Mind is in the Head (4)
13. Of Headless Mice... and Men (1)
14. Of Headless Mice... and Men (2)
15. Review Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることが有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

- 教科書：PRISM (研究社)
Tactic Listener (金星堂)
- 参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)
Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14:30 ~ 16:00)

(総合教育棟 4 階: S412)

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感じるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようにすることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。ジャンルの最終回には、ライティングにも挑戦する。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 歌詞の英語 I
- 第3回 歌詞の英語 II
- 第4回 歌詞の英語 III
- 第5回 新聞・雑誌の英語 I
- 第6回 新聞・雑誌の英語 II
- 第7回 新聞・雑誌の英語 III
- 第8回 新聞・雑誌の英語 IV
- 第9回 エッセイの英語 I
- 第10回 エッセイの英語 II
- 第11回 エッセイ・ライティング
- 第12回 スピーチ・プレゼンテーション I
- 第13回 スピーチ・プレゼンテーション II
- 第14回 スピーチ・プレゼンテーション III
- 第15回 総評

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 小レポート (40%) 期末レポート (30%)
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行う。十分な評価を得られなかった場合には、メイクアップをすること。
- ・自己学習の際には、図書館1階のCD、DVDや英字新聞等を利用すると良い。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：応用化学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

高校までに高めてきた英語の能力を維持し、かつさらに高めるため、様々なトピックの英文を経験することを第一目標とし、その書かれたものをいかに読み解くか、自己の知識・経験を基に考えることを次なる目標とする。

2. キーワード

読解力、メディア・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- 1. オリエンテーション
- 2. 1. Reading, Writing, and Rembrandt /
2. Stop the Pirates!
- 3. 3. English: Cool in School? /
4. Global Gender Bender: Prosperity Affects Men's Personalities More
- 4. 5. What makes a Hero? Nature, Nurture: or Both? /
6. Where is th Limit?
- 5. 7. Annie's Mailbox /
8. Atay Focused on the Events That Define History
- 6. 9. Danger for Sale? /
10. Rakugo no Kotohajime
- 7. 11. Freedom of Expression: NHK Wins, but Must Withstand Political Pressure /
12. Freedom of Speech
- 8. 13. The World after 9/11 /
14. Logical and Efficient, a Nation Opts Not to Marry
- 9. 15. Ainu Officially Declared Indigeneous /
16. Faux Sugar May HInder a Diet More tha They Help
- 10. 17. Making the News /
18. Climate Change Leaves Coral Reefs at Serious Risk
- 11. 19. Big Brother Is Watching You /
20. The Cubicle Bully: Worse Than Sexual Harrassment?
- 12. 21. Conventions and Underlying Stories /
22. The Blamning Great Pyramids of Giza
- 13. 23. Terror Laws 'Eat Away at Privacy /
24. Scientist Warns over Belief in Pseudoscience
- 14. まとめ
- 15. 定期試験

5. 評価方法・基準

評点の満点を100%とし、授業での発言や活動40%、定期試験60%評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必要とし、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。

7. 教科書・参考書

教科書：Vatious Reading Topics for Enjoying English! (松柏社)

8. オフィスアワー

授業時間前後

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：総合システム工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

オバマ大統領誕生後のアメリカはどう変わったか、現代のアメリカが直面した状況について書き下ろしたエッセイを題材とする。Reading Skills の基礎となる英文読解力を中心に鍛える。パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ、欧米的な論理展開を理解し、全体の流れをつかむことを目指す。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、アメリカ社会理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Lesson 1 Change We Can Believe In
3. Lesson 2 A World of Change
4. Lesson 3 Campus Trends, I
5. Lesson 4 Campus Trends, II
6. Lesson 5 It Pays to Hit the Books
7. Lesson 6 Americans with Disabilities
8. Lesson 7 You Are What You Eat
9. Lesson 8 Anything Good on TV Tonight?
10. Lesson 9 Speaking of Television
11. Lesson 10 Cellphones: Good News, Bad News
12. Lesson 11 Stop the Presses !
13. Lesson 12 Family Matters
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業の 3分の2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- CNN、ABCニュースを見てアメリカの現状を把握することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Changing America（南雲堂）

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）のに入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 B I Comprehensive English B I

対象学科（コース）：建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 毛利 史生

1. 概要

本講義では、現在の科学・技術に関する英文素材を使って、「読み」「聞く」「書く」「話す」の4技能をバランスよく身につけることを目標に掲げる。科学・技術に関する受講者の皆さんの関心が高まることはもちろんのこと、同時に英語の運用能力の基礎が身につくことを期待する。授業で読む英語素材を単に理解するだけにとどまらず、主体的に自分の意見を発信するという態度で受講していただきたい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、ライティング、音読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 ご注文はもう分かっていますよ
3. Unit 2 史上最大の空中戦
4. Unit 3 夢の青いバラ
5. Unit 4 もっと高く、もっと早く！
6. Unit 5 ‘ガン’ ばって肥満治療
7. Unit 6 新装！街のデジ写真館
8. Unit 7 進め！ヒト型ロボット
9. Unit 8 遺伝子ドーピングで金メダル？
10. Unit 9 地球に快適！野菜オイルカー
11. Unit 10 ‘ホッ’ と明るいコージェネ・ハウス
12. Unit 11 現実になるSF世界
13. Unit 12 便利は‘e’ けどゴミも出る
14. Unit 13 チップでなんでもチェック
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Pectrum（金星堂）

8. オフィスアワー

オフィスアワーはないが、質問等はメール（アドレス：fmohri@fukuoka-u.ac.jp）にて随時受け付ける。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」として「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 4, Garmarjobat
3. Unit 5, America's Game
4. Unit 10, Kenichiro Mogi
5. Unit 12 "Made in Japan"
6. Unit 14 Youth
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館のEnglish Journal等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Reading Crystalline（三修社）

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Living in Space
3. Living in Space
4. Cassini-Huygens Mission and the Mysterious Titan
5. Cassini-Huygens Mission and the Mysterious Titan
6. Basic Biochemistry
7. Basic Biochemistry
8. How does an Airplane fly?
9. How does an Airplane fly?
10. Robots for Space
11. Robots for Space
12. Physics of Roller Coasters
13. Physics of Roller Coasters
14. Apollo Rocket Part I
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表やレポート—20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)
2. Mark D. Stafford: Vital Skills for the TOEIC Test: Listening (Pearson Longman 桐原書店)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

文学やエッセイ、論文など、さまざまな文章を精選したテキストを用いて、多様な英語表現について学習する。多読よりも読みの深度を考慮したリーディングを中心に、適宜他の技能の練習も行ないたい。

2. キーワード

エッセイ、小説、論文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- George Orwell
- Elisabeth Kübler-Ross
- O. Henry
- George Gissing
- Ernest Hemingway
- Rachel Carson
- William Wilkie Collins
- Henry David Thoreau
- William Somerset Maugham
- Arthur Waley
- William Henry Davies
- Winston Churchill
- William James
- Robert Lynd
- Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：葉袋善郎、「名文で養う英語精読力」（研究社）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日4限（14：40～16：00）

（総合教育棟4階：S412）

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとまった文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation（1）
- 第3回 Explanation（2）
- 第4回 Explanation（3）
- 第5回 Essay（1）
- 第6回 Essay（2）
- 第7回 Essay（3）
- 第8回 Critiques（1）
- 第9回 Critiques（2）
- 第10回 Critiques（3）
- 第11回 Projects（1）
- 第12回 Projects（2）
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価方法・基準

平常点（30%）発表（30%）小レポート（40%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- 三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- 成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- 自主学習として、図書館のJapan Times や、インターネットで週刊ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- プリントを配布する。

辞書

8. オフィスアワー

オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

研究室：総合教育棟 410

連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

学生たちに現在求められている自己表現能力を向上させる上で、「オバマ演説集」は内容と技巧を兼ね備えた手本である。アメリカの再生を説く、オバマ大統領の名演説を教材として、リスニング力の強化とパブリック・スピーチの内容理解を演習形式で学んでいく。今後のアメリカが進む方向の理解も促す。

2. キーワード

政治演説、リスニング、リーディング、アメリカ社会理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Keynote Address, 2004 Democratic National Convention: “The Audacity of Hope” Part 1
3. “The Audacity of Hope” Part 2
4. “The Audacity of Hope” Part 3
5. “The Audacity of Hope” Part 4
6. “The Audacity of Hope” Part 5
7. Victory Speech: “Change Has Come to America” Part 1
8. “Change Has Come to America” Part 2
9. The Swearing In of Barack Obama as 44th U.S. President and Inaugural Address Part 1
10. Inaugural Address Part 2
11. Inaugural Address Part 3
12. Inaugural Address Part 4
13. Tokyo Speech (2009年11月14日)
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・全授業の 3分の2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・CNN、ABCニュースを見ることを勧める。特に、オバマ大統領関連のニュースには注目すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Major Speeches of Barack Obama: The Resurrection of America（南雲堂）

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）のに入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 黒木 隆善

1. 概要

本授業では、これからの英語学習につながる難易度の高い英文の読破を目指す。また、科学的な内容の英文を通して、英文の論点の掴み方や英語独特の表現方法を学習し、読解能力、表現力の向上を図る。聞く能力も向上させるため、リスニングも行う。

2. キーワード

論点の掴み方、表現力、リスニング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Talk to the Hand - Language might have evolved from gestures
3. No Place Like Om - Meditation training puts oomph into attention
4. Unstoppable Bot - Armed with self-scrutiny, a mangled robot moves on
5. Mafia Cowbirds - Do they muscle birds that don't play ball?
6. Nice Shot - Hepatitis E vaccine passes critical test
7. Cleaning Treasures - Safer solvents for restoring frescoes
8. Pothole Pals - Ants pave roads for fellow raiders
9. Violent Justice - Adult system fails young offenders
10. Why So Dry? - Ocean temperatures alone don't explain droughts
11. Formula for Panic - Crowd-motion findings may prevent stampedes
12. Low Life - Cold, polar ocean looks surprisingly rich
13. In the Zone - Extrasolar planet with the potential for life
14. Ancient Extract - T. rex fossil yields recognizable protein
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験 60%、提出物 40%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・授業態度の悪いものは総合評価より減点や、悪質な場合、除名とする。私語、内職、携帯電話の使用、厳禁。
- ・難解なテキストのため、十分な復習を必須とする。また、授業には必ず（電子）辞書を持ってくること。

7. 教科書・参考書

教科書：Science Speaks（最新科学の贈り物）金星堂

8. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問がある場合には、e-mail (parasitic_gap@yahoo.co.jp) で受け付けます。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 上村 隆一

1. 概要

理工系学生が各自の専門分野に進むための基本的な知識を習得しながら、論理的な英文の構成・展開方法を学ぶ。その上で、具体的な自然科学分野の英文教材を使いながら、基礎語彙・特有の語法と効果的な読解スキルを身につけることができるよう、例題とエッセイの実例を使った演習を行う。（教科書を用いるオンライン学習とeラーニング教材を用いるオンライン学習を併用したブレンドッド・ラーニング形式を取る。）

2. キーワード

技術英文、パラグラフ・リーディング、構造パターン

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction ? Course overview
2. Reasons/Conclusions
3. Analysis
4. Analysis
5. Controversy
6. Comparison/Contrast
7. Classification
8. Chronological Order
9. Cause & Effect
10. Process Analysis
11. Explanation (Theory)
12. Definition
13. Explanation (Experiment)
14. Graph Analysis
15. 試験

5. 評価方法・基準

期末試験（50%）および授業時の小テスト（30%）および授業時課題（20%）

試験・テスト平均が60%を越えることを合格基準とし、授業時宿題発表の結果と出席状況を加味して評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

とにかく、教科書の内容について、指示された予習範囲、小テストの対策・準備を怠らないようにすること。ウェブ上のオンライン素材については、授業中に指示するので、できるだけ英文のまま理解できるように努力してもらいたい。

7. 教科書・参考書

授業時に指示する。

8. オフィスアワー

e-mail: uemura@env.kitakyu-u.ac.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

素朴な疑問に答える英文を集めた文化エッセイを読みながら基本的な文法や文化的背景を学んでいく。本文は比較的短い文章で構成されているが、学習者の興味、関心の高い内容のものとなっている。各単元終了ごとに復習テストをして知識を確実なものとする。さらにイギリス英語を学ぶことを通して文化の違いを理解し、視野を広めることを目標とする。

2. キーワード

異文化理解 日英比較 文化的基礎知識 基本的文法力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

01. オリエンテーション
02. Lesson 1 ALPHABET
03. Lesson 2 ANIMALS
04. Lesson 3 EDUCATION
05. Lesson 4 FASHION
06. Lesson 5 RELIGION
07. Lesson 6 FOOD
08. Lesson 7 HEALTH
09. Lesson 8 PROVERBS
10. Lesson 9 SCIENCE
11. Lesson 10 SPORTS
12. Lesson 11 LAUGHTER
13. Lesson 12 GARDENING
14. Lesson 13 HISTORY
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

期末試験（70%）

出席点（10%）

受講態度（20%）

により総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の出席が、履修資格の条件。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。
- 予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Do you know this? (Asahi Press)

8. オフィスアワー

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 熊谷 美佐子

1. 概要

この授業ではリーディングスキルの向上を目指します。特に基本文法の確認、速読の練習、クリティカルリーディングを意識して総合的な読解スキルを養います。文章の形式と内容の構造について学び、辞書の効果的な使い方を練習し、派生語や連語について学び語彙力をつけていきます。

2. キーワード

概要と具体的情報、パラグラフの構造（トピックセンテンス、サポーティングセンテンス）、導入、本文、纏め派生語、連語。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーションと語彙力チェック
2. Pet Medicine
3. China's Four-Wheel Revolution
4. Lifestyle Coaches
5. Wasabi from Japan
6. Time Out
7. Women Bodyguards
8. Taste and Flavor
9. Cutting Edge Technology
10. Cowboys and Samurai
11. Prison Fashion
12. Aftereffects of War
13. The Art of Making Perfume
14. Living with Reindeer
15. まとめ、語彙力チェック

5. 評価方法・基準

期末試験（40%）、クイズ（40%）、（予習復習を含む）授業への参加（20%）。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・単位は教室外の自習時間を含めているので、十分な予習復習を行うことは原則である。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：「Prism (Blue)」マクミランランゲージハウス

8. オフィスアワー

連絡先：kumagai@shimonoseki-cu.ac.jp

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
応用化学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CDを活用し、英語のリスニングに重点を置き、英語耳を育成する。耳で聞いた英文を読んで内容を確認し、自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Another Kotooshu
3. Unit 2 Brain Trainer
4. Unit 3 World Heritage: Shiretoko
5. Unit 4 Vanishing Tradition
6. Unit 5 Pet Hotels
7. Unit 6 Bird Flu Response
8. Unit 7 Population Decrease
9. Unit 8 A Lifelong Craft
10. Unit 9 Plastic Bottle Lifesaver
11. Unit 10 Moving Cost
12. Unit 11 Can Art
13. Unit 12 Ozawa Wins
14. Unit 13 Canned Tulips
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

評点の満点を100%とし、授業での発言や活動40%、定期試験60%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。

7. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan（金星堂）

8. オフィスアワー

授業時間前後

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

グローバル化の進んだ現代社会においては、英米圏のみならず、世界中の文化に目を向けることが必要である。互いを知り、認め、理解するという真の国際人に求められる基本的態度を育成する。国際理解のツールとしての英語の総合的なスキル向上を目指す。

2. キーワード

英文読解・聴解力、異文化理解、国際理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Orientation/Australia: Flexible School Traditions
2. China: Youth Culture
3. Finland: Perspectives in Learning
4. Germany: Eco-Consciousness
5. Iceland: Global Warming Threat
6. Indonesia: A Comfortable Moment
7. Italy: Historical Sites
8. Korea: Leisure Time
9. Russia: A New Cultural Stream
10. Spain: A New Trend in Culture
11. Tanzania: Cultural Conflict
12. Thailand: The National Symbol
13. The United Kingdom: Ghosts, Fireworks, and Pubs
14. The United States: Security Measures
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習・復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHKのラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：*Around the Globe: New Trends and Old Traditions*（南雲堂）

8. オフィスアワー

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

将来、専門の分野に進んだ際、研究に関連した論文、またインターネットで関連する分野の記事を探すといったことが必要になってくる。日本語で全て行えるに越したことはないが、最新の論文などはどうしても英語で読む必要が出てくる。そういった現状を踏まえて、授業では理工系英語のリーディングを重点的に行い、必要となる情報を英語で確実に見つけ出していく練習を行う。同時に、リスニングの練習もしていく。

2. キーワード

テクニカル・イングリッシュ、リーディング、リスニング

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション・Unit 2
2. Unit 1 Safety Rules
3. Unit 3 Product Specifications
4. Unit 4 Instruction Manual
5. Unit 5 Laboratory MAnnual 1: Background
6. Unit 6 Laboratory Manual 2: Procedures
7. Unit 7 Q&A: Facts
8. Unit 8 Science Feature Article
9. Unit 10 Company Website
10. Unit 11 Curriculum Vitae
11. Unit 12 Call for Papers
12. Resistration Form
13. Unit 14 Email
14. Unit 15 Research Paper Abstract
15. まとめ

5. 評価方法・基準

定期試験 50%、授業点 50%、総合評価で60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：*Essential Genres in SciTech English*（金星堂）

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 中村 幸子

1. 概要

小説、実話、日記、サイエンスリポートなど幅広いジャンルの読み物を読んでいます。テキストの英文は、いずれも実際に英語圏で読まれている生の素材から取られたもので、文の持ち味も、読む手ごたえも、それぞれ違います。中にはかなり難しいものもありますが、苦戦しながらも読み通すことで、必ず実力が付いてきます。

各章毎に、正確な音読と訳読、内容理解の確認のための設問や聴解テスト、語彙に関する小テスト等を行います。

2. キーワード

読解力、語彙力、表現力、聴解力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Unit 1 The Cat Who Liked Potato Soup (1)
2. Unit 2 The Cat Who Liked Potato Soup (2)
3. Unit 3 At War Within (1)
4. Unit 4 At War Within (2)
5. Unit 5 The Girl With The White Flag (1)
6. Unit 6 The Girl With The White Flag (2)
7. Unit 7 Eating Well For Optimum Health (1)
8. Unit 8 Eating Well For Optimum Health (2)
9. Unit 12 Howl's Moving Castle (1)
10. Unit 13 Howl's Moving Castle (2)
11. Unit 14 Unbeaten Tracks In Japan(1)
12. Unit 15 Unbeaten Tracks In Japan (2)
13. Unit 16 Old Possum's Book Of Practical Cats
14. Unit 19 Talented Terrier
15. Unit 22 To Err Is Human (1)

5. 評価方法・基準

原則として、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%の総合点で評価し、総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・予習、課外学習
 1. 初回の講義より、教科書、辞書、ノート必携
 2. 十分な予習が必要
 3. ラジオ、TV、ネット上の学習サイトの積極的な活用を勧める
- ・注意事項
 1. 全体の3分の2以上の出席数がないと、履修資格を失う。遅刻、早退は3回で欠席一回とみなす。
 2. 飲食(チューインガムも含む)、私語、居眠り(ひどい場合は出席扱いしない)、携帯の使用等を禁止する。

7. 教科書・参考書

教科書：Deeply Into Reading 杉本孝子著 南雲堂

8. オフィスアワー

総合英語 C I Comprehensive English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

英語の基本的な運用能力を高めるために色々な場面を想定して、聞く、話す、読む、書くという英語の総合能力を培うことを目指す。同時に発音の練習に力を入れて、再訓練する。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、情報交換。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Meeting people for the first time.
3. Joining the crowd.
4. I have a favor to ask.
5. You're drunk, Koji.
6. Do men touch each other here?
7. Are you married?
8. So, you want to know about guns?
9. He's cute!
10. What's a stepfather?
11. Many Americans sleep naked!
12. Party tips.
13. Do you sing the National Anthem?
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。

総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Tell me why (Sanshusha)

8. オフィスアワー

中級英語 I Intermediate English I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

3. 到達目標

- 1) To improve the listening and speaking ability of students
 - 2) To deepen their understanding of current events in the world
- 主体的な英語学習の態度を育成する
 - 多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. It's absolutely true!
3. Are you a morning person?
4. What's in a name?
5. Career paths
6. On the other hand
7. Corporate spying
8. Teamwork
9. Nice to meet you
10. Australia
11. Take it easy
12. Determination
13. Money matters
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業時間外の学習等 3 分の 2 の出席数がないと履修資格を失う
(工学部学修細則第 11 条 2)

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書 : Language to go - intermediate
(Pearson Longman 出版)

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語 I Intermediate English I

対象学科 (コース) : 全学科

学年 : 全学年 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will help students to develop their interview skills and group discussion skills. Specifically, students will practice answering questions relating to the student's background, classes, goals, research areas, and ability to discuss a variety of engineering topics. Students will be given in-depth practice in becoming familiar with typical interview questions, and adequately answering them, for KIT exchange programs like ODU and for Space University. The second aspect concerns students to being to discuss a wide variety of issues relating to Japanese culture and life.

2. キーワード

Presentations, interviews, job skills, intercultural discussions

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- Week 1 Explaining Japanese Sports and clubs
Week 2 Explaining Japanese Music
Week 3 Explaining Japanese Food
Week 4 Explaining Japanese Handicrafts
Week 5 Explaining Japanese Holidays
Week 6 Explaining Japanese Games
Week 7 Explaining Japanese Cities and Places
Week 8 Explaining Japanese Relaxation Practices
Week 9 Explaining Famous Japanese People
Week 10 Explaining Japanese Superstitions
Week 11 Explaining Japanese Animations
Week 12 Explaining Japanese Arts and Theater
Week 13 Explaining Japanese Etiquette and Customs
Week 14 Explaining Japanese Buildings and Gardens
Week 15 Exam

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner to find out questions about Japanese culture and to explain them. A report of the interview should then be turned in the following week.

7. 教科書・参考書

Explain It: Talking about Japanese Culture in English.
Robert Long. Perceptia Press, Nagoya.

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00
Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

中級英語 I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、英字新聞やインターネットを通じた情報収集、さらにはスピーチの実践といった、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1. Don't Drink and Die!
3. Unit 2. Building Up Her Muscles
4. Unit 3. A Costly Dream Comes True
5. Unit 4. Katakana
6. Unit 5. Adult-Brats Test Your Nerves
7. Unit 6. Home Schooling
8. Unit 7. 1000Yen for a Pack of Cigarettes
9. Unit 8. To Dye or Not Dye
10. Unit 9. Convenience That Kills
11. Unit 10. Whaling
12. アウトライン発表会
13. スピーチ・コンテスト 予行演習
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・図書館の英字新聞、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Ready to Start? Developing the Four Skills
(An Intermediate Course) (松柏社)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。
(研究室：共通教育棟 S408)

中級英語 I Intermediate English I

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違えることを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 スピーチと読解 India
- 第3回 スピーチと議論
- 第4回 スピーチと読解 Thailand
- 第5回 スピーチと議論
- 第6回 スピーチと読解 Vietnam
- 第7回 スピーチと議論
- 第8回 スピーチと読解 Malaysia
- 第9回 スピーチと議論
- 第10回 スピーチと読解 Singapore
- 第11回 スピーチと議論
- 第12回 スピーチと読解 Indonesia
- 第13回 スピーチと議論
- 第14回 スピーチと読解 The Philippines
- 第15回 スピーチと議論

5. 評価方法・基準

平常点 (70%) 期末課題 (30%)
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

辞書を持参すること。
授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。スピーチについては、毎回のスピーチ指導によって上達を図る。

7. 教科書・参考書

Nobuyuki Homma, Understanding Asia, Cengage Learning
辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

上級英語 A I Advanced English A I

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce students to a higher level of competence in the four skills, with special emphasis on Listening and Speaking

2. キーワード

Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

a) To improve the English of students.
(Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).

b) To make students feel more confident about using English for communication.

- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introductions
2. Getting ahead
3. Modern survival
4. Coincidences
5. Friends
6. Small talk
7. True love
8. The daddy of discipline
9. That's funny
10. A perfect weekend
11. Just the job
12. In the media
13. Ready to cook!
14. Revision
15. Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
 - b) do writing exercises on your own
- 60点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Upper Intermediate

参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A I Advanced English A I

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. The focus is on topics concerning Japanese culture.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. Crazy Fashions the Norm | Paired Interviews |
| 2. Marriage Under the Microscope | Consultations |
| 3. Wireless Japan | Debates |
| 4. My Grandfather's Binbogami | Group Work |
| 5. Review | Review |
| 6. E-Commerce | Surveying |
| 7. Rap and Hip-Hop Music | Paired Interviews |
| 8. Review | Review |
| 9. Children: A Different Breed | Consultations |
| 10. Competitive Sports | Debates |
| 11. Women Managers | Group Work |
| 12. Social Activists | Surveying |
| 13. Review | Review |
| 14. Review | Review |
| 15. Exam | |

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Quizzes 50% Speeches: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments in their own area, and to do a few short presentations in the own area. Therefore, they are expected to do some research concerning various research aspects that they are interested in and like to study. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

Crossing Over: Exploring Japanese Culture and Life through English, by Robert Long. Lulu Press. ISBN 1-4116-28039

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科(コース)：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に上達させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking(批判的思考)能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 7 割程度、またその延長線上にある presentation に 3 割程度の時間を当てる。

さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

1. 社会ニュース
2. 科学ニュース
3. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

5. 評価方法・基準

- (1) 学科試験・・・20%
- (2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・60%
- (3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目(総合教育棟 4 階 414)

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

上級英語 B I Advanced English B I

対象学科(コース)：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 江口 雅子

1. 概要

大学院に進学する学生、国際社会に巣立つ学生を見据えると、海外ニュースを聞き取り、海外事情に精通することは重要である。本授業では、米国三大ネットワークの一つ CBS Evening News 番組を題材として、ニュースの自然な英語を英語で聞き、英語で理解し、リスニング力の一層の向上を目指す。扱うニュースは、2009年最初のアフリカ系アメリカ人の大統領となったオバマの就任式に向けての厳重な警備についてのトピックをはじめとして、アメリカ経済・環境・社会をカバーした幅広いトピックで構成されている。今後のアメリカが進む方向の理解も促す。

2. キーワード

海外ニュース、リスニング、アメリカ社会理解

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1 Security for Inauguration (消える音(1))
3. Chapter 2 President's First Day (消える音(2))
4. Chapter 3 Auto Sales (応答の予測)
5. Chapter 4 Leading by Example (1つになる音)
6. Chapter 5 Behind Wall Street Bonuses (音の短縮)
7. Chapter 7 Giving (つながる音(1))
8. Chapter 8 Rising Rivers (つながる音(2))
9. Chapter 9 Commercial Real Estate (無声化する音)
10. Chapter 11 Emergency Room Visits (有声化する音)
11. Chapter 12 Looking Up (弱くなる音)
12. Chapter 13 Selling Gold (音の弱形)
13. Chapter 14 Insurance Scam (音の強形)
14. Chapter 15 Rethinking Retirement (区別しにくい音)
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を 70%、期末試験を 30%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・アメリカ社会、文化に関心を持つ学生、リスニング力を更に向上させたい学生を受講を勧める。
- ・教科書付属のDVDで予習、復習をすること。
- ・授業への積極的参加を求める。
- ・CBS Evening Newsは2006年より、コンテンツの同時オンライン配信を無料で始めている。インターネットで興味のあるニュースを視聴することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：CBS News Flash on DVD 2 (成美堂)

参考書：リーダーズ英和辞典(研究社)の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

上級英語 C I Advanced English C I

対象学科 (コース) : 全学科 学年 : 3・4年次
 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Adventure
3. Crime
4. Culture Clash
5. Ecology
6. Freedom
7. Discussion 1
8. Globalisation
9. Horror
10. Language
11. London Life
12. Love
13. Discussion 2
14. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書 : Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)
 参考書 : 新版研究社英和中辞典 (辞書を持たない人に)
 Oxford Advanced Learner's Dictionary (英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14 : 40-16 : 00)
 (総合教育棟 4 階 : 412)

技術英語 I Technical English I

対象学科 (コース) : 全学科 学年 : 3・4年次
 学期 : 前期 単位区分 : 選択 単位数 : 1 単位
 担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Corrosion	L.A. network	Fluid Mechanics	Struct. Analysis	Elect. resistance
2. Bonding	P-to-P Network	Mechatronics	Seismic Eng.	Electrostatics
3. Radiochemistry	ZigBee	Pneumatics	Dams	Elect. Networks
4. Ceramics	Wireless Mesh Net.	Solar Energy	Bridges	Digital Circuits
5. Acids	Ant Colony Opt.	Automatic Systems	Reservoirs	Transformers
6. Reviews / Exams				
7. Absorption	Software Eng.	Nanotechnology	Surveying	Telecommunications
8. Analytical chem.	Computer Arch.	Drafting	Fire Protection	Voltage
9. Catalysis	Operating systems	Piping	Geotechnical Eng.	Electronics
10. Chemical Kinetics	Cryptography	Seals/Fitting	Transport Eng.	Microelectronics
11. Chemical reactors	Artificial Intell.	Values	Environmental Eng.	Signal Processing
12. Reviews / Presentations				
13. Reviews / Presentations				
14. Exams				

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix I, by Robert Long, and Brian Cullen, Perceptia Press
 ISBN# 4-939130-93-2

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00
 Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

総合英語 A II Comprehensive English A II

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton, Robert Long, Mark Gibson,
Mike Mackay, Chris O' Sullivan, Gareth
Steele, Andrew Watt, Mason Lampert, Peter
Polmeartagami

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is the only one taught by native speakers.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, communication, culture

3. 到達目標

- (a) To introduce freshmen students to native-speaker led listening and speaking practice in English
- (b) To review some basic grammatical structures, develop vocabulary, and examine the use of common expressions
- (c) To practice the writing of English paragraphs and compositions
- (d) To develop the confidence of students about spoken English and encountering foreign cultures
- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 英語圏での必要最低限の会話能力を身につける

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Test

5. 評価方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

必ず一年生の間この必修単位を取ってください！！後は専攻で忙しくなるから。Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your major. Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

- (1) Headway – Pre-Intermediate
- (2) Instructors may use other textbooks approved by the coordinator

8. オフィスアワー

Mondays, 12.00-2.30pm.
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp
(Room 404 General Education Building)

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
応用化学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 5 Undeclared
3. "
4. 発表
5. Topic 12 Urban Outfitters
6. "
7. 発表
8. Topic 20 Love Is in the Air
9. "
10. 発表
11. Topic 21 Women MBAs Lead Way to the Future
12. "
13. 発表
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- 図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べる。

7. 教科書・参考書

教科書：World Outlook (朝日出版社)
Experience an English Program! (松柏社)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
応用化学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない環境問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

環境問題、社会問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

年間を通じて、reading、discussion や writing に 8 割程度、listening comprehension や dictation 演習に 2 割程度の講義時間を割り当てる。

1. Kazaa and Music Piracy
2. Kazaa and Music Piracy
3. Are We Grown Up Yet ?
4. Are We Grown Up Yet ?
5. Systems is Washing Ph. D Brainpower
6. Systems is Washing Ph. D Brainpower
7. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
8. Diesel Polluting Trucks Outlawed in Tokyo
9. Key Ocean Fish Species Disappearing
10. Key Ocean Fish Species Disappearing
11. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
12. Male Chauvinism Still Dominates Sumo World
13. Crazy Spoiled Youth
14. Crazy Spoiled Youth
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 試験—60%
- (2) 授業での小テスト—20%
- (3) 授業での発表やレポート—20%

総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Tabuki・Long : Reflections on Social and Environmental Issues(Seibido)
2. Eguma: Listening Navigator for the TOEIC Test (Seibido)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目 (総合教育棟 4 階 414)

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

情報の氾濫する現代社会にあって、英語学習も多岐に渡っている。本授業は、レベルの高い英語を読破していくことを目指す。学生にとっては、このテキスト読解を、英語運用能力の一つの基準として設定できるように授業にしている。いわば、大学生としてのリーディングの目標を定めている。

2. キーワード

文学、異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. The Art of Loving (1)
3. The Art of Loving (2)
4. The Art of Loving (3)
5. The Science of Love (1)
6. The Science of Love (2)
7. The Science of Love (3)
8. Review Test 1
9. Gender Signals (1)
10. Gender Signals (2)
11. Gender Signals (3)
12. The Gay Side of Nature
13. Herland (1)
14. Herland (2)
15. Review Test 2

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。(履修細則第11条2)
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合(私語、内職、携帯の使用など)は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材(附属図書館蔵)を授業時間外にみることは有益である。(詳細は授業中に説明する。)

7. 教科書・参考書

教科書：PRISM(研究社)

参考書：新版研究社英和中辞典(辞書を持たない人に)

Oxford Advanced Learner's Dictionary(英英辞書に関心がある人に)

8. オフィスアワー

火曜日 4 限 (14:40 ~ 16:00)

(総合教育棟 4 階: S412)

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・

総合システム工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

前期に引き続いて、多種多分野の英語に触れることを目的とし、英語の利用法・活用法を学ぶ。前期に提出したレポートをもとに学生が発表を行い、英文の内容を理解するとともに、発表の仕方や質問、評価の仕方なども学ぶ。また、教員が話すショート・ストーリーのリスニング&クエスチョンも行う。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

第1回 デモンストラーション

第2回 発表と評価

第3回 発表と評価

第4回 発表と評価

第5回 発表と評価

第6回 発表と評価

第7回 発表と評価

第8回 発表と評価

第9回 発表と評価

第10回 発表と評価

第11回 発表と評価

第12回 発表と評価

第13回 発表と評価

第14回 発表と評価

第15回 総評

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 期末試験 (40%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・授業で使用するプリントはHPに掲載するので、各自確認すること。
- ・三分の二以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- ・発表の前には必ず準備をすること。時間配分について計画を立て、本文中の疑問点はオフィス・アワーを利用して解決しておく。

7. 教科書・参考書

・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・HP：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学期（コース）：応用化学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

英語の読解力を高めると共に、パラグラフごとにまとめて内容を理解する能力を養う。自己の意見をビルド・アップしていく素材としての英文を経験し、意見を発展させる力も育成する。

2. キーワード

読解力、論理的思考力、パラグラフ・リーディング、メディア・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1 The American West
3. Chapter 2 Race and Class in America
4. Chapter 3 Interracial Love and Marriage
5. Chapter 4 Religion
6. Chapter 5 The Jury system
7. Chapter 7 Guns and Media
8. Chapter 8 Heroes: Legends and Lies
9. Chapter 9 War and Media: The First Casualty
10. Chapter 10 Sports and the American Way
11. Chapter 11 Health and Diet
12. Chapter 12 Failing Grades
13. Chapter 13 Rock Music and American Values
14. Hollywood and 9/11
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

評点の満点を100%とし、授業での発言や活動40%、定期試験60%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必要とし、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・テキストに随時紹介される映画やドキュメンタリーを個々人で観ておくことが、理解をさらに深めるためには望ましい。

7. 教科書・参考書

教科書：Reading Contemporary America (松柏社)

8. オフィスアワー

授業時間前後

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：総合システム工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

アメリカと日本の今後の連携のあり方を考える日米比較に関するエッセイを題材とする。英文読解力を向上させる。パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ、欧米的な論理展開を理解し、全体の流れをつかむことを目指す。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、国際性

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Lesson 1 The First African-American President
3. Lesson 2 From an Eloquent Orator to a Practitioner
4. Lesson 3 Struggles for Freedom and Self-respect
5. Lesson 4 Prospects for the Automobile Industry
6. Lesson 5 An Encounter with Destiny
7. Lesson 6 The Statue of Liberty
8. Lesson 7 Keys to Success
9. Lesson 8 Transformation in New York
10. Lesson 9 A Surprising Exhibition in front of the White House
11. Lesson 10 Lawsuits and Self-justification
12. Lesson 14 The United States Composed of Immigrants
13. Lesson 15 Ways of Succeeding in life
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業の 3分の2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- CNN、ABC、及び日本のニュースを見て、日米関係の現状を把握することを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Japan and U.S. Relations for a Better Future
(松柏社)

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 B II Comprehensive English B II

対象学科（コース）：建設社会工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 毛利 史生

1. 概要

本講義では、現在の科学・技術に関する英文素材を使って、「読み」「聞く」「書く」「話す」の4技能をバランスよく身につけることを目標に掲げる。科学・技術に関する受講者の皆さんの関心が高まることはもちろんのこと、同時に英語の運用能力の基礎が身につくことを期待する。授業で読む英語素材を単に理解するだけにとどまらず、主体的に自分の意見を発信するという態度で受講していただきたい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、ライティング、音読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Unit 1 電子的インク
2. Unit 3 地震予報
3. Unit 4 燃料電池
4. Unit 6 暴力的遺伝子
5. Unit 7 ハイテクビル
6. Unit 8 小惑星爆発
7. Unit 10 大西洋暖流コンベヤー
8. Unit 11 絶世の美人
9. Unit 12 模擬飛行訓練装置
10. Unit 13 マンモスの再現
11. Unit 14 エシュロン
12. Unit 15 クモの牧場化
13. Unit 17 マイクロロボット
14. Unit 18 宇宙からのヒッチハイカー
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Cutting Edge in Science（金星堂）

8. オフィスアワー

オフィスアワーはないが、質問等はメール（アドレス：fmohri@fukuoka-u.ac.jp）にて随時受け付ける。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 2. Saving Traditional Food
3. Unit 4. The “Mods” and “Rockers”
4. Unit 7. Who’s Smarter
5. Unit 8. Of Walls and Eggs
6. Unit 11. The Ubiquitous Bow
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト 予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加50%、スピーチ50%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・インターネットや図書館のEnglish Journal等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 教科書・参考書

教科書：Reading Wizard（金星堂）

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：共通教育棟 S408）

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Apollo Rocket Part II
3. Apollo Rocket Part II
4. Global Warming
5. Global Warming
6. Aurora and the Magnetosphere
7. Aurora and the Magnetosphere
8. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
9. Electric Cars and Lithium-Ion Batteries
10. Solar Cells
11. Solar Cells
12. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
13. Mysteries of the Great Pyramid of Egypt
14. Laboratory Instruments
15. 試験

5. 評価方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表やレポート—20%
- 総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 教科書・参考書

1. Michael C. Faudree: Adventures of Science (Eihosha)
2. Mark D. Stafford: Vital Skills for the TOEIC Test: Listening(Pearson Longman 桐原書店)

8. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

現代文化を読み解くためのキーワードを学ぶためのテキストを選んだ。現在起こっているさまざまな問題の背後に隠れている考えや歴史について概観することで、英語圏文化のよりよい理解につながる授業である。

2. キーワード

カルチュラル・スタディーズ、多文化、異文化、国際理解、ジェンダー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける

4. 授業計画

1. Culture (1)
2. Culture (2)
3. Communications (1)
4. Communications (2)
5. Multicultural Understanding (1)
6. Multicultural Understanding (2)
7. Sex and Gender (1)
8. Sex and Gender (2)
9. English Language in Culture (1)
10. English Language in Culture (2)
11. Cosmopolitan London
12. Ethnic Problem -- Asian Americans (1)
13. Ethnic Problem -- Asian Americans (2)
14. Ethnic Problem -- Asian Americans (3)
15. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：安藤勝夫他、『カルチュラル・スタディーズ』（英宝社）

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日4限（14：40～16：00）

（総合教育棟4階：S412）

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って執筆される。良い文章、人に理解される文章を書くためには、語彙力や文法力のみならず、英文特有の文章構成パターンを身につける必要がある。本授業では、いくつかの典型的構成パターンを学び、英語でまとまった文章を書けるようになることを目指す。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション、サンプル・リーディング
- 第2回 Explanation (1)
- 第3回 Explanation (2)
- 第4回 Explanation (3)
- 第5回 Essay (1)
- 第6回 Essay (2)
- 第7回 Essay (3)
- 第8回 Critiques (1)
- 第9回 Critiques (2)
- 第10回 Critiques (3)
- 第11回 Projects (1)
- 第12回 Projects (2)
- 第13回 Presentation
- 第14回 Presentation
- 第15回 Presentation

5. 評価方法・基準

平常点 (30%) 発表 (30%) 小レポート (40%)

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。三分の二以上の全体出席数がない場合は、履修資格を失うので注意。
- ・成績が「再試対象」となった場合には、個別に教員に連絡を取ること。
- ・自主学習として、図書館のJapan Times や、インターネットで週刊ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。

・辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照

- ・研究室：総合教育棟 410

- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース) : 全学科

学年 : 2年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

カンヌ国際広告祭受賞のTVコマーシャルを教材として、生きたスピード感のある口語的表現を学び、リスニング能力の一層の向上を目指す。コマーシャルの背景の読解に関しては、速読を促し、現代社会における大量の情報を処理できる能力も養う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リスニング、速読

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Meijer - Higher Standards, Lower Prices
3. Unit 2 This Calls for a Bud Light
4. Unit 3 Anti-Discrimination Campaign
5. Unit 4 McDonald's - King of Fast-Food Restaurants
6. Unit 5 Relax, it's FedEx.
7. Unit 6 BMW - A Car beyond Reason
8. Unit 7 Banking for the Filthy Rich
9. Unit 8 Learning Languages
10. Unit 9 Pepsi - Ask for More
11. Unit 10 United Nations Development Programme
12. Unit 11 Disney - Magic Happens
13. Unit 12 Coca-Cola - For Everyone
14. まとめ
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

原則として定期試験 50%、活動参加・発表点 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業の 3分の2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、充分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- スピードのある英語に慣れるため、気に入った英語ドラマや映画を視聴したり、興味のある英語ニュースを見ることを勧める。

7. 教科書・参考書

教科書 : English in 30 Seconds - Award-Winning TV Commercials from Cannes Lions (南雲堂)

参考書 : リーダース英和辞典(研究社)の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。Longman Dictionary of English Language and Culture(文化面の記載が充実している。文化に関心のある人向き)

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス : teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科(コース) : 全学科

学年 : 2年次 学期 : 後期 単位区分 : 必修 単位数 : 1単位

担当教員名 上村 隆一

1. 概要

高度情報化社会で必要とされる技術系の英文理解につながる読解スキル習得を目指した演習を行う。英文のパラグラフで用いられる主要な構造パターンに着目し、特徴的な論理展開を学習する。1つの構造パターンに対して複数の教材ユニットを用意しており、実用的な読解能力を身につけやすいよう工夫してある。教科書で扱う素材は、情報科学や技術系専門雑誌から得られた知識を基に書き下ろされたもので、語彙レベルも難解になりすぎないよう配慮している。(教科書を用いるオフライン学習とeラーニング教材を用いるオンライン学習を併用したブレンディッド・ラーニング形式を取る。)

2. キーワード

技術英文、パラグラフ・リーディング、構造パターン

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction: Course overview
2. The Uncanny Valley
3. Biotope
4. Church of the Light
5. Energy-efficient Housing
6. Universal Design
7. Living with Robots
8. Still Evolving After All These Tears
9. Choosing and Protecting Passwords
10. Linux
11. Stein Cells? A Miracle Cure?
12. Earth Batteries
13. Predicting Intentions
14. Urban Heat Islands
15. 試験

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

とにかく、教科書の内容について、指示された予習範囲、小テストの対策・準備を怠らないようにすること。ウェブ上のオンライン素材については、授業中に指示するので、できるだけ英文のまま理解できるように努力してもらいたい。

7. 教科書・参考書

教科書 : K.Hitomi, H.Yoshida and E.Yubune: Paragraph Reading: 21 World-Changing Innovations 改訂版 (南雲堂, 2009) *変更の可能性もあり。

8. オフィスアワー

e-mail: uemura@env.kitakyu-u.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

日本語と英語を対照しながら基本的な文法や文化的背景を学んでいく。本文は比較的短い文章で構成された文化エッセイであり、文化的基礎知識を学ぶには適切なものとなっている。各単元終了ごとに復習テストをして知識を確実なものとする。

2. キーワード

異文化理解 日英比較 文化的基礎知識 基本的文法力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

01. オリエンテーション
02. Language
03. Food
04. Education
05. Fashion
06. Superstition
07. Animals
08. Health
09. Proverbs
10. Science
11. Sports
12. Religion
13. Laughter
14. History
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

期末試験 (70%)

出席点 (10%)

受講態度 (20%)

により総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Eye-Opening Facts (Asahi Press)

8. オフィスアワー

メールアドレス

yume0801@iris.ocn.ne.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 熊谷 美佐子

1. 概要

この授業ではリーディング（読解）に重点をおきながらリスニング力（聴解）の向上も目指します。ニュースを聞き、内容確認の後、同じような内容をテキストを読んで行きます。内容は多岐にわたり、関連情報 URL から該当する答えを検索する課題があります。たくさん読み、聞いて、語彙や連語・イディオマティックな表現を学習し、（比較的ゆっくりではあるが）ナチュラルスピードの音声特徴に慣れる練習をします。

2. キーワード

語彙、慣用表現、連語、リズムとイントネーション、音の変化（脱落、同化など）

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーションと語彙力チェック
2. Bill Gates
3. Elections on Tuesdays
4. Studying in US
5. Louis Armstrong
6. Fallingwater
7. Football
8. Family Planning Policy
9. America's Most Wanted
10. Dormitory Living
11. Harvard University
12. GeekCorps
13. Kwanzaa
14. 補助プリント
15. 纏め、語彙力チェック

5. 評価方法・基準

期末試験 (40%)、クイズ (40%)、(予習復習を含む) 授業への参加 (20%)。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・単位は教室外の自習時間を含めているので、十分な予習復習を行うことは原則である。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：「オンラインで学ぶVOAライフ系総合英語」松柏社

8. オフィスアワー

連絡先：kumagai@shimonoseki-cu.ac.jp

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CDを活用し、英語のリスニングに重点を置き、英語耳を育成する。耳で聞いた英文を読んで内容を確認し、自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1 Mothers, Single by Choice
3. Chapter 2 Fragrance by Design
4. Chapter 3 Fashionably Green
5. Chapter 4 Super Dog
6. Chapter 5 Inventive New Toys
7. Chapter 7 Relaxing with Yoga
8. Chapter 8 Good Trash
9. Chapter 9 Pet Rescue
10. Chapter10 Saving Art from the Big Spenders
11. Chapter 11 Tasty Business
12. Chapter 12 Musical Impact
13. Chapter 13 Flea Market, Blooklyn Style
14. Fighting Global Warming
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

評点の満点を100%とし、授業での発言や活動40%、定期試験60%で評価する。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。

7. 教科書・参考書

教科書：New York Streets（金星堂）

8. オフィスアワー

授業時間前後

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 菰田 真由美

1. 概要

主に環境や健康問題に関する、世界各地から発信されたニュース英文をテキストにし、「読む」、「書く」、「聴く」、「話す」の4技能を総合的に培う。同時に、世界各地に発生している環境・健康問題を理解し、国際的な視野を備えさせる。

2. キーワード

英文読解力、英作文能力、語彙力、構文理解、環境・健康問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Orientation/Scientists Zap Coral Reefs with Electricity to Save Them
2. "Humble" Potato Emerging as World's Next Food Source
3. Offices Use Ice to Cool Down and Save Power
4. Study: Exercise in Middle Age Cuts Risk of Alzheimer's
5. Egyptians Look to Desert for Hot Residential Property
6. College Students Feel Better after Screaming Together
7. Indian Dam Drowns Valley, Angering Farmers
8. Smoking Bans Could Cut into Cuban Cigar Sales
9. Global Warming Claiming Next Victim: Andes Water
10. Aborigines Still Rely on Bush Medicines for Remedies
11. African Farmers Seek Ways to Survive Droughts
12. Study: Fruity Cocktails May Be Good for Health
13. Rising Seas May Force Island Nations to Evacuate
14. Malaysians Getting Appetite for Healthier Eating
15. 期末試験

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加（30%）、小テスト（20%）、期末試験（50%）総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習・復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）は、減点や除名の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・NHKのラジオ英会話や、教育テレビの英語番組の視聴を勧める。

7. 教科書・参考書

教科書：Healing Our World: Today's Health and Environment News（南雲堂）

8. オフィスアワー

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 新田 よしみ

1. 概要

Voice of America (VOA) から、特に健康と環境分野を扱っている素材を載せたテキストを扱う。授業では、最新のニュース英語の聞き取りと、使用されている語彙を学び、ニュースから必要な情報を見つけ出し和訳する。授業ではリスニング・ディクテーションを行い、必要な単語を確実に聞きとる練習をする。

2. キーワード

ニュース英語、リスニング、リーディング

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. オリエンテーション・1 Beware of D-Ficiency!
2. 2 Cancer: the World's Leading Killer?
3. 3 Vertical Farms to the Rescue
4. 4 No-Smoking City
5. 5 How Weather Can Be a Headache
6. 6 No Water? No Problem!
7. 7 Just a Little Pinprick
8. 8 Wising Up About Wisdom Teeth
9. 9 Cleaner Coal in Australia
10. 10 Keeping Children Safe
11. 11 What is Asian Flush?
12. 12 How Green is My Rooftop?
13. 13 Five Pills in One
14. 14 What Makes a Cow a Cow?
15. 15 Mapping African Soil・まとめ

5. 評価方法・基準

定期試験50%、授業点50%、総合評価で60%以上を合格とする。詳しい評価の方法はオリエンテーションの際に説明します。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価について、個別に対応が必要な場合は適宜課題を与える。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：Health & Environment from VOA: How Evyeyday Life Affects Global Issues (松柏社)

8. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合はメール対応する。yoshimin@fukuoka-u.ac.jp まで、なにかあれば気軽にメールしてください。

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 中村 幸子

1. 概要

世界各地からのレポートを聞き、グローバルな時代のさまざまな英語を学びます。各章ごとに重要な語彙の確認、本文の音読、聞き取りやディクテーション、内容確認のための問題、およびストーリーに表れた表現を使った英作文などを行います。付属のCDを使っての補充問題や音読練習など、十分な予習が要求されます。語彙に関する小テストも行います。

2. キーワード

聴解力、語彙力、読解力、表現力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- 多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Obama Inauguration Speech
2. Obama Inauguration Speech
3. Californian Ecology
4. Californian Ecology
5. Golden Sewage
6. Golden Sewage
7. Treeless Wonder
8. Treeless Wonder
9. Perfect Female Robot Aiko
10. Perfect Female Robot Aiko
11. Oxford Exam
12. Oxford Exam
13. Going, Going, Gone
14. Going, Going, Gone
15. Review

5. 評価方法・基準

原則として、期末テスト60%、小テスト20%、平常点20%の総合点で評価し、総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 予習、課外学習
 1. 初回の講義より、教科書、辞書、ノート必携
 2. 十分な予習が必要
 3. ラジオ、TV、ネット上の学習サイトの積極的な活用を勧める
- 注意事項
 1. 全体の3分の2以上の出席数がないと、履修資格を失う。遅刻、早退は3回で欠席1回とみなす。
 2. 飲食(チューインガムも含む)、私語、居眠り(ひどい場合は出席扱いしない)、携帯の使用等を禁止する。

7. 教科書・参考書

教科書：English for the Global Age with CNN (11)
関西大学英语教育研究会編著 朝日出版社

8. オフィスアワー

総合英語 C II Comprehensive English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと自由の国アメリカの文化・社会・生活・習慣を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英米比較。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける
- ・多種多様な英語に慣れる

4. 授業計画

1. Introduction
2. Terror in the city.
3. Walls.
4. British in the history.
5. The elephant and the mouse.
6. USA History.
7. Names.
8. Rain in the UK.
9. Sport.
10. Universities in the UK.
11. Glamour and Glitz.
12. Baths.
13. 9/11 Part 1: The shock.
14. 9/11 Part 2: The aftermath.
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Class attendance (30%)、Class participation (20%)、Final test (50%)。総合評価で60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 教科書・参考書

教科書：The UK and the USA (Compare and Contrast)
(南雲堂)

8. オフィスアワー

中級英語 II Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce contemporary English through various media: newspapers, podcasts, vodcasts (video podcasts) and any other media available.

2. キーワード

media, audio, video, news, current affairs

3. 到達目標

- 1) To improve the listening and speaking ability of students
 - 2) To deepen their understanding of current events in the world
- ・主体的な英語学習の態度を育成する。
 - ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. The river
3. Radio wedding
4. Less is more
5. Looks good!
6. Changes
7. How polite are you?
8. Going alone
9. What's in the fridge?
10. Airport
11. A star is born. . . or made?
12. The future of toys
13. I'll call you
14. Revision
15. Final Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）

Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Intermediate
(Pearson Longman出版)

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

The class will focus exclusively on explaining important concepts, processes, products/outcomes and issues relating to engineering. The class (and text) is designed so that students in all areas of engineering (chemical, network, mechanical, civil, and electrical) can learn about specific issues and topics related to their own area. Students will also be given some time to learn how to discuss these concepts and to extend on them. The focus will be on simplified (easy) English, particularly on the language in describing a process, aspects about a product (quality / quantity / size / shape), and the purpose of the product or program.

2. キーワード

Engineering concepts, processes, laws, outcomes, innovations, discussions, easy English

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する。
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける。

4. 授業計画

	Topic 1	Topic 2	Topic 3
1	Subdisciplines	Areas of Interest	Problems/solutions
2	Gas turbines	Surveying	Euclidean trans.
3	Heat transfer	Distillation	Signal processing
4	Polymers/plastics	Refrigeration	Solar energy
5	Transformers	Lasers	Combustion engine
6	Corrosion	Soil erosion	Bridges
7	Urban design	Pneumatics	Seismic engineering
8	Elect.resistance	Structural design	Process control
9	Image processing	River channel	Electromagnetism
10	Control theory	Conservation-mass	Law-Thermodynamics
11	High Definition TV	Water purification	Hydraulic engineering
12	Environmental	Tunnels	Highways
13	Electric lights	Artificial intell.	Maglev trains
14	Metals	Ceramics	Plastics
15	Exam	Exam	Exam

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned.

7. 教科書・参考書

Explain It: Key Concepts and Ideas of Engineering
Robert Long. Lulu Press.

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00
Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

中級英語Ⅱ Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語の得意・不得意を問わず、とにかく英語力の向上に意欲的な学生を歓迎する。この授業に出席する学生には、受動的に教科書を読むだけでなく、英字新聞やインターネットを通じた情報収集、さらにはスピーチの実践といった、能動的な取り組みが要請される。こうした活動を通じ、英語運用能力の向上はもちろんのこと、主体的な学習態度を身に付けて欲しい。

2. キーワード

スピーチ、情報収集、能動的学習

3. 到達目標

- 主体的な英語学習の態度を育成する
- 多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Topic 1. Right Brain or Left Brain
3. Topic 2. The Shape of the Face
4. Topic 3. Potatoes
5. Topic 4. Delicacies
6. Topic 5. The Persian New Year
7. Topic 6. Celebrating Fifteen
8. Topic 7. Louis Braille
9. Topic 8. The World's Most Unusual Millionaire
10. Topic 9. Lightning
11. Topic 10. Killer Bees
12. アウトライン発表会
13. スピーチ・コンテスト予行演習
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- 図書館の英字新聞やAVブース、インターネット等を利用し、授業内容と関連するトピックについて幅広く情報収集しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Weaving It Together : Connectiong Reading and Writing 2 (松柏社)

8. オフィスアワー

研究室前に掲示。

中級英語 II Intermediate English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英語学習時間を増やしたい学生や意欲旺盛ながら英語力に自信のない学生を対象に、主体的学習を中心とした授業を行う。テキストのトピックをきっかけに、調査、発表、議論を多く行い、暗記の英語から実践の英語を体験する。最終的には、間違うことを恐れずに積極的に英語を使うようになることを目指す。

2. キーワード

情報発信 運用能力 国際性

3. 到達目標

- ・主体的な英語学習の態度を育成する
- ・多様な英語運用の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- 第1回 デモンストレーション
- 第2回 スピーチと読解 The Philippines
- 第3回 スピーチと議論
- 第4回 スピーチと読解 China
- 第5回 スピーチと議論
- 第6回 スピーチと読解 Hong Kong
- 第7回 スピーチと議論
- 第8回 スピーチと読解 Korea
- 第9回 スピーチと議論
- 第10回 スピーチと読解 Russia
- 第11回 スピーチと議論
- 第12回 スピーチと読解 Japan
- 第13回 スピーチと議論
- 第14回 スピーチと読解
- 第15回 スピーチと議論

5. 評価方法・基準

平常点（70%）期末課題（30%）
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・辞書を持参すること。
- ・授業で実践力をつけるために、十分な自宅学習を要す。自宅学習ではわかる箇所とわからない箇所を明らかにし、わからない箇所は授業で質問をする準備をすること。スピーチについては、毎回のスピーチ指導によって上達を図る。

7. 教科書・参考書

Nobuyuki Homma, Understanding Asia, Cengage Learning.
辞書

8. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp
- ・H P：http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~hatcho/

上級英語 A II Advanced English A II

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4 年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

This course aims to introduce students to a higher level of competence in the four skills, with special emphasis on Listening and Speaking

2. キーワード

Speaking, Listening, Reading, Writing

3. 到達目標

- a) To improve the English of students. (Speaking and listening are stressed, but reading and writing are not ignored).
- b) To make students feel more confident about using English for communication.
- ・ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

- 16. Introductions
- 17. Contact
- 18. Two cities
- 19. Round the clock
- 20. Person to person
- 21. Positive thinking
- 22. Money talks
- 23. Unlucky for some
- 24. Taxi!
- 25. Major events
- 26. Street life
- 27. Gun crazy
- 28. Difficult situations
- 29. Revision
- 30. Test

5. 評価方法・基準

Tests are given twice a year, but participation in classes every week is also important. Pay attention to the following points:

- a) prepare thoroughly for class
- b) do writing exercises on your own

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

3分の2の出席数がないと履修資格を失う（工学部学修細則第11条2）
Watch videos and listen to English tapes in the library.

7. 教科書・参考書

教科書：Language to go - Upper Intermediate
参考書：A monolingual (English-English) dictionary published by Cambridge, Oxford or Longmans.

8. オフィスアワー

Mondays 3-4pm
ruxton@dhs.kyutech.ac.jp

上級英語 A II Advanced English A II

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 Robert Long

1. 概要

The purpose of this course is to help students express their ideas and opinions, ask questions, and to show more autonomy in creative expressions. Fluency is improved so that fewer utterances are telegraphic. Students will gradually move into paragraph length speech by the end of the course. Students will exhibit gains in vocabulary and grammar. This course builds on the first year course in which students have had exposure to basic functional English, and sentence-length speech. The focus is on topics from around the world.

2. キーワード

Social topics, personal issues, conversational interactions, interactive competency, fluency

3. 到達目標

- ネイティブの授業に慣れることで、英語のみの環境への違和感をなくす
- 発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1.	Family	Pair work	Asking Questions
2.	Beauty	Pair work	Assertions/disclaimers
3.	Discipline	Pair work	Comments/reflections
4.	Expertise	Surveys	Comparisons/suggestions
5.	Individualism	Surveys	Observations/criticism
6.	Entertainment	Surveys	Preferences/recommendations
7.	Obligation	Group work	Explanation/excuses
8.	Sports	Group work	Comparisons/complaints
9.	Equality	Group work	Opinions/rationalizations
10.	Power	Debates	Claims/conjectures
11.	Dependence	Debates	Descriptions/testimonies
12.	Discipline	Debates	Choices/judgments

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 100% Speeches: Extra Credit Tests: Extra Credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are expected to do the weekly reading and writing assignments. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation. In addition, for extra credit, students are encouraged to interview one foreigner about some cultural theme that he or she is interested in, and to provide a report of the interviewee's most interesting answers.

7. 教科書・参考書

Culture Compass Lulu Press ISBN 1 -411 6-4484-0 Robert Long

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

上級英語 B II Advanced English B II

対象学科（コース）：全学科 学年：(1)・2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

コミュニケーションの手段としての口頭英語能力を更に向上させる目的で講義を行なう。ここでは様々な題材を使用しディスカッションに重点を置いた講義を行ない、Critical Thinking（批判的思考）能力を伸ばす。

2. キーワード

時事問題、社会問題、科学問題

3. 到達目標

- 必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- 発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

年間を通じて、日常会話レベルの reading comprehension と discussion に 7 割程度、またその延長線上にある presentation に 3 割程度の時間を当てる。

さらに Beatles' Lyrics 等を使用し聴解能力と語彙能力を上達させる。

4. 社会ニュース

5. 科学ニュース

6. 経済ニュース

などの時事問題を扱う。

4. 授業計画

(1) 学科試験・・・20%

(2) 授業でのディスカッション、スピーチ、および小テスト等・・・60%

(3) Presentation・・・20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

最初の授業で説明する。

7. 教科書・参考書

教科書については最初の授業で指示する。またハンドアウトを適時配布する。

8. オフィスアワー

木曜日 4 限目（総合教育棟 4 階 414）

上記以外でも、アポイントメントにより面談可能

上級英語 B II Advanced English B II

対象学科（コース）：全学科 学年：（1）・2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 江口 雅子

1. 概要

大学院に進学する学生、国際社会に巣立つ学生、留学を目指す学生を見据えると、英語論文、企業での英語報告書等を書く前段階として、英文レポート（academic essay）を書けることは重要である。本授業では、四つのエッセイ・パターン（①意見サポート型、②比較列挙型、③直線的展望型、④多面的展開型）の英文エッセイを読み、その論理構成を使って英文エッセイを書く訓練をさせる。日本語と英語のエッセイの書き方の違いに着目させる。

2. キーワード

アカデミック・エッセイ、ライティング、論理構成

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Chapter 1 Conclusions / Reasons
3. Chapter 2 Analysis
4. Chapter 3 Theory / Proof
5. Chapter 4 Controversy
6. Chapter 5 Comparison / Contrast
7. Chapter 6 Classification
8. Chapter 7 Instructions
9. Chapter 8 Chronological Order (History)
10. Chapter 9 Cause & Effect
11. Chapter 10 Process
12. Chapter 11 Explanation (New Product)
13. Chapter 12 Definition
14. Chapter 13 Explanation (Statistics)
15. 期末テスト

5. 評価方法・基準

授業への積極的参加を70%、期末試験を30%とする。活発な反応や参加をする学生には高い評価が与えられる。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・ライティング・スキルを伸ばしたい学生の受講を勧める。
- ・授業内容の十分な理解を得るために予習、復習をすること。
- ・授業への積極的参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・日頃から英文に多く触れ、さまざまな英語表現に着目しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書：Skills for Better Writing (Revised Edition) (南雲堂)
 参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

8. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。
 メールアドレス：teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

上級英語 C II Advanced English C II

対象学科（コース）：全学科 学年：3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

本授業は上級英語科目として、英語を多用した内容としている。具体的には読解に基づくディスカッション、リスニングに基づくディスカッション、そしてすべてを包括的にまとめる英作文などである。総合英語を全て履修した学生がさらにコミュニケーション能力を高めるための授業である。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、批判的思考

3. 到達目標

- ・必修英語に比べてレベルの高い内容について英語運用ができるようになる
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

1. Introduction
2. Money
3. Pet or Product?
4. Poverty
5. Discussion 1
6. Relationships
7. School
8. Stereotypes
9. Discussion 2
10. Success
11. Travel
12. Vanity
13. Discussion 3
14. Review Test

5. 評価方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・3分の2以上の出席を履修の原則とする。
 （履修細則第11条2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 教科書・参考書

教科書：Ideas and Issues: Upper-Intermediate (Macmillan)
 参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）
 Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）

8. オフィスアワー

火曜日 4限（14：40～16：00）
 （総合教育棟 4階：412）

技術英語Ⅱ Technical English II

対象学科（コース）：全学科

学年：3・4年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Technical English, skill orientation, vocabulary development, civil engineering, mechanical engineering, chemical engineering, material, general issues

3. 到達目標

- ・技術用語を英語で身につける
- ・発信能力の基礎的技術を身につける

4. 授業計画

Chemical	Network	Mechanical	Civil	Electrical
1. Thermodynamics	Program. Paradigm	Aerospace eng.	Industrial ecology	Diodes
2. Microfluidics	Automated reasoning	Wind power turbines	Soil erosion	Radiation
3. Distillation	Motion planning	Combustion	River engineering	Triodes
4. Chemical reactors	MEMS system	Diesel engines	Erosion	Emissions
5. Biochemical Eng.	Computer Algebra	Kinematics	Coastal Manage.	Hi.-Def. TV
6. Reviews / Exams				
7. Plastics	Computer Vision	Lasers	Biofilters	Electromagnetics
8. Metals	Machine Learning	Electrical Motor	Ventilation	Transistors
9. Heat Transfer	Bioinformatics	Waste Recycling	Sewage water	Trans. lines
10. Polymers	Theories-computation	Hydrogen Vehicles	Remediation	Feedback
11. Crystallization	Reverse engineering	Refrigeration	Hazardous Waste	PLC
12. Review				
13. Review				
14. Exam				

5. 評価方法・基準

Weekly assignments 50% Tests 50% Presentations and email assignments: Extra credit

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Students are asked to go on three factory tours in Kitakyushu-city. Students can choose any factory to visit, such as Toto, Nippon Chemical, or Asahi Glass Company, but afterwards will be expected to write, in English, on what he or she learned. Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 教科書・参考書

The Technical Matrix II, by Robert Long, Lulu Press

8. オフィスアワー

Monday : 10 : 00 - 5 : 00

Tuesday : 10 : 00 - 5 : 00

【外国語を学ぶ意義】

1. 言葉の役割

言葉は伝達の手段であるばかりでなく、思考の手段でもある。質の高い思考をするためには、良質かつ多くの言葉を持つことが不可欠である。言葉による思考は、認識の深化とコミュニケーションの遂行に重要な貢献をする。

2. 言葉と思考

人間の思考は、その人間が習得している母（国）語の思考形式に強く影響される。

外国語の習得は、その言語の道具的使用にとどまらず、学習者の思考の枠組みを広げることにより寄与する。また、これは言語一般の理解を深めることに寄与する。

3. 言語と文化

歴史的に見れば、一つの社会の文化的変遷は言語に大きな影響を与えてきた。文化のあり方は言語のうちに明瞭に表れる。逆に、言語はそれを用いる人間の思考を規定することによって、文化の形式をも規定する。

4. 英語以外の言語を学ぶ必要性（真の国際性の養成）

現代においては、ともすれば英語のみを学習すれば事足りるように考えがちである。しかし、英語だけを勉強して事足りると考えることは、日本語による文化的思考の枠組みからは脱却できるかもしれないが、新たに英語による文化的思考の枠組みの中に限定されてしまう。

日本の外の世界は多種多様の文化圏から成り立っている。英語以外の言語を学び、世界に多様な文化が存在することを知らなければ、現代社会に生きる人間として必要なことであり、また、学生にそうした機会を提供することが世界全体の文化の普遍的な発展を目指すものとして大学に課せられた使命であり、真の国際性の養成にも通ずる。

初修外国語の選択必修科目について

初修外国語は、三科目（各一単位）がドイツ語又は中国語での選択必修となっている。以下、初修外国語の履修の仕方について説明する。

ドイツ語を選んだ学生は「基礎ドイツ語 A I」（一年前期）、「基礎ドイツ語 A II」（一年後期）、「基礎ドイツ語 B」（二年前期または後期）が必修となり、中国語を選んだ学生は「基礎中国語 A I」（一年前期）、「基礎中国語 A II」（一年後期）、「基礎中国語 B」（二年前期または後期）が必修となる。

四月に「基礎ドイツ語 A I」又は「基礎中国語 A I」のどちらかを選ぶことにより、各自の初修外国語の必修科目は決まり、以後、変更できない。

中国語の履修を希望する学生は、第一回目の「基礎中国語 A I」の授業に出ること。希望者多数の場合、それぞれのクラスで抽選し、担当教員の許可を得た者が、中国語を初修外国語として履修できる。その際、後期も同じ教員の担当する「基礎中国語 A II」を履修しなければならない。選に漏れた学生は自動的にドイツ語を履修することになる。

ドイツ語の履修を希望する学生、および、上記の選に漏れた学生は、クラス指定となっているので、指定された授業に出席し、履修登録すること。

なお、上記は初修外国語の選択必修科目についてのものであり、選択科目については各自自由に選択することができる。

【ドイツ語を学ぶ意義】

(1) 現代社会の基礎創成を担った言語であること

九工大の学生たちは、17世紀ごろから始まった西欧近代合理主義にその源を持つ西欧近代科学技術を学んでいる。この西欧近代合理主義をあるときは育み、あるときは敵対することでその発展に寄与してきたのは、主としてイギリス・ドイツ・フランス、後にはアメリカなどを含む西欧近代国家である。つまり、ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を直接支えてきた言語のひとつである。

(2) 言語としての学習の容易さ

言語は文法から出発して個別の場合に適用して理解できる部分と、語法として覚えてしまわなければならない部分とを持ち合わせているが、ドイツ語学習の初期段階においては、文法で解釈できる部分が多い。公理や定理から出発して個別の場合に敷衍的に適用していく手法は理科系科目の各分野において現れるもので、九工大の学生にとっては受け入れやすいものである。

(3) ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力

(ア) 多元的社会的創造

ドイツは国家成立の経緯から連邦制を取っている。また、現在のドイツは東欧圏や南欧圏、さらにはトルコを含む周辺諸国から多くの移民を受け入れている。連邦制による地方分権も進んでおり、国家として多元的社会的実現している。

EU は国家の連合体であり、その成り立ちからして多元的社会的を目指している。ドイツは EU の中心的な役割を担っており、多元的社会的創造に寄与している。

(イ) 環境先進国としてのドイツ

また、全世界的な関心を集めている環境問題に関しても、森林枯死などの問題を通じて、技術的にも制度的にも世界の最先端を進んでいる。

(ウ) 学術的・文化的影響

ドイツ語は西欧近代合理主義の発展を担ってきたので、自然科学上の重要な論文には、ドイツ語で書かれたものも数多くある。ドイツ語を学ぶことは、そうした自然科学や、その他の学術的・文化的魅力に直接触れるきっかけも提供してくれるだろう。

(エ) ドイツ語圏諸国

ドイツ語は、オーストリア、スイス、リヒテンシュタインなどでも公用語として使われている。モーツァルトやシューベルトが生まれ、ベートーベンやブラームスが半生を過ごしたオーストリアは、「音楽の国」として世界に並ぶものがない。オーストリアはまた、フロイトやアドラーを生んだ心理学の国としても知られるし、ハプスブルク時代から続くその多様な文化には、ヨーロッパ文化の縮図を見ることが出来る。政治的にはオーストリアもスイスも永世中立国であり、13世紀まで遡るスイスの連邦制は今も世界のお手本となっている。4つの言語が話されるスイスは、作家トーマス・マンが「ヨーロッパの中のヨーロッパ」と呼んだことでも分かる通り、多文化社会の先進国といえる。

【ドイツ語学習の目的・目標について】

ドイツ語では現在選択必修・選択に分け、次のような講義を開講している。

- 【選択必修】 基礎ドイツ語 A I（前期 1 単位）
 基礎ドイツ語 A II（後期 1 単位）
 基礎ドイツ語 B（前・後期 1 単位）
- 【選択】 選択ドイツ語 A（前・後期 1 単位）
 選択ドイツ語 B I（前期 1 単位）
 選択ドイツ語 B II（後期 1 単位）
 選択ドイツ語 C I（前期 1 単位）
 選択ドイツ語 C II（後期 1 単位）

- ドイツ語を学習する第一の目的は、先に述べた『言葉の役割』に鑑みて、「ドイツ語の学習を通じ、言葉によってもの考える力を養う」ことにある。基礎ドイツ語 A I・A IIにおいては、ドイツ語初級文法の全体的な成り立ち方を論理的に理解・定着させることにより、ドイツ語文法の基礎を習得し、新たな思考の枠組みを作り上げることを目標とする。
 - 基礎ドイツ語 B においては、『母（国）語と外国語』で述べた言語が文化を規定する面に重点をおいて学習することを目的とする。言語が文化ともしっかりと直接に関わるのは、その表現においてである。基礎ドイツ語 B においては、ドイツ語の表現力を養うことにより、ドイツ語独自の文化形式を理解することが目標となる。文法そのものが対象ではないので、様々な教材を用いる可能性がある。また、ネイティブ・スピーカーによるコミュニケーション能力の育成、長文読解を通じての表現力の涵養や、もっと直接に独作文による表現力の養成も可能である。なお、前期または後期一単位ではこの目的にはとても足りないため、選択ドイツ語 A も併せて履修することを強く推奨する。選択ドイツ語 A において目的・目標とされることは、基本的には基礎ドイツ語 B の発展である。
 - 選択ドイツ語 B I・B II においては、『ドイツ語を学ぶ意義』で述べた近現代のドイツの重要性と深く関わる部分にスポットを当てて学習することを目的とする。これも教師がどの部分を重視するかによって、選ばれる教材は異なる。ある教師は、直接にドイツの現代の環境問題について述べたテキストを教材に選ぶかもしれない。ある教師は、現代ドイツの環境問題は、ドイツの思想界・文学界が積み上げてきた自然との格闘にその根源を持つと考えて、ゲーテの詩を読むかもしれない。また、ある教師は、ドイツ語の多元的社会的創造を担う側面を重視したり、ドイツ語のコミュニケーション能力をさらに発展させる授業を行うかも知れない。
- いずれにしても、『ドイツ及びドイツ語圏諸国の魅力』を理解することを目標とする。
- 選択ドイツ語 C I・C II においては、『英語以外の言語を学ぶ重要性（真の国際性の養成）』や『ドイツ語を学ぶ意義』で述べられた内容を最も高いレベルにおいて、実現するものとなる。

【履修上の注意点】

- 基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスで受講すること。
- 十分なドイツ語の力を身につけるためには選択ドイツ語 A、選択ドイツ語 B I、B II、選択ドイツ語 C I、C II を積極的に受講することが望ましい。

※再履修に関して

- 再履修に関しても基礎ドイツ語 A 1、A 2、基礎ドイツ語 B はクラス指定制をとっているため、所定のクラスでの受講者を優先する。
- 所定のクラス以外での受講は適正規模の範囲内で認められる。
- 受講希望者数が適正規模を越えた場合には履修を制限することがあるので、掲示に注意すること。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたと、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

- ドイツ語文法の基礎を習得する
- 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は 20 課からなっているが、第 10 課まで進む予定。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成である。授業では 1 回に 1 課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1 回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現の一つを紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験（2 / 3）および、小テストなど平常点（1 / 3）で評価し、100 点満点で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンタリードイツ語の文法と表現」（郁文堂）

独和辞典：第 1 回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後 2 時から午後 6 時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟 3 階 313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EU の統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期—ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則—文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割—名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期—ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
—分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その 2—副文
 - ・動詞の三基本形—過去と現在完了
- (3) 展開期—豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu 不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記 (1) 導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：橋本政義「楽しく学ぶドイツ語 改訂版」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2 年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を 1 回ないし 2 回程度かけて取り扱う（前期第 1 回～15 回。ただし、定期試験を含む）。

- 文字と発音
- 動詞の現在人称変化
- 名詞と冠詞
- 不規則変化動詞・命令形
- 人称代名詞・前置詞
- 冠詞類・疑問代名詞
- 形容詞
- 分離動詞・zu 不定詞・副文
- 話法の助動詞・未来
- 動詞の 3 基本形
- 現在完了・分詞
- 再帰動詞・非人称動詞・比較
- 関係代名詞
- 受動態
- 接続法

5. 評価の方法

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：楽しく学ぶドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟 405 に掲示）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：建設社会工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

{0} 発音 Stufe 1

{1} 動詞の現在人称変化（1）／たずね方／2人称のSieとdu
発音 Stufe 2{2} 名詞の性と冠詞／seinとhaben／Ihrとmein／定形第2位
／否定の語nicht{3} 名詞の格／定冠詞と不定冠詞の格変化／男性弱変化名詞／
名詞の複数形／否定冠詞kein

{4} 動詞の現在人称変化（2）／前置詞

*上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が
口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3
回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60
点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に
必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全
に言いきれるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕大谷弘道：新・問いかけるドイツ語 改訂版（三修
社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 古賀 正之

1. 概要

●授業の背景

別項「外国語を学ぶ意義」を参照。

●授業の目的

別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。

●授業の位置付け

別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

第1回～第2回 つづり字の読み方と発音 挨拶をする

第3回～第4回 動詞の人称変化、文の作り方 知り合いにな
る

第5回～第6回 文法上の性と格 食べ物の注文をする

第7回～第8回 冠詞類 買い物の相談をする

第9回～第10回 不規則変化動詞、命令形 食事の相談をする

第11回～第12回 前置詞の格支配 どこに行くか尋ねる

第13回～第14回 複数形 市場で果物などを買う

第15回 前期のまとめ

（文法の補足、定期試験等を含む）

5. 評価の方法

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60
点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に
必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全
に言いきれるまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕「新生ドイツ文法」V5 在間進 朝日出版社

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

- 文字と発音
- 動詞の現在人称変化
- 名詞と冠詞
- 不規則変化動詞・命令形
- 人称代名詞・前置詞
- 冠詞類・疑問代名詞
- 形容詞
- 分離動詞・zu不定詞・副文
- 語法の助動詞・未来
- 動詞の3基本形
- 現在完了・分詞
- 再帰動詞・非人称動詞・比較
- 関係代名詞
- 受動態
- 接続法

5. 評価の方法

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：楽しく学ぶドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A Iの授業では、上記の(1)導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：大岩信太郎編「純・初級ドイツ文法（新正書法版）」（同学社）

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：応用化学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語 A I の授業では、上記 (1) 導入期の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：保阪良子「改訂版・ドイツ文法ガイド A-Z」(同学社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科（コース）：応用化学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語 B と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む)。

発音

動詞の現在人称変化 (1)

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化 (2)

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価の方法

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ(三修社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の前半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（前期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価の方法

前期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語A I Basic German A I

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、第10課まで進む予定。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成である。授業では1回に1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現の一つを紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンタリードイツ語の文法と表現」（郁文堂）

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A I Basic German A I

対象学科(コース)：総合システム工学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。後期の「基礎ドイツ語 A II」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、第10課まで進む予定。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成である。授業では1回に1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。隔週で確認のための小テストを行う。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。学期末の筆記試験(2/3)および、小テストなど平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンテードイツ語の文法と表現」(郁文堂)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 A II Basic German A II

対象学科(コース)：機械知能工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語 A I」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、前期に第10課まで進む予定なので、第11課から始める。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成になっている。授業では1回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験(2/3)および、平常点(1/3)で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンテードイツ語の文法と表現」(郁文堂)

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時(会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する)、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：機械知能工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A IIの授業では、上記(2)、(3)の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：橋本政義「楽しく学ぶドイツ語 改訂版」三修社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

- 文字と発音
- 動詞の現在人称変化
- 名詞と冠詞
- 不規則変化動詞・命令形
- 人称代名詞・前置詞
- 冠詞類・疑問代名詞
- 形容詞
- 分離動詞・zu不定詞・副文
- 話法の助動詞・未来
- 動詞の3基本形
- 現在完了・分詞
- 再帰動詞・非人称動詞・比較
- 関係代名詞
- 受動態
- 接続法

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：楽しく学ぶドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：建設社会工学科
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

- {5} 冠詞グループの格変化／人称代名詞の格変化
 - {6} 形容詞の格変化／形容詞の比較変化
 - {7} 語法の助動詞／分離動詞／副文（定形後置）
 - {8} 動詞の3基本形／過去の人称変化／接続詞
 - {9} 現在完了／語法の助動詞の完了形／過去分詞にge-のつかない動詞／分離動詞の過去分詞
- *上記の各ユニットで取り扱う文法事項を用いて、学生自身が口頭表現練習を行い、発表する。1つのユニットはおよそ3回の授業で終了する予定。

5. 評価の方法

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いきれぬまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕大谷弘道：新・問いかけるドイツ語 改訂版（三修社）

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：電気電子工学科
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 古賀 正之

1. 概要

- 授業の背景
別項「外国語を学ぶ意義」を参照。
- 授業の目的
別項「ドイツ語学習の目的・目標について」を参照。
- 授業の位置付け
別項「ドイツ語を学ぶ意義」を参照。

2. キーワード

基本的な文法事項、段階的、無理なく習得。

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

- 第1回～第2回 形容詞の格変化、人称代名詞 空腹などを訴える
- 第3回～第4回 語法の助動詞、未来形 外出に誘う
- 第5回～第6回 分離動詞、再帰代名詞、再帰動詞 駅で列車の出発時刻などを尋ねる
- 第7回～第8回 ZU不定詞 相談にのってくれるように頼む 比較表現 物事を比べる
- 第9回～第10回 三基本形、過去人称変化、接続詞 ぶつぶつ文句を言う
- 第11回～第12回 現在完了形、過去完了形 何をしたかを尋ねる
- 第13回～第14回 受動形 招待される 関係文 休暇の計画を立てる
- 第15回 後期のまとめ

（文法の補足、定期試験等を含む）

5. 評価の方法

期末試験および演習（発表と受講態度）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

それぞれの課の文法項目をあらかじめ確認しておき、授業中に必要な説明を受けた後、それを含むドイツ語表現を理解し、完全に言いきれぬまで練習した上で発表してもらう。

7. 教科書・参考書

〔教科書〕「新生ドイツ文法」 V 5 在間進 朝日出版社

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科(コース)：電気電子工学科
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う(後期第1回~15回。ただし、定期試験を含む)。

- 文字と発音
- 動詞の現在人称変化
- 名詞と冠詞
- 不規則変化動詞・命令形
- 人称代名詞・前置詞
- 冠詞類・疑問代名詞
- 形容詞
- 分離動詞・zu不定詞・副文
- 語法の助動詞・未来
- 動詞の3基本形
- 現在完了・分詞
- 再帰動詞・非人称動詞・比較
- 関係代名詞
- 受動態
- 接続法

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

橋本政義他：楽しく学ぶドイツ語 改訂版(三修社)

8. オフィスアワー

学生相談日を設定(曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示)

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科(コース)：電気電子工学科
 学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語A IIの授業では、上記(2)、(3)の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：大岩信太郎編「純・初級ドイツ文法(新正書法版)」(同学社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

ドイツ語の文法事項を以下の三つに大別してみる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

基礎ドイツ語AⅡの授業では、上記(2)、(3)の内容を学習する。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：保阪良子「改訂版・ドイツ文法ガイドA-Z」(同学社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：応用化学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語A I」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、前期に第10課まで進む予定なので、第11課から始める。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成になっている。授業では1回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンテードイツ語の文法と表現」（郁文堂）

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語A II Basic German A II

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語文法の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の基本的な力を養成し、言葉によってものを考える力を養う。

●授業の位置付け

2年次に行われる基礎ドイツ語Bと共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語文法、言葉、思考、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記諸項目の後半を1回ないし2回程度かけて取り扱う（後期第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

発音

動詞の現在人称変化（1）

冠詞と名詞

動詞の現在人称変化（2）

人称代名詞・冠詞類

定形の位置

前置詞

語法の助動詞

動詞の3基本形

現在完了形

分離動詞

形容詞

再帰動詞

分離動詞・esの用法

関係代名詞

受動

接続法

分詞・zu不定詞

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算（20%程度）して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

本郷健治他：CD付き気分はドイツ（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟405に掲示）

基礎ドイツ語AⅡ Basic German AⅡ

対象学科（コース）：総合システム工学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を論理的に理解し、その全体像を把握する。

●授業の位置付け

どのような形で今後ドイツ語を学んでいくにせよ、この授業で学ぶことを知らなくてはドイツ語力の向上は望めない。それほど大切な授業である。前期の「基礎ドイツ語AⅠ」と連続した内容となる。

2. キーワード

基礎文法、発音、基本表現

3. 到達目標

1. ドイツ語文法の基礎を習得する
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる

4. 授業計画

教科書は20課からなっているが、前期に第10課まで進む予定なので、第11課から始める。各課は、「文法」、「練習問題」、「表現」という構成になっている。授業では1回で1課進む予定。予習の際は文法の説明をよく読み、練習問題を全てやってみること。1回の授業ごとに最低限必要なドイツ語表現を一つ紹介し、口頭練習して貰う。

5. 評価の方法

学期の終わりに筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：新田春夫著「エレメンテードイツ語の文法と表現」（郁文堂）

独和辞典：第1回目の授業の際、初学者向け辞書を幾つか紹介する。

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてもを考えるとということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

(1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期

- ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
- ・動詞の現在人称変化
- ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化（人称代名詞も含めて）

(2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期

- ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
- ・前置詞、形容詞・副詞の用法
- ・ドイツ語文の大原則その2——副文
- ・動詞の三基本形——過去と現在完了

(3) 展開期——豊かな表現をめざして

- ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
- ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「ドイツ名作の旅」朝日出版社

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 第1回 導入 アルファベット・発音練習
- 第2回 Lektion 1 動詞の人称変化
- 第3回 Lektion 2 //
- 第4回 Lektion 3 語順
- 第5回 Lektion 3 副文・接続詞
- 第6回 Lektion 4 前置詞
- 第7回 Lektion 5 //
- 第8回 Lektion 5 不規則動詞
- 第9回 Lektion 6 冠詞類の格変化
- 第10回 Lektion 6 //
- 第11回 Lektion 7 形容詞の格変化
- 第12回 Lektion 7 //
- 第13回 Lektion 8 再帰代名詞
- 第14回 Lektion 9 分離動詞
- 第15回 (試験)

5. 評価の方法

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『身につくドイツ文法 Vers.2』
(Deutsche Grammatik)
- 【著者名】前田良三 他 著
- 【出版社】郁文堂
- 【価格】2400円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 10 語法の助動詞
- 第2回 Lektion 10 //
- 第3回 Lektion 1 過去形
- 第4回 Lektion 1 現在完了形
- 第5回 Lektion 1 //
- 第6回 Lektion 12 受動態
- 第7回 Lektion 13 比較
- 第8回 Lektion 13 //
- 第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
- 第10回 Lektion 14 //
- 第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
- 第12回 Lektion 15 //
- 第13回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第14回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第15回 (試験)

5. 評価の方法

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『おもしろドイツ！ - 異文化への招待』
(Einladung zur deutschen Kultur)
- 【著者名】斉藤祐史 他 著
- 【出版社】郁文堂
- 【価格】2500円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	語法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 1	過去形
第4回	Lektion 1	現在完了形
第5回	Lektion 1	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第10回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	(試験)	

5. 評価の方法

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『それ行け、ドイツ語！』(Vorwärts, Deutsch!)

【著者名】櫻井麻美 他 著

【出版社】第三書房

【価格】2500円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
 同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：建設社会工学科
 学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なもの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語AⅠ」「基礎ドイツ語AⅡ」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置付け

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書はCD付きで、10課からなっており、1課は6頁からなっている。文法の復習、練習、会話文、読み物がバランスよく配置されているので、教科書に沿って授業を行う。1回の授業で4頁ずつ進む予定。

5. 評価の方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。（中間試験を行う可能性もある。）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習の際は正しく発音する練習をし、意味を調べ、練習問題をやってみること。授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：小野寿美子他：「クロイツァング」（朝日出版社）

参考書：一年次の文法の教科書と独和辞典（必須）

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 Elmar Lenhart

1. 概要

Die Studierenden haben ein Jahr Deutschunterricht hinter sich. Sie sollen das Gelernte aus dem ersten Jahr anwenden lernen und auf dem Weg der Sprachvermittlung die deutschsprachige Kultur kennenlernen. Der Unterricht wird sich darauf konzentrieren, allgemeine Informationen zur Landeskunde zu vermitteln und Deutsch als Kommunikationsinstrument vorstellen. Dabei werden auch die wichtigsten Kapitel aus der Grammatik als Leitfaden dienen.

2. キーワード

Landeskunde, Sprachproduktion, Grammatik, Kommunikation

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 1) und
- 2) Imperativ, Wechselpraepositionen, Orientierung und Wegbeschreibung
- 3) und
- 4) Berufe und Tagesablauf, Modalverben und Zeitangaben
- 5) und
- 6) Monate und Tage, Ordinalzahlen
- 7) und
- 8) Perfekt (regelmässige Verben) und Praeteritum
- 9) und
- 10) der Alltag, Perfekt
- 11) und
- 12) Wortschatzuebungen Ernaehrung
- 13) und
- 14) Konjunktionen, Thema Wohnung und Arztbesuch
- 15) Wiederholung und Test

5. 評価の方法

Immanenter Pruefungscharakter (Mitarbeit inklusive Hausuebungen) 40%, Abschlusstest 40%, Zwischentests 20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Es ist unbedingt notwendig das Lehrbuch immer zum Unterricht mitzubringen. Schlafen waehrend des Unterrichts wird als Nicht-anwesend gewertet.

7. 教科書・参考書

Eurolingua 1.2 Teilband 2 des Gesamtbandes 1 Einheiten 9-16, Verlag: Cornelsen, ISBN 978-3-464-21389-6

8. オフィスアワー

elmar_lenhart@yahoo.co.uk

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 Elmar Lenhart

1. 概要

Die Studierenden haben ein Jahr Deutschunterricht hinter sich. Sie sollen das Gelernte aus dem ersten Jahr anwenden lernen und auf dem Weg der Sprachvermittlung die deutschsprachige Kultur kennenlernen. Der Unterricht wird sich darauf konzentrieren, allgemeine Informationen zur Landeskunde zu vermitteln und Deutsch als Kommunikationsinstrument vorstellen. Dabei werden auch die wichtigsten Kapitel aus der Grammatik als Leitfaden dienen.

2. キーワード

Landeskunde, Sprachproduktion, Grammatik, Kommunikation

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 1) und
- 2) Imperativ, Wechselpraepositionen, Orientierung und Wegbeschreibung
- 3) und
- 4) Berufe und Tagesablauf, Modalverben und Zeitangaben
- 5) und
- 6) Monate und Tage, Ordinalzahlen
- 7) und
- 8) Perfekt (regelmässige Verben) und Praeteritum
- 9) und
- 10) der Alltag, Perfekt
- 11) und
- 12) Wortschatzuebungen Ernaehrung
- 13) und
- 14) Konjunktionen, Thema Wohnung und Arztbesuch
- 15) Wiederholung und Test

5. 評価の方法

Immanenter Pruefungscharakter (Mitarbeit inklusive Hausuebungen) 40%, Abschlusstest 40%, Zwischentests 20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Es ist unbedingt notwendig das Lehrbuch immer zum Unterricht mitzubringen. Schlafen waehrend des Unterrichts wird als Nicht-anwesend gewertet.

7. 教科書・参考書

Eurolingua 1.2 Teilband 2 des Gesamtbandes 1 Einheiten 9-16, Verlag: Cornelsen, ISBN 978-3-464-21389-6

8. オフィスアワー

elmar_lenhart@yahoo.co.uk

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 Andreas Kasjan

1. 概要

●授業の背景

コミュニケーションの道具としてのドイツ語とその背景にある文化

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学習したことを深めながら、ドイツ語の文のリズム、アクセント、イントネーションと語の発音および基礎文法を学習することにより、簡単な表現に対する応用能力を身につける。

●授業の位置づけ

ドイツ語に関する基本的な知識を学びながら、ドイツ語をコミュニケーションの道具として正確・創造的に使えるようになることを目指す。

2. キーワード

ドイツ語、コミュニケーションの道具、応用能力、正確さ・創造力

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 第1回 発音、イントネーション、アクセント
 第2回 挨拶、自己紹介、相手の名前などを尋ねる・確認する
 第3回 出身地、居住地や調子を尋ねる・紹介する
 第4回 ドイツ語と日本語における言葉遣いと呼びかけ方を比較する
 第5回 中間まとめ
 第6回 人を紹介する
 第7回 数字や略語
 第8回 中間まとめ
 第9回 勉強と語学学習
 第10回 様々な国とその言語・人
 第11回 中間まとめ
 第12回 趣味、興味
 第13回 趣味、興味（続き）
 第14回 中間まとめ
 第15回 期末試験（後述）

5. 評価の方法

- 期末試験（50%）
- 小テスト（25%）
- 授業中のパフォーマンス（25%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- 全授業回数の3分の1以上生には、単位は出しません。
- 入室ができるのは授業開始後20分までです。
- 授業の始めに小テストを実施します。不正行為の疑いがある場合は、テスト用紙を取り上げますが、悪質なカンニングの場合は除名することもあります。
- クラブ活動などの理由で授業を休んだ人は小テストを後で受けられますが、自分から進んで申し出ることが条件です。ただし、小テストを後で受けられるのは、2回のみです。

7. 教科書・参考書

- 教科書：Szenen 1 neu, (三修社)
- 参考書：独和辞典
- 青、赤、黄色、緑のマーカー

8. オフィスアワー

授業終了直後

@ : kasjan@flc.kyushu-u.ac.jp

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なもの見方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語A I」「基礎ドイツ語A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置づけ

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書はCD付きで、10課からなっており、1課は6頁からなっている。文法の復習、練習、会話文、読み物がバランスよく配置されているので、教科書に沿って授業を行う。1回の授業で4頁ずつ進む予定。

5. 評価の方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。（中間試験を行う可能性もある。）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習の際は正しく発音する練習をし、意味を調べ、練習問題をやってみること。授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：小野寿美子他：「クロイツァング」（朝日出版社）
 参考書：一年次の文法の教科書と独和辞典（必須）

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail : imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

- 空港で
- ミュラー家で
- デパートで
- 駅で
- ベルリン動物園
- ペーターの11歳の誕生日
- オペラ鑑賞
- ミュンヘン旅行
- ミュンヘンで
- 病気
- 授業で
- 別れ

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

河合節子他：はじめてのドイツー使えるドイツ語表現（三訂版）（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟 405 に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子工学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」・「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 10 語法の助動詞
- 第2回 Lektion 10 “
- 第3回 Lektion 1 過去形
- 第4回 Lektion 1 現在完了形
- 第5回 Lektion 1 “
- 第6回 Lektion 12 受動態
- 第7回 Lektion 13 比較
- 第8回 Lektion 13 “
- 第9回 Lektion 14 関係文 まとめ小テスト
- 第10回 Lektion 14 “ まとめ小テスト
- 第11回 Lektion 15 接続法 まとめ小テスト
- 第12回 Lektion 15 “ まとめ小テスト
- 第13回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第14回 まとめ演習 まとめ小テスト
- 第15回 (試験)

5. 評価の方法

定期試験（40%）および小テスト（60%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

- 【図書名】『ハンブルクの風 - ドイツ語文法読本 -』
(Mit Familie Wagner und Akiko durch Deutschland)
- 【著者名】川嶋正幸 他 著
- 【出版社】朝日出版社
- 【価格】2400円
- 【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同学社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：電気電子工学科・総合システム工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 Elmar Lenhart

1. 概要

Die Studierenden haben ein Jahr Deutschunterricht hinter sich. Sie sollen das Gelernte aus dem ersten Jahr anwenden lernen und auf dem Weg der Sprachvermittlung die deutschsprachige Kultur kennenlernen. Der Unterricht wird sich darauf konzentrieren, allgemeine Informationen zur Landeskunde zu vermitteln und Deutsch als Kommunikationsinstrument vorstellen. Dabei werden auch die wichtigsten Kapitel aus der Grammatik als Leitfaden dienen.

2. キーワード

Landeskunde, Sprachproduktion, Grammatik, Kommunikation

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 1) und
- 2) Imperativ, Wechselpräpositionen, Orientierung und Wegbeschreibung
- 3) und
- 4) Berufe und Tagesablauf, Modalverben und Zeitangaben
- 5) und
- 6) Monate und Tage, Ordinalzahlen
- 7) und
- 8) Perfekt (regelmäßige Verben) und Präteritum
- 9) und
- 10) der Alltag, Perfekt
- 11) und
- 12) Wortschatzübungen Ernährung
- 13) und
- 14) Konjunktionen, Thema Wohnung und Arztbesuch
- 15) Wiederholung und Test

5. 評価の方法

Immanenter Prüfungscharakter (Mitarbeit inklusive Hausübungen) 40%, Abschlusstest 40%, Zwischentests 20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Es ist unbedingt notwendig das Lehrbuch immer zum Unterricht mitzubringen. Schlafen während des Unterrichts wird als Nicht-anwesend gewertet.

7. 教科書・参考書

Eurolingua 1.2 Teilband 2 des Gesamtbandes 1 Einheiten 9-16, Verlag: Cornelsen, ISBN 978-3-464-21389-6

8. オフィスアワー

elmar_lenhart@yahoo.co.uk

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 藤澤 正明

1. 概要

●授業の背景

言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中において個人や社会との相互理解に不可欠であり、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1年次に行われる基礎ドイツ語 A と共にドイツ語の基礎を学習し、次の段階のドイツ語につながる学力を修得する。

2. キーワード

ドイツ語、言葉、表現、文化、国際性

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書の順序に従って下記の諸項目を1回ないし2回程度かけて取り扱う（第1回～15回。ただし、定期試験を含む）。

空港で

ミュラー家で

デパートで

駅で

ベルリン動物園

ペーターの11歳の誕生日

オペラ鑑賞

ミュンヘン旅行

ミュンヘンで

病気

授業で

別れ

5. 評価の方法

後期試験の成績を基本に教室内での達成状況を加算(20%程度)して評価する。加算後60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

理解を容易にするため辞書を活用して予習に励むこと。

7. 教科書・参考書

●教科書

河合節子他：はじめてのドイツー使えるドイツ語表現（三訂版）（三修社）

8. オフィスアワー

学生相談日を設定（曜日、時間帯は総合教育棟 405 に掲示）

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：応用化学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

「読み」「書き」の練習を繰り返すことによって会話力・読解力の自然な獲得につなげる。また、テキスト・資料プリントを通してドイツのみならずヨーロッパの文化・思想文学を紹介する。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

第1回	Lektion 10	語法の助動詞
第2回	Lektion 10	〃
第3回	Lektion 1	過去形
第4回	Lektion 1	現在完了形
第5回	Lektion 1	〃
第6回	Lektion 12	受動態
第7回	Lektion 13	比較
第8回	Lektion 13	〃
第9回	Lektion 14	関係文 まとめ小テスト
第11回	Lektion 14	〃 まとめ小テスト
第11回	Lektion 15	接続法 まとめ小テスト
第12回	Lektion 15	〃 まとめ小テスト
第13回	まとめ演習	まとめ小テスト
第14回	まとめ演習	まとめ小テスト
第15回	(試験)	

5. 評価の方法

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『ゲナウ！ コミュニケーションのドイツ語』（Genau!）

【著者名】新倉真矢子 他 著

【出版社】第三書房

【価格】2500円

【推薦図書】新アポロン独和辞典 根本道也他著
同書社 4200円

8. オフィスアワー

基礎ドイツ語 B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル工学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたとき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

「基礎ドイツ語 A I」「基礎ドイツ語 A II」で学んだ知識を、多くの練習を通じて確実なものにする。

●授業の位置付け

半年の授業では到底充分ではないが、次のステップへ進む橋渡しとしての大切な授業である。表現練習・読解練習を重点的に行う。

2. キーワード

表現練習、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

教科書はCD付きで、10課からなっており、1課は6頁からなっている。文法の復習、練習、会話文、読み物がバランスよく配置されているので、教科書に沿って授業を行う。1回の授業で4頁ずつ進む予定。

5. 評価の方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2/3）および、平常点（1/3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。（中間試験を行う可能性もある。）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習の際は正しく発音する練習をし、意味を調べ、練習問題をやってみること。授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：小野寿美子他：「クロイツァング」（朝日出版社）

参考書：一年次の文法の教科書と独和辞典（必須）

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル工学科・応用化学工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 Elmar Lenhart

1. 概要

Die Studierenden haben ein Jahr Deutschunterricht hinter sich. Sie sollen das Gelernte aus dem ersten Jahr anwenden lernen und auf dem Weg der Sprachvermittlung die deutschsprachige Kultur kennenlernen. Der Unterricht wird sich darauf konzentrieren, allgemeine Informationen zur Landeskunde zu vermitteln und Deutsch als Kommunikationsinstrument vorstellen. Dabei werden auch die wichtigsten Kapitel aus der Grammatik als Leitfaden dienen.

2. キーワード

Landeskunde, Sprachproduktion, Grammatik, Kommunikation

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

- 1) und
- 2) Imperativ, Wechselpraepositionen, Orientierung und Wegbeschreibung
- 3) und
- 4) Berufe und Tagesablauf, Modalverben und Zeitangaben
- 5) und
- 6) Monate und Tage, Ordinalzahlen
- 7) und
- 8) Perfekt (regelmaessige Verben) und Praeteritum
- 9) und
- 10) der Alltag, Perfekt
- 11) und
- 12) Wortschatzuebungen Ernaehrung
- 13) und
- 14) Konjunktionen, Thema Wohnung und Arztbesuch
- 15) Wiederholung und Test

5. 評価の方法

Immanenter Pruefungscharakter (Mitarbeit inklusive Hausuebungen) 40%, Abschlussstest 40%, Zwischentests 20%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

Es ist unbedingt notwendig das Lehrbuch immer zum Unterricht mitzubringen. Schlafen waehrend des Unterrichts wird als Nicht-anwesend gewertet.

7. 教科書・参考書

Eurolingua 1.2 Teilband 2 des Gesamtbandes 1 Einheiten 9-16, Verlag: Cornelsen, ISBN 978-3-464-21389-6

8. オフィスアワー

elmar_lenhart@yahoo.co.uk

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：マテリアル工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、話法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：清野智昭「ドイツ語の時間[初級読本インゲとツヨシ]」(朝日出版社)

参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

基礎ドイツ語B Basic German B

対象学科（コース）：総合システム工学科
 学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

基礎ドイツ語Aで学ぶ文法知識を基に、ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

1. ドイツ語の表現力を養う
2. ドイツ語独自の文化形式を理解する

4. 授業計画

ドイツ語学習の初期段階において学ぶ内容を大別すると次のようになる。

- (1) 導入期——ドイツ語に慣れる時期
 - ・ドイツ語文の大原則——文の成り立ち
 - ・動詞の現在人称変化
 - ・名詞の文中での役割——名詞の性と定冠詞の変化
(人称代名詞も含めて)
- (2) 定着期——ドイツ語の語感を身につける時期
 - ・英語と異なるドイツ語独特の動詞の扱い方
——分離動詞、再帰動詞、語法の助動詞など
 - ・前置詞、形容詞・副詞の用法
 - ・ドイツ語文の大原則その2——副文
 - ・動詞の三基本形——過去と現在完了
- (3) 展開期——豊かな表現をめざして
 - ・比較の仕方 ・zu不定詞 ・受動態
 - ・関係代名詞 ・接続法 など。

この講義では、(1) 導入期の基礎固めと(2) 定着期に含まれる内容のいくつかを徹底的に学習する。

練習問題中心の教科書を用い、独作文を中心にドイツ語の表現力・理解力を養う。また、必要に応じてプリントも用いる。

5. 評価の方法

学期末試験を行い、60%以上を合格とする。語学の授業であるから、講義に出席することは学習上の前提と考える。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業が始まる前に、単語の意味は各自が辞書で調べておくことが、語学の学習上必要である。

7. 教科書・参考書

教科書：小塩節著「時事テーマで学ぶ〔初級ドイツ語読本〕
 ロマンチックドイツから福祉・共生・不作為まで」朝日出版社
 参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

選択ドイツ語A Elective German A

対象学科（コース）：全学科
 学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 反町 裕司

1. 概要

●授業の背景

人間が言葉を用いてものを考えるということが、外国語学習を進めていく上での大前提としてある。

我々が生きる現代社会は、欧米近代国家がその礎を築いた西欧近代の思想や制度に基づいている。

ヨーロッパにおいては、ドイツとフランスを中心に、EUの統合が進行している。

また、通信や交通手段の発達により、いっそう国際化が進みつつある。

●授業の目的

ドイツ語の初歩的な読解力・表現力を養うことにより、言葉を用いて考える能力をさらに伸ばしていくことがこの講義の目的である。

西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを取り入れる。

●授業の位置付け

はっきりと効果が目に見えるものではないが、強靱で幅広い思考力をつけることに寄与する。

目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

外国語、思考力、国際化

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

ビデオを参考にしながらドイツ語の文章に慣れ、練習問題を通じて知識を確実なものにしていく。

5. 評価の方法

毎回の課題作成により評価し、60%以上を合格とする。授業への参加度が評価のプラスポイントとなる。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

学生諸君の積極的な授業参加を期待する。

7. 教科書・参考書

教科書：清野智昭「ドイツ語の時間（ビデオ教材 恋するベルリン）DVDつき」（朝日出版社）840/S-21
 参考書：授業中に適宜紹介する。

8. オフィスアワー

別途掲示する。

選択ドイツ語A Elective German A

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 能木 敬次

1. 概要

近年、ドイツの世界経済・政治における役割の増大には目を見はるものがある。工業技術や福祉政策、環境政策においてドイツは世界をリードしている。近代日本の政治、教育文化、科学技術の発展におけるドイツの貢献度の大きさは言うまでもない。本講義は、ドイツ語文を「読む」ための第一段階の知識を提供する。将来、英語とともに第二の情報収集手段として、また研究の為のドイツ語文献の読解に役立てて欲しい。

2. キーワード

ドイツ、独検

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

- 第1回 Lektion 1
- 第2回 Lektion 2
- 第3回 Lektion 3 名詞の性について
- 第4回 Lektion 4
- 第5回 Lektion 5 再帰代名詞
- 第6回 Lektion 6
- 第7回 Lektion 7 分離動詞
- 第8回 Lektion 7 動詞の過去形・過去分詞形
- 第9回 Lektion 8
- 第10回 Lektion 9
- 第11回 Lektion 10
- 第12回 Lektion 11
- 第13回 Lektion 12 関係詞・受動態
- 第14回 Lektion 12 接続法
- 第15回 (試験)

5. 評価の方法

定期試験（40％）および小テスト（60％）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

【図書名】『専門コースへのドイツ語文法』

【著者名】井出万秀他著

【出版社】朝日出版社

【価格】2800円

8. オフィスアワー

選択ドイツ語A

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 今井 敦

1. 概要

●授業の背景

画一的なものの方見にとらわれない柔軟な思考力と、世界の多様性を理解してこれを尊重する態度は、グローバル化の進む現代においてこそ重要性を増している。これらの能力は、母語で構成された世界を抜け出し、英語でなされる思考をも相対化しえたととき、ようやく我々のものになると考えられる。

●授業の目的

基礎ドイツ語A、基礎ドイツ語Bで学んだ知識をもとに、その知識を生きたものとして使いこなすことができるようにする。それを通じてドイツ語圏の文化や社会に出会う。

●授業の位置付け

頭で知っている、というレベルから、自らの技能として身に付ける、というレベルへの発展。つまり、基礎段階の完成、ドイツ語学習の始まりの終わり。

2. キーワード

会話表現、平易な文章の読解、コミュニケーション、文化事情

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

教科書はCD付きで、12課からなっており、各課は4頁からなり、ディアローグ、文法の復習、練習、テキストの4部分で構成されている。教科書に沿って授業を行う。一回で1課進む予定。

5. 評価の方法

学期末に筆記試験を行う。さらに、授業の際どれだけ積極的であったか、きちんと勉強していることが見て取れたか、という点を平常点とする。筆記試験（2／3）および、平常点（1／3）で評価し、100点満点で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

予習の際は正しく発音する練習をし、意味を調べ、練習問題をやってみること。授業中に慌てて辞書を引いたりしては学力などつかないし、授業の妨げになる。予習は必ずしておくこと。語学の授業であるから、一人一人の積極的な参加が求められる。授業に毎回出席することは当然の義務である。

7. 教科書・参考書

教科書：清野智昭著『ドイツ語の時間』（朝日出版社）

845/S-18/2

参考書：一年のときに使った文法の教科書、独和辞典（必須）

8. オフィスアワー

火曜日午後2時から午後6時（会議、学会などで不在の場合はドアに掲示する）、またはその他の前もって予約した時間。

研究室：総合教育棟3階313

E-mail：imai@dhs.kyutech.ac.jp

選択ドイツ語A Elective German A

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Erwin Niederer

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価の方法

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

新田春夫他「ふたつの世界のはざままで - やさしい文法とテキスト」郁文堂

8. オフィスアワー

授業時間の前後

選択ドイツ語A Elective German A

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Erwin Niederer

1. 概要

●授業の背景

グローバルな世界の中で、国際コミュニケーション能力が益々重要になってくる。東西ドイツ統一によって、西ヨーロッパと東ヨーロッパのつながりの鎖として大きな役割が期待される。そのためドイツ語はヨーロッパの中心的な言語として重要な役割を担う。

●授業の目的

基礎コースで学んだ文法を深める。

単語を増やすことによって、会話力や文章力をつける。

●授業の位置づけ

教科書のレッスンの話題に沿って、ヨーロッパの情報を取りいれながら、国際的な理解を深める。

2. キーワード

コミュニケーション、国際理解、国際言語

3. 到達目標

基礎ドイツ語Bの内容を発展させる

4. 授業計画

ドイツ語学習をより効果的に実践する。初中級テキストを使用。

5. 評価の方法

宿題、小テスト・・・25%

授業態度・・・・・・・・25%

学期末試験・・・・・・・・50%

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

欠席しないこと

7. 教科書・参考書

新田春夫他「ふたつの世界のはざままで - やさしい文法とテキスト」郁文堂

8. オフィスアワー

授業時間の前後

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音（1）声調、単母音・複母音
- 第3回 発音（2）鼻母音、子音
- 第4回 発音（3）子音
- 第5回 発音（4）綴りの規則
- 第6回 発音のまとめ（中間試験）
- 第7回 第5課
- 第8回 復習
- 第9回 第6課
- 第10回 復習
- 第11回 第7課
- 第12回 復習
- 第13回 第8課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：しゃべっていいとも 中国語 陳淑梅 劉光赤 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 中国語概説
- 第2回 発音（1）声調、単母音・複母音
- 第3回 発音（2）鼻母音、子音
- 第4回 発音（3）子音
- 第5回 発音（4）綴りの規則
- 第6回 発音のまとめ（中間試験）
- 第7回 第5課
- 第8回 復習
- 第9回 第6課
- 第10回 復習
- 第11回 第7課
- 第12回 復習
- 第13回 第8課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

履修者が各クラスにつき40人以上に達した場合、抽選を行うので、履修希望者は前期の第一日目の授業時に、必ず出席すること。

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：しゃべっていいとも 中国語 陳淑梅 劉光赤 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視角から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A I Basic Chinese A I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には2通りある。視角から（字を判別する）入る道と、聴覚から（発音し、聴き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

1. 中国語 概説
2. 発音基礎 声調、母音
3. 発音基礎 子音、有気音・無気音
4. テキスト第一課 姓名表現
5. テキスト第二課 動詞文
6. テキスト第三課 数詞
7. テキスト第四課 時間表現
8. テキスト第五課 疑問文
9. テキスト第六課 形容詞述語文
10. テキスト第七課 助動詞
11. テキスト第八課 助動詞
12. テキスト第九課 アスペクト助詞
13. テキスト第十課 度量衡
14. 総合復習
15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視 2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第9課
- 第3回 復習
- 第4回 第10課
- 第5回 復習
- 第6回 第11課
- 第7回 復習
- 第8回 第12課
- 第9回 復習
- 第10回 第13課
- 第11回 ポイント
- 第12回 復習
- 第13回 第14課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：しゃべっていいとも 中国語 陳淑梅 劉光赤 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第9課
- 第3回 復習
- 第4回 第10課
- 第5回 復習
- 第6回 第11課
- 第7回 復習
- 第8回 第12課
- 第9回 復習
- 第10回 第13課
- 第11回 ポイント
- 第12回 復習
- 第13回 第14課
- 第14回 復習
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：しゃべっていいとも 中国語 陳淑梅 劉光赤 朝日出版社

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 1. 中国映画上映
- 2. テキスト第十一課 把 構文
- 3. テキスト第十二課 禁止表現
- 4. テキスト第十三課 的表現
- 5. テキスト第十四課 経験文
- 6. まとめ 復習
- 7. テキスト第十五課 値段の表現①
- 8. テキスト第十五課 値段の表現②
- 9. テキスト第十六課 存現文①
- 10. テキスト第十六課 存現文②
- 11. テキスト第十七課 受身文①
- 12. テキスト第十七課 受身文②
- 13. テキスト第十八課 使役文
- 14. 総合復習
- 15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 A II Basic Chinese A II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 板谷 秀子

1. 概要

中国語の習得方法には 2 通りある。視覚から（字を識別する）入る道と、聴覚から（発音し、聞き取る）入る道がある。日本語と発音を比較すると、日本における漢字の音読みと中国語の普通話（中国の標準語）の発音は全く異なっている。漢字を正確な発音で読んでいくのが中国語習得の初歩なのだ。

2. キーワード

外国語としての中国語・簡体字・繁体字・隣国は異文化

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントを正確に理解する。
- ②中国語の基礎文法事項を習得する。
- ③中国に対して理解を深める。

4. 授業計画

- 1. 中国映画上映
- 2. テキスト第十一課 把 構文
- 3. テキスト第十二課 禁止表現
- 4. テキスト第十三課 的表現
- 5. テキスト第十四課 経験文
- 6. まとめ 復習
- 7. テキスト第十五課 値段の表現①
- 8. テキスト第十五課 値段の表現②
- 9. テキスト第十六課 存現文①
- 10. テキスト第十六課 存現文②
- 11. テキスト第十七課 受身文①
- 12. テキスト第十七課 受身文②
- 13. テキスト第十八課 使役文
- 14. 総合復習
- 15. 定期試験

5. 評価方法・基準

定期試験 90%、平常点 10%、60 点以上を合格とする

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席重視、2 / 3 以上の出席必須。

7. 教科書・参考書

教科書：「中国を歩こう」（金星堂）

8. オフィスアワー

E-mail: xiuzi2004@s3.dion.ne.jp

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第12課
- 第3回 復習
- 第4回 第13課
- 第5回 復習
- 第6回 第14課
- 第7回 復習
- 第8回 第15課
- 第9回 復習
- 第10回 中間試験
- 第11回 プリント
- 第12回 プリント
- 第13回 プリント
- 第14回 プリント
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社
820.7/K-1

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：電気電子・総合システム

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

- 第1回 復習
- 第2回 第12課
- 第3回 復習
- 第4回 第13課
- 第5回 復習
- 第6回 第14課
- 第7回 復習
- 第8回 第15課
- 第9回 復習
- 第10回 中間試験
- 第11回 プリント
- 第12回 プリント
- 第13回 プリント
- 第14回 プリント
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：中国語スタンダード 齋藤匡史・何曉毅・田梅 白帝社
820.7/K-1

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

基礎中国語 B Basic Chinese B

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

中国、国際性、異文化理解、言語

3. 到達目標

- ①中国語の発音とアクセントをしっかりと修得する。
- ②中国語の基礎文法事項を発展的に習得する。
- ③中国に対して更に理解を深める。

4. 授業計画

第1回（全ての授業計画については、第1回の授業時に告知する）

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回 試験

5. 評価方法・基準

期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。

テキストは、NHKの中国語会話テキストを使用するので、毎月買い忘れの無いように。

成績のフィードバックは模範解答を掲示する。個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 教科書・参考書

教科書：NHK テレビ テレビで中国語 NHK 出版

参考書：はじめての中国語学習辞典 朝日出版社 823/A-2

8. オフィスアワー

連絡先は人間科学事務室に尋ねること。

選択中国語 A Chinese A

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりと目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、確実な知識として身につけていくことを目標とする。自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてはよい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする
- ②基礎的な文法をマスターする
- ③基本的な会話ができるようになる
- ④中国に対する知識を増やす

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス・発音の復習

2. 第1課 介詞①・連体修飾語

3. 第1課 様態補語

4. 第2課 可能①・「すこし」

5. 第2課 介詞②③・時間量

6. 第3課 二重目的語・連動文

7. 第3課 完了

8. まとめ 第1課～第3課

9. 第4課 動作の進行・介詞④

10. 第4課 経験・動量補語

11. 第5課 介詞⑤・結果補語

12. 第5課 状態の持続・場所語

13. 第6課 可能②

14. 第6課 「太～了」・お金

15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の2/3以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第1回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『楽しい中国語コミュニケーション 改訂版』

（高橋良行・村上公一・陸明 同学社）

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

選択中国語 B II Chinese B II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 岡村 真寿美

1. 概要

隣国中国との関係は近年ますます深いものとなり、学生諸君それぞれが、将来かなり高い確率で中国と何らかの関わりを持つであろうことが予想される時代である。履修者はそのような将来を見据えて、各人しっかりした目的意識を持って授業に臨むことが重要である。

とはいえ、一つの言語をそう簡単に習得できるはずがないこともまた事実である。「中国語は同じ漢字を使う言語なので、履修しやすい」ということに甘えていては、上達は難しいだろう。本講義は、すでに習得した発音、基礎的な文法を復習し、聴き取りの練習を中心に、「ことば」として使うことができるよう繰り返し練習する。まずは中国語を使うことに慣れ、自分の「中国語力」のレベルをたかめて、次のステップへつなげる足がかりとしてほしい。

2. キーワード

中国 外国語 異文化

3. 到達目標

- ①発音を正確にマスターする
- ②基礎的な文法をマスターする
- ③基本的な会話ができるようにする
- ④中国に対する知識を増やす

4. 授業計画

1. 受講のためのガイダンス
2. 第7課 単純方向補語・「有」
3. 第7課 動詞の重ね型・使役
4. まとめ 第4課～第7課
5. まとめ 閲読
6. 第8課 「些」・「すこし」②
7. 第8課 可能補語
8. 第9課 体温・介詞⑥
9. 第9課 「会～的」
10. 第10課 「まもなく」・「打算」
11. 第10課 「～のとき」・程度の表現
12. まとめ 第8課～第10課
13. まとめ 閲読
14. 総復習
15. 試験

5. 評価方法・基準

定期試験 70%、平常点 30%。合計 60 点以上を合格とする。

平常点は、出席状況・小テスト・受講状況で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

全講義回数の 2 / 3 以上出席していなければ、自動的に単位取得資格を失う。

履修上の細かな注意点について、第 1 回の講義時に説明するので、必ず出席すること。

7. 教科書・参考書

教科書：『楽しい中国語コミュニケーション 改訂版』

(高橋良行・村上公一・陸明著 同学社)

※教科書は前期開講の「選択中国語 A」と同じだが、「B II」だけでも履修可能。

※中日辞典が必要。

8. オフィスアワー

連絡先は、人文科学事務室にたずねること。

ロシア語 A I Russian A I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

はじめに個々の文字と発音を学習し、単語のアクセントと短い文のイントネーションを正しく習得する。日常生活で多用される表現を中心に、ロシア語の基本文型に習熟して、発話能力を高めるよう反復練習する。教科書のほかにも、プリント教材を使って、現代ロシア人の生活や文化も紹介していきたい。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「ロシア語とはどんな意味？」母音と母音文字
- 第2回 テーマ「ロシア語のアルファベット①」子音①
- 第3回 テーマ「ロシア語のアルファベット②」子音②
- 第4回 テーマ「発音」単語のアクセント
- 第5回 テーマ「短文のイントネーション」簡単な問いと答え
- 第6回 テーマ「第1課①」挨拶、交際
- 第7回 テーマ「第1課②」ロシア人の名前、国名
(名詞の単数と複数)
- 第8回 テーマ「第1課③」単語テストと会話
- 第9回 テーマ「第2課①」教室でのロシア語
(動詞の人称変化形)
- 第10回 テーマ「第2課②」趣味(名詞の対格)
- 第11回 テーマ「第2課③」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第2課④」練習問題と会話
- 第13回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第1課と第2課の応用」練習と会話

5. 評価方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

ロシア語 A II Russian A II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 Shestakova Natalya

1. 概要

A Iに引き続き、ロシア語の文法を学修する。テキストの講説とその応用としての対話練習を行う。

2. キーワード

ロシア語、ロシア人の生活や文化、コミュニケーション

3. 到達目標

1. ロシア語文法の基礎を習得する。
2. 新たな思考の枠組みを作り上げる。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ「第3課①」家族の紹介(名詞の前置格)
- 第2回 テーマ「第3課②」職業(形容詞)
- 第3回 テーマ「第3課③」練習問題と会話
- 第4回 テーマ「第3課④」単語テストと会話
- 第5回 テーマ「第4課①」一日の生活(動詞の過去)
- 第5回 テーマ「第4課②」時間表現
- 第6回 テーマ「第4課③」訪問(動詞の体)
- 第7回 テーマ「第4課④」単語テストと会話
- 第8回 テーマ「第5課①」余暇(動詞の未来形)
- 第9回 テーマ「第5課②」時を表す副詞、曜日名
- 第10回 テーマ「第5課③」訪問(動詞の命令形)
- 第11回 テーマ「第5課④」単語テストと会話
- 第12回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第13回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話
- 第14回 テーマ「第3～5課の応用」練習と会話

後学期末試験

5. 評価方法・基準

各学期末の試験に平素の学習状況を加えて評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教科書とノートを必ず持参すること。20分以上の遅刻厳禁。

7. 教科書・参考書

戸辺又方「一年生のロシア語」白水社

参考書 安藤厚「ロシア語ミニ辞典」白水社

8. オフィスアワー

選択韓国（朝鮮）語 A I Elective Korean A I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国（朝鮮）語の基本的な「文字」と「正確な発音」の習得が第一の目標となります。韓国語と日本語の語順はよく似ているため、日本語話者にとって、学習しやすいといわれますが、発音、文字等は似ても似つかない部分も多く、特に初級の段階では他の言語と比べても容易であるとはいえないです。そのため、授業の進行は受講生の理解度に応じたペースで進めていきます。

この講義を通じて、韓国語、韓国文化への知識や理解を深めてほしいです。

2. キーワード

ハングル、韓国（朝鮮）語、韓国の文化

3. 到達目標

①韓国語の文字と発音の習得、②基礎的な文法の学習、③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・母音 1、2
- ・子音 1、2
- ・終声子音（バッチム） 1、2
- ・発音の仕組み（法則） 1、2
- ・やさしい会話 1、2、3
- ・基本文型 1、2

以上の順序で進めながら、時折韓国文化に関する資料や映像の紹介もしていきます。

5. 評価方法・基準

①定期試験、②出席、③宿題及び小テストによる総合評価

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

「楽しく学ぶ」ことがモットーの授業を目指します。そのためには、受講生皆さんの努力や協力が大事です。また新しい言語を学ぶには、沢山の興味と、ある程度の情熱や覚悟が必要です。授業で課せられる宿題、小テストなどが苦にならない、やる気ある学生の受講を望みます。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店

（教科書に関しては、第一回目の授業で紹介いたします。）

8. オフィスアワー

E-mail：gyelc0926@yahoo.co.jp

選択韓国（朝鮮）語 A II Elective Korean A II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

基本的には前期の「選択韓国（朝鮮）語 A I」の続きとして進めていきます。

授業では、韓国（朝鮮）語の読み、書き、話すことができるための基礎的な能力を養います。

ハングルの正確な発音に重点をおきながら、基本文型、文法、身近な日常会話を習得します。

2. キーワード

ハングル、韓国語の発音、韓国の文化

3. 到達目標

①基礎的な文型及び文法の学習、②やさしい日常会話の習得、③韓国文化への理解

4. 授業計画

- ・オリエンテーション
- ・基本文型 1、2、3
- ・数字 1、2 と時刻の読み方
- ・自己紹介
- ・助詞 1、2、3
- ・楽しい会話 1、2
- ・否定形
- ・過去形
- ・尊敬系とその他

以上の順序で進めながら、時々韓国文化に関する資料にも触れていきます。

5. 評価方法・基準

①定期試験、②出席、③宿題や発表、小テストによる総合評価。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

選択韓国（朝鮮）語 A I 参照。

7. 教科書・参考書

桂林春・桂文姫「レッスン韓国語」中国書店

8. オフィスアワー

E-mail：gyelc0926@yahoo.co.jp

I. 「保健体育系」の目的・目標

1. 身体や身体活動 (Muscular Activity) についての科学的思考能力の育成
2. 健康 (度) や体力 (フィットネス) の保持・増進
3. 運動、スポーツ技能の修得
4. 社会性の育成
5. 運動、スポーツ文化の継承と発展
6. 生涯学習 (スポーツ) への橋渡し

II. 保健体育系における授業の方向性

保健体育のスポーツを通じた教授学習過程におけるシーケンスの観点からすると、以下の事が基本原則である。

体育実技における教授・学習計画の基本法則

1. 運動 (スポーツ種目) 強度
「軽度から中等度をへて高強度へ」
2. 時間 (継続、実施)
「短」から「長」へ
3. 頻度
「少」から「多」へ
4. 量 (強度 x 時間)
「少」から「多」へ
5. タイプ
「易」から「難」へ
「簡単」から「複雑」へ

III. 保健体育系科目の種類

1. 人間科学基礎科目: 保健体育
2. 人間科学副専門科目: 健康スポーツ科学論、応用スポーツコース
- I. 「保健体育系」の目的・目標の理論的立場の教授と学習、さらなる応用的側面をここでは取り扱う。
3. リレー講義科目: 「環境適応論」
上記の実験・実習科目としても少人数による教育をおこなっている。大学院教育との関連で言及する内容を一部、講義・演習形式できるよう検討している。また、B. 副専門科目の「応用スポーツコース」において、「体力」あるいは「ヒトの適応能」の定量化実験の実施をできるよう構想している。

保健体育A Practice of Health and Physical Education

対象学科 (コース) : 全学科

学年: 1年次 学期: 前期 単位区分: 必修 単位数: 1単位

担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広くの受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進 (health promotion) の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をととして、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育 (スポーツ) 活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力 (Physical Fitness) 増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をととして (あるいは身体運動に関する) 学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

体力=健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6~14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・前期は、比較的運動強度の軽い個人スポーツ種目を男女混合で開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー

毎週月曜日の6時限目 (16:30~18:00)

保健体育B Practice of Health and Physical Education

対象学科(コース)：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1単位

担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広く受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進(health promotion)の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育(スポーツ)活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力(Physical Fitness)増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおして(あるいは身体運動に関する)学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

体力＝健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

後期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ・比較的運動強度の高い心肺機能の向上を計るために効果的な集団スポーツ種目を男女別々に開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

《女子学生へ》

保健体育・B(後期)に関しては、木曜5時限目の「女子体育」を受講すること。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー

毎週月曜日の6時限目(16:30～18:00)

健康スポーツ科学論 Exercise Prescription

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 鳥井 正史

1. 概要

●背景

「生活習慣病」(これまでの「いわゆる「成人病」)の危険因子として、肥満、高血糖、高血圧、精神的ストレスなどが指摘されている。これらの危険因子は運動実践によって十分に軽減される事が、広く認識されている。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要である。

●目的

「生活習慣病」のこれらの危険因子は、運動実践によって十分に軽減される。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要であり、それらに関する生理学的基本的事項について理解を深める。さらに、ヒトの生理的機能や身体運動に対する科学的思考能力の育成を目指すと共に「運動処方」の基本計画の策定基礎の確立を目指す。

●位置付け

毎回、ヒトの生理機能や身体運動に関する教授学習を行なう。通常、教室における講義形式をとる。

2. キーワード

ヒトの生理機能、身体のトレーニング、体力＝健康度の向上、生活習慣病

3. 到達目標

- 1) 今日の健康概念の理解
- 2) ヒトの生理機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
- 3) 運動処方や身体のトレーニング計画の立案・実施

4. 授業計画

- 1) 現代生活と健康－その1 寿命と疾病構造の変遷
- 2) その2 生活習慣病の出現
- 3) その3 食事と運動と休息・休養(睡眠)の関連
- 4) 「体力」概念－行動体力と防衛体力
- 5) 運動の効果－運動・スポーツに関する生理学的基礎(総論)
- 6) a. 筋、神経系
- 7) b. 肥満、脂質、動脈硬化に関する効果
- 8) c. 有酸素系能力(心・血管系)に対する効果
- 9) d. 体温調節に対する効果
- 10) e. 免疫・内分泌機能に対する効果
- 11) 運動処方の実際(総論)運動処方野や療法、身体トレーニングの概念
- 12) メディカルチェック(運動実施のための健康診断)、性、年齢、活動水準に応じた運動処方 その1、その2
- 13) スポーツ障害の予防に関する諸問題

5. 評価方法・基準

末試験の成績で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

7. 教科書・参考書

教科書は使用しない。講義2～3回に1回の割合で資料を配付する。

1. 体育科学センター(編)スポーツによる健康づくり運動カルテ、講談社780.1/T-14
2. 石河利寛 スポーツと健康(新書版)岩波書店081/I-2-3/3
3. 池上晴夫 運動処方 朝倉書店780-1/I-18/2
4. 池上晴夫：適度な運動とは何か 講談社780-1/I-21、480/B-2/739
5. 時実利彦：脳の話(新書版)岩波書店081/I-2/461、491.3/T-2

8. オフィスアワー

毎週月曜日の6時限目(16:30～18:00)

応用スポーツコース Fitness

対象学科（コース）：全学科 学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 鳥井 正史

1. 概要

本授業においては、体力（フィットネス）向上を目的とした内容を学習する。応用面ではスポーツを積極的に実践する企画運営能力を発展させる。更に、現在および将来の「運動不足」を解消や「運動処方」の基本となる事項にも重点をおいて学習する。

2. キーワード

体力水準、運動能力、ヒトの生理機能、運動処方

3. 到達目標

- 1) 自己の体力水準の把握
- 2) 自分に適した運動プログラム作成

4. 授業計画

1. 現代生活におけるスポーツ活動、身体運動の意義
2. 運動生理学の基本的事項 その1 運動と神経支配や液性の制御
3. その2 筋収縮やエネルギー放出機構など
4. フィットネス（ジョギング）の実践・学習 その1、その2、その3
5. フィットネス（スイミング）の実践・学習 その1、その2
6. フィットネス（ウェイトトレーニング）の実践・学習 その1、その2
7. 実験室における体力の測定実習 その1、その2、その3
8. スポーツ活動の実践のための企画、運営等
9. 運動処方のための企画や実践等

5. 評価方法・基準

「積極的継続性」、理解度（学習態度を含む）および習得技能の程度から総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと、および2、3回演習形式の講義をする。

7. 教科書・参考書

適宜指示する。

8. オフィスアワー

毎週月曜日の6時限目（16：30 - 18：00）

西洋文学と人間理解

対象学科（コース）：全学科

学年：全学年 学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 反町 裕司

1. 概要

文学は言葉による表現形式である。

言葉は、論理的文脈においてはそれ自体の意味を持ち、その連なりによってあるまとまった思想的内実を表現することができる。また、言葉は音であり、そのことから必然的にリズムとイントネーションを持つ。さらに、言葉は、その発せられ方により、色合いやイメージ、象徴的な意味などを含むことがある。

文学者は、このような言葉の特徴を巧みに用い、文学的事実を創造する。

一方大学教育の対象である学生に目を向けると、昨今は読書量の低下がとくに言われている。読書経験が少ない学生たちの言語能力を向上させるには、まず言葉を用いた表現の良質な例を多く経験させることが有効であると筆者は考える。すべてではないにせよ、学生たちの多くは、読書量の低下のため、内容に形式を与えた例をこれまでにあまり経験していないと筆者は考えるからである。

幸いにして、ドイツ語圏・英語圏の文学は、さまざまな内容に適切な形式を与えた豊饒な表現の宝庫である。学生たちは、経験豊かな教員たちの道案内により、世界にはさまざまな表現の形式が存在し、ある内容を表現するにはある形式がふさわしいことを知るだろう。そうした知見が、学生たちの勉学や生活における言語活動をより豊かなものにする一助となれば、このリレー講義の目的は達成されたものと考えられる。

2. キーワード

言葉と表現、内容と形式

3. 到達目標

1. 言語表現にはさまざまな形式が存在することを知る。
2. 表現する内容と形式は、互いに深く関わることを知る。

4. 授業計画

前半

- 4月14日：導入・担当反町「さまざまな表現形式」
 21 虹林「英詩を読むー原文と翻訳ー」
 28 水井「イギリス旅行記文学の歴史背景と世界観」
 5月12日 アブドゥハン「リルケの事物詩」
 19日 藤澤「ベルネとハイネー詩人とは何かー」
 26日 藤澤「ツルゲーネフと愛の諸相ー19世紀ロシア文学よりー」
 6月2日 反町「クライストの笑いの表現」

後半

- 9日 ニーデラー「ドイツ語と日本語の伝達形式の比較」
 16日 古賀「ゼバスティアン・ブランドの『愚者の船』に描かれた人間像」
 23日 反町「ベルの笑いと社会との関わり」
 30日 今井「トーマス・マンにおける「ドイツ的なもの」と「ヨーロッパ的なもの（1）」」
 7月7日 今井「トーマス・マンにおける「ドイツ的なもの」と「ヨーロッパ的なもの（2）」」
 14日 大野「＜不気味なもの＞への招待」
 21日：まとめ・担当反町「レポート紹介」

5. 評価方法・基準

6月はじめを境にして、前半と後半に分けます。

- ・前半7回の講義の中から任意の2回を選び、レポートを提出します。
- ・後半7回（今井先生の講義は2回を一組とする）の講義の中から任意の2回を選び、レポートを提出します。

◎レポートは計4回提出し、各講師に「合格・不合格」を判定していただきます。また各回のレポートのうち、特に優れたものを若干数（二本程度）推薦していただきます。

- 合格4回 → 優
 合格3回 → 良
 合格2回 → 可
 合格2回未満 → 不可

※特に優れていると推薦されたものの中から、コーディネーターがさらに数本を選んで「秀」とします。レポートの形式は、原則としてA4用紙に1200字以内でまとめること。

注意:ただし講師によって、別の形式になる可能性もあります。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

7. 教科書・参考書

授業時に資料を配布する

8. オフィスアワー

別途掲示する

リレーセミナー「アイデンティティ」 Identity

対象学科(コース)：全学科 学年：2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位
 担当教員名 今井敦(コーディネーター)・大野瀬津子・
 桐原隆弘(非常勤講師)

1. 概要

今日、加速度的に進むグローバル化の中、多くの地域がディアスポラの様相を示しつつある。国や地域の枠組みは形骸化し、場所や環境との結びつきを失った個人の自己理解は、これまでにない不安に晒されている。「日本人」や「ドイツ人」といった、均質性や共通性を前提とする集合的アイデンティティが疑わしいものとなる一方、伝統的諸価値の解体がもたらす不安は、逆にナショナリズムの復権を促している。今ほど自己のアイデンティティが問われる時代はない。だが、アイデンティティとはそもそも何なのか？様々な帰属性によるモザイク的パッチワークとしての自己だろうか？過去から未来へと繋がる、自己と他者との理解に基づいた「私」であろうか？あるいは、「私」を語ることによって初めて構築される虚構であろうか？いずれにせよ「アイデンティティ」は、もはや学術用語であるに留まらず、一人一人の存在に係る切実な問題となった。「私はどこから来て、どこへ向かおうとしているのか。私が今ここにいるとは、どういうことなのか。」こうした問いから出発し、当セミナーでは、新しいアイデンティティのあり方、雑種の存在として生きること、国や地域が果たす役割といった問題まで視野に入れ、文学や哲学等の文章を読みながら、批判的に考える力、自分の考えを適切に表現する力を養う。

以下の第1テーマを今井、第2テーマを大野、第3テーマを桐原が担当。

2. キーワード

表現力、論理的思考、多文化、アイデンティティ、グローバリズム、ナショナリズム

3. 到達目標

- ①文献・資料を正しく理解する。
- ②根拠をあげて論理的に議論ができる。
- ③資料と議論をふまえ、筋道の通ったレポートを作成できる。

4. 授業計画

- 第1回：導入・ガイダンス
- 第2回：第1テーマ「自伝とアイデンティティ(1)」テキスト理解、解説、ディスカッション
- 第3回：第1テーマ「自伝とアイデンティティ(2)」テキスト理解、解説、ディスカッション
- 第4回：第1テーマ「自伝とアイデンティティ(3)」テキスト理解、ディスカッション、レポート準備
- 第5回：第1テーマ「自伝とアイデンティティ(4)」試作レポートの合評
- 第6回：第2テーマ「自己と他者をめぐるゴシック・ストーリー(1)」概説
- 第7回：第2テーマ「自己と他者をめぐるゴシック・ストーリー(2)」プレゼンテーション、ディスカッション
- 第8回：第2テーマ「自己と他者をめぐるゴシック・ストーリー(3)」プレゼンテーション、ディスカッション
- 第9回：第2テーマ「自己と他者をめぐるゴシック・ストーリー(4)」プレゼンテーション、ディスカッション
- 第10回：第3テーマ「差別とアイデンティティ(1)」テキスト理解、解説、ディスカッション
- 第11回：第3テーマ「差別とアイデンティティ(2)」テキスト理解、解説、ディスカッション
- 第12回：第3テーマ「差別とアイデンティティ(3)」テキスト理解、ディスカッション、レポートの準備
- 第13回：第3テーマ「差別とアイデンティティ(4)」試作レポートの合評
- 第14回：まとめ
- 第15回：予備日

5. 評価方法・基準

授業内のディスカッション(プレゼンテーション等を含む)、資料調査、3回のレポートを総合して行う。60点以上を合格とする。最終的成績評価はコーディネーターが行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

セミナー形式のため、配布する資料を授業計画に沿って予習することが必須である。

*授業に関する情報はコーディネーターのホームページにて公開する。(学内のみアクセス可)(<http://licht.dhs.kyutech.ac.jp/~imai/>)

7. 教科書・参考書

第一回目の授業で指示する。

(教科書)

- ・スザンナ・タマーロ『こころの赴くままに』草思社 973/T-4
 - ・ヨーゼフ・ツォーデラー『手を洗うときの幸福』「かいろす」45-47号
 - ・ウィリアム・フォークナー「エミリーにバラを」(龍口直太郎訳『フォークナー短編集』新潮社所収)
 - ・マックス・ホルクハイマー/テオドル・W.アドルノ『啓蒙の弁証法』岩波書店
- (参考書)

- ・『〈ほんとうの自分〉のつくり方 自己物語の心理学』講談社現代新書 081/K-3/1586
- ・細見和之『アイデンティティ/他者性』岩波書店 902/H-3
- ・加藤耕一『「幽霊屋敷」の文化史』講談社現代新書 081/K-3/1991
- ・ジェームズ・M・バーダマン『アメリカ南部—大国内なる異郷』講談社 081/K-3/1253
- ・オトフリート・ヘッフェ『経済市民・国家市民・世界市民』(未訳；資料を配布)
- ・ユルゲン・ハーバーマス『自然主義と宗教のはざままで』(未訳；資料を配布)

8. オフィスアワー

相談窓口はコーディネーターとする。

今井敦研究室(総合教育棟3階313、電話・FAX: 093-884-3448)
 E-mail: imai@dhs.kyutech.ac.jp

オフィスアワーは毎週火曜日14時～18時、またはその他の予約した時間。

教職論 Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 藤井 美保

1. 概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の内容

ビデオ教材等により教員をとりまく現代的状況についての理解を促しながら、教職の意義や教員の役割、職務内容等について歴史的視点や国際的視点をまじえて解説する。また、教師の役割認知過程をたどることによって、生徒や保護者、同僚、地域住民等との関係の諸相を明らかにし、教師に求められる資質能力について考える。

2. キーワード

学習指導 生徒指導 聖職観 労働者観 専門職論 保護者
同僚 地域住民 教師文化

3. 到達目標

- ①現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。
- ②生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。
- ③教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

4. 授業計画

- 1回 イントロダクション ー揺れ動く現代の教師役割ー
- 2回 教師を取り巻く現実
- 3回 教師の役割 ー学習指導ー
- 4回 教師の役割 ー生徒指導ー
- 5回 教師役割の歴史の変遷
- 6回 専門職としての教師 ー教職は聖職か？ー
- 7回 専門職としての教師 ー労働者としての教師ー
- 8回 専門職としての教師 ー専門職とは何かー
- 9回 教師の役割認知過程 ー教師役割の形成ー
- 10回 教師の役割認知過程 ー役割相手としての生徒・保護者・同僚・地域住民ー
- 11回 教職の特性
- 12回 教師に求められる資質・能力
- 13回 教師役割の国際比較
- 14回 全体のまとめ ー理想の教師像とはー
- 15回 試験

5. 評価の方法・基準

平常点（リアクション・ペーパー等、30点）および筆記試験の点数（70点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

集中講義であるから、全授業への出席を原則とする。

7. 教科書・参考書

●教科書は指定しない（必要に応じて資料を配付する）

●参考文献

- 油布佐和子『転換期の教師』日本放送出版協会 375.9/H-2
山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準 374.3/Y-1
永井聖二・古賀正義『＜教師＞という仕事＝ワーク』学文社
374.3/N-3

8. オフィスアワー

教育原理 Principle of Education, the 1st period, Monday

対象学科（コース）：全学科

学年：1・2年次 学期：前期 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観 生涯発達・生涯学習 初等教育・中等教育
職業教育 教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③それらを的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 「教育」及びその近接概念について
- 2回 教育的人間関係の基本構造と教育者の条件
- 3回 教授法の変遷に見る教育観
- 4回 「子ども」と「大人」の思想史
- 5回 教育と子育て
- 6回 諸外国及び日本の学校教育制度の概要
- 7回 近代日本の教育の歴史と法制
- 8回 初等教育の現状と課題
- 9回 中等教育の現状と課題
- 10回 家族・学校・地域の連携
- 11回 不登校といじめ
- 12回 児童虐待
- 13回 少年非行
- 14回 現代教育の再構築-情報化社会と生涯学習-
- 15回 試験

5. 評価の方法・基準

小レポート 30%

期末テスト 70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

- 参考文献

柴田義松他 『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一 『やさしい教育原理』371/T-4

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育心理学 Educational Psychology

対象学科（コース）：全学科

学年：1・2年次 学期：前期 単位数：2単位

担当教員名 今村 義臣

1. 概要

●授業の背景

児童・生徒を指導・教育する立場にある者は、環境をコントロールし、子ども達が最大限の心身の発達を達成できるように援助する必要がある。そのためには人間の心のしくみの理解が必要である。心理学は、科学的な視点から人間の心のしくみに関する知識を授けてくれる学問であり、教育心理学は、その中でも教育的観点に焦点付けを行った知識を授けてくれる。

●授業の目的

ここでは、教育心理学で最低必要な知識である、発達、学習、学級集団、知能、人格・適応、および、障害児心理の諸知識を学習する。ここでは、随所に最近の脳科学で得られた知見を交え、脳を中心に据えた心の理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育心理学は教職専門科目の中でも重要な科目の1つである。また、他の心理学の講義を同時に学ぶことによって、人間行動に対するより深い理解が得られるものと思われる。

2. キーワード

教育心理学、行動科学、認知科学、臨床心理学

3. 到達目標

教育心理学で最低必要な知識（発達、学習、人格と適応、障害児教育等）の習得。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション
- 2回 発達1 こころ（脳）の基本的メカニズムを成長と発達の観点から学ぶ。
- 3回 発達2
- 4回 発達3
- 5回 学習1 学習の原理と学習指導について学ぶ。
- 6回 学習2
- 7回 学習3
- 8回 学級集団 学級集団を把握するための理論・方法を学ぶ。
- 9回 知能 知能のメカニズムについて学ぶ。
- 10回 人格と適応1 人格と適応の諸理論を学ぶ。
- 11回 人格と適応2
- 12回 人格と適応3
- 13回 障害児1 障害児の心理と教育について学ぶ。
- 14回 障害児2
- 15回 試験

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

配布資料は常に持参すること。ノートをとること。

7. 教科書・参考書

●教科書

新教職課程の教育心理学 中西信男・三川俊樹編 ナカニシヤ出版 371.4/N-19

●参考書

適宜紹介する。

8. オフィスアワー

E-mail アドレス：gishin@std.mii.kurume-u.ac.jp

教育社会学 Sociology of Education

対象学科（コース）：全学科

学年：1・2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③以上の点を踏まえて、現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するわけではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産 エスニシティ ジェンダー サブカルチャー 教育制度・教育政策 学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 文化伝達としての教育－育児としつけ－
- 2回 文化的再生産と教育－家族・階層・言語－
- 3回 エスニシティと教育－人種、民族、国家－
- 4回 ジェンダーと教育
- 5回 メディアと教育
- 6回 子ども文化の変遷と現在
- 7回 若者文化の変遷と現在
- 8回 少年非行の社会学
- 9回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 10回 学力とカリキュラムの社会学
- 11回 学校教育と職業
- 12回 教育政策の変遷と現在
- 13回 学校経営の現代的課題（1）
- 14回 学校経営の現代的課題（2）
- 15回 試験

5. 評価の方法・基準

成績評価

小レポート	30%
期末テスト	70%

期末テストは論述式で行う。また、小レポート作成に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しないが、参考書をそのつと指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6
柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

8. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

工業教科教育法 Method of Technology Education

対象学科（コース）：全学科

学年：3年次 学期：通年 単位数：4単位

担当教員名 永田 萬享

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教科の指導法」に関して講義を行い、次の点を目的とする。

- ①工業科教育を広く人材育成システムの営みの中に位置づけ、多面的に考察すること。
- ②生徒の技術的発達、職業的発達の観点から工業科教育の役割について理解するとともに、現代社会における工業教育・技術教育の学びについて理解を深めること。
- ③現代の工業教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、教育実践を有効にするために、「手段」の機能をよくするとともに、その技術的能力を高めることを目指す。

●授業の位置付け

- ①工業科教育の歴史、教育目的、教育内容そして情報機器と教材の活用を含む効果的な教育方法について教育学的に検討する。
- ②教材論、授業論などの授業実践に関わる部分を中心に教育実践的検討を行う。

2. キーワード

工業科教育 教材研究 技術教育 職業教育

3. 到達目標

- ①高校の工業の教師として工業科教育に関する基本的な知識、技術、技能の習得を目指して、工業教育の果たす役割の重要性を認識することができる。
- ②工業科教育の性格や内容、その存立基盤の特徴を明らかにしつつ、工業科教育の担い手として必要な資質を形成すること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 工業科教育と教育実践（教育実践における教師の役割）
- 2回 学校教育の課題
（総合学科の新設及び専門学科の改善充実）
- 3回 工業教育の役割と目標
（産業社会における工業技術教育のあり方）
- 4回 戦前の工業教育の歴史
（職工学校の創設、実業学校令、実業教育費国庫補助法）
- 5回 戦後の工業教育の歴史
（産業教育振興法の制定と工業技術教育の整備）
- 6回 学習指導要領の改訂と工業科の変遷
（学習指導要領のねらい、学習指導要領の構成）
- 7回 欧米における工業教育（1）
（ドイツの教育制度と工業技術教育）
- 8回 欧米における工業教育（2）
（アメリカの教育制度と工業技術教育）
- 9回 工業科の教育内容と方法（1）
（工業科の各科目の内容及び方法について検討する）
- 10回 工業科の教育内容と方法（2）（同上）
- 11回 工業科の教材研究の事例（1）（教材解釈と教材づくりを中心に教材研究のあり方を検討する）
- 12回 工業科の教材研究の事例（2）（同上）
- 13回 工業科の教材研究の事例（3）（同上）
- 14回 工業科における評価の特徴（授業評価と評価方法）
- 15回 試験
- 16回 普通教育と専門教育（普通教育としての技術教育と専門教育としての技術教育の違い）
- 17回 学校教育としての技術教育体系の成立
（工業化の人材育成機関としての学校）

- 18回 技術革新と工業教育の改編
(産業界の要請、工業教育の多様化)
- 19回 工業に関する学科の目標
(工業高校の目標と工業に関する各学科の目標)
- 20回 教科「工業」の目標と学科の目標
(教科「工業」の目標の変遷)
- 21回 学科の教育課程編成(生徒の実態、高校の制度改革を踏まえた教育課程のあり方)
- 22回 教材(教材の概念、教授学習過程における教材の位置)
- 23回 工業技術教育の指導性(物品製作法、オペレーション法、プロジェクト法について)
- 24回 教育評価
(学校教育における教育評価の役割・機能及び問題点)
- 25回 授業評価(教授学習過程における評価、評価方法)
- 26回 学習指導案の構成(1)
(学習指導案の構成、留意点について)
- 27回 学習指導案の構成(2)(同上)
- 28回 学習指導案例(1)
(「工業技術基礎」を事例として授業案を検討する)
- 29回 学習指導案例(2)(同上)
- 30回 試験

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況(20%)、講義の合間に行う小レポート(30%)、期末試験(50%)によって行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許取得希望者(工業)は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。
- ④教育現場を知ること、生徒を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として工業高校の視察・見学を計画している。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局、1999年
齊藤武雄、田中喜美、依田有弘編著『工業高校の挑戦』学文社、2005年 375.6/S-2

8. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談を受けるため、授業終了後オフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

nagata@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法(数学) I

対象学科(コース): 総合システム工学科
学年: 3年次 学期: 前期 単位数: 2単位
担当教員名 山下 昭

1. 概要

この授業では、中学校・高等学校の数学教師として身につけておかなければならない数学科教育の基礎的な事項を取り上げ講義する。具体的には、数学教育史、数学教育の目標、数学科学習指導法の基礎理論、数学科の指導内容についての解説が中心となる。

2. キーワード

西洋数学 数学教育の改良運動 数学教育現代化運動 数学教育の価値 問題解決学習

3. 到達目標

この授業では、以下の点について理解し概説できるようになることを目標としている。

- ①明治以降の数学教育史
- ②数学教育の目標
- ③数学科学習指導法の基礎となる理論・数学科の指導内容

4. 授業計画

授業が講義形式で行う。配布資料等を適宜試用する。

- 1回 数学教育の現状と課題
- 2回 数学教育史(数学教育の建設期-明治期-)
- 3回 数学教育史
(数学教育改良運動期-大正期から昭和初期-)
- 4回 数学教育史(戦中期-昭和10年代-)
- 5回 数学教育史
(生活単元学習から系統学習へ-昭和20~30年代)
- 6回 数学教育史(数学教育現代化とそれ以降-昭和40年代)
- 7回 数学教育の目標(数学の特性)
- 8回 数学教育の目標(数学の価値)
- 9回 数学教育の目標(数学の教育的価値)
- 10回 数学科学習指導法(基礎理論I)
- 11回 数学科学習指導法(基礎理論II)
- 12回 数学科指導内容I(代数)
- 13回 数学科指導内容II(幾何)
- 14回 数学科指導内容III(解析他)
- 15回 試験

5. 評価の方法・基準

小テスト 30%
期末試験 70%
期末試験は論述式で行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、授業で指示する数学や数学教育の文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、数学教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
中学校学習指導要領解説 数学編 文部科学省 平成20年9月教育出版
高等学校学習指導要領解説 数学編 文部科学省 平成21年7月
数学教育研究会編『数学教育の理論と実際』聖文社 平成13年 375.4/S-9
杉山吉茂『数学科教育 中学・高校』学文社 平成11年 375.4/S-10

8. オフィスアワー

教科教育法（数学）Ⅱ

対象学科（コース）：総合システム工学科
 学年：3年次 学期：後期 単位数：2単位
 担当教員名 山下 昭

1. 概要

この授業では、教科教育法（数学）Ⅰでの内容を基礎として、中学・高等学校数学の教材研究、授業構成法を学習し、さらにそれらをもとに学習指導案の作成法を学び、実際に学習指導案を作成する。また、最近、数学教育で重視されている「問題解決」や「創造性」について、その基本的な考え方について解説する。

2. キーワード

中学・高等学校数学科学習指導要領 教材研究 授業構成 学習指導案 問題解決 創造性

3. 到達目標

この授業では、中学・高等学校数学科の具体的な指導内容について、以下の3点を目標とする。

- ①教材研究と授業構成の学習をもとに学習指導案が作成できるようになること。
- ②数学教育における「問題解決」や「創造性」について理解を深めること。
- ③それらを教材研究や授業構成に生かせるようになること。

4. 授業計画

授業が講義形式で行う。配布資料等を適宜試用する。

- 1回 数学科授業概説
- 2回 中学校数学科学習指導要領
(指導要領の構成と数学科の目標)
- 3回 中学校数学科学習指導要領 (A数と式 B図形)
- 4回 中学校数学科学習指導要領
(C関数 D資料の活用、数学的活動)
- 5回 高等学校数学科学習指導要領
(指導要領の構成と数学科の目標)
- 6回 高等学校数学科学習指導要領 (数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ)
- 7回 高等学校数学科学習指導要領
(数学A、数学B、数学活用)
- 8回 中学校数学科での教材研究と授業構成 (1)
- 9回 中学校数学科での教材研究と授業構成 (2)
- 10回 高等学校数学科での教材研究と授業構成 (1)
- 11回 高等学校数学科での教材研究と授業構成 (2)
- 12回 数学科指導計画と学習指導案の作成 (中学校)
- 13回 数学科学習指導案の作成 (中学校)
- 14回 数学科学習指導案の作成 (高等学校)
- 15回 試験

5. 評価の方法・基準

指導案の作成 40%
 期末試験 60%
 期末試験は論述式で行う。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、授業で指示する数学や数学教育の文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、数学教育に関する最新の情報を摂取すること。

7. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
 中学校学習指導要領解説 数学編 文部科学省 平成20年9月教育出版
 高等学校学習指導要領解説 数学編 文部科学省 平成21年7月
 数学教育研究会編『数学教育の理論と実際』聖文社 平成13年375.4/S-9
 杉山吉茂『数学科教育 中学・高校』学文社 平成11年375.4/S-10

8. オフィスアワー

教育課程論 Curriculum Study

対象学科（コース）：全学科
 学年：2年次 学期：前期 単位数：1単位
 担当教員名 堺 正之

1. 概要

今日の教育課題と教育課程の関連をふまえ、教育課程の成立史及び基礎理論を類型化して解説する。次に、日本における小学校・中学校・高等学校の教育課程編成の基準である学習指導要領の構造と、これに基づいて実施されている現在の学校における教育課程を事例に即して考察する。

2. キーワード

学校 教育課程 (カリキュラム) 教科

3. 到達目標

- ①各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ②教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。
- ③現代の課題に対応する教育課程の理論と実践について理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 はじめにー学校教育をとりまく状況ー
以下 教育課程総論
- 3・4回 教育課程とは何か ・語義/意義 ・領域/構造
- 5・6回 教育課程の変遷
- 7・8回 教育課程の類型
以下 教育課程各論
- 9・10回 教科(1) 学習指導要領と教科の内容
- 11・12回 教科(2) 中等教育段階における学習指導
- 13・14回 教科外の諸領域
(道徳・特別活動・総合的な学習の時間)
- 15回 小まとめと質疑

5. 評価の方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業の中で指示する。

7. 教科書・参考書

田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著『新しい時代の教育課程 改訂版』有斐閣 2009年 375/T-5
 参考書

- 1) 山崎英則・片上宗二 編集代表『教育用語辞典』ミネルヴァ書房 370.3/Y-1
- 2) 文部科学省『中学校学習指導要領解説ー総則編ー』375.1/M-15/08-2

8. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

特別活動の指導法 Method of Extra-class Activities

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位数：1単位

担当教員名 堺 正之

1. 概要

学校の教育課程を構成する領域として位置づけられる「特別活動」の歴史と今日的課題について、中等教育段階を中心としながら理解を深め、その指導原理とこれを運営してゆく際の基本的な問題について、具体的な事例をもとに考察する。

2. キーワード

学校 特別活動 学級活動（ホームルーム活動） 生徒会活動 学校行事

3. 到達目標

- ① 日本の学校教育における特別活動の歴史的位置づけと、その今日的意義及びその指導原理についての理解を深める。
- ② 中学校及び高等学校の特別活動の内容を構成する「学級活動（ホームルーム活動）」、「生徒会活動」、「学校行事」の概要を理解する。
- ③ 生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うための指導法を理解する。

4. 授業計画

- 1・2回 特別活動の歴史と今日的課題
- 3・4回 特別活動の目標・内容・方法的特質
- 5・6回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
学級活動－中学校－
- 7・8回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
ホームルーム活動－高等学校－
- 9・10回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（2）
生徒会活動
- 11・12回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（3）
学校行事
- 13・14回 特別活動と教科活動・道徳・総合的な学習の時間
- 15回 最終試験

5. 評価の方法・基準

授業への出席、レポート等の提出、最終試験の成績を総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

授業の中で指示する。

7. 教科書・参考書

相原次男、新富康史編著『個性をひらく特別活動』ミネルヴァ書房 375/M-16/8

8. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

教育方法 Educational Method

対象学科（コース）：全学科

学年：3年次 学期：前期 単位数：2単位

担当教員名 高田 清

1. 概要

●授業の背景

今日の学校教育をめぐる状況は、学力格差、学ぶ意欲の低下、いじめや不登校等、さまざまな教育課題を提示している。保護者や社会の要望、信頼に応える実践的指導力を獲得するためには、教育実践についての確かな理論知と方法技術を学ぶ必要がある。

●授業の目的

学校教育において、教師は子どもたちの豊かで主体的な学習活動・生活活動を指導していくが、その指導の方法技術の持つ独自な特質を学ぶ。さらに、学校における教育活動を構成していく原理としての教育課程論を学び、それをふまえて授業と特別活動の実践的な指導の原理を学ぶことを目的とする。

●授業の位置付け

教職に関する科目の中でも、教育方法は最も実践的指導力に関わる領域で、各教科の指導法の基礎となるものである。

2. キーワード

学習指導要領 授業記録 学力 評価

3. 到達目標

- ① 今日の教育課題を理解し、学校教育の構造と役割を理解する。
- ② 教育実践における「指導」の本質と方法技術の基本を理解する。
- ③ 学習指導と特別活動の独自な課題と指導方法を理解する。

4. 授業計画

（1）教育と教育実践の方法技術

- 1回 現代の子どもと教育の課題
- 2回 教育実践とは何か
- 3回 教育主体の原則と発達主体の原則
- 4回 指導とは何か
- 5回 教育実践における方法技術について
- 6回 学校教育の構造と教育作用の構造

（2）教育課程の編成の原理

- 7回 教育課程とは何か
- 8回 学習の指導と生活の指導
- 9回 教育課程編成の原理
- 10回 教科つくりと教材解釈

（3）特別活動の指導原理

- 11回 今日の子どもと特別活動の意義
- 12回 特別活動の歴史
- 13回 特別活動の指導原則

（4）情報機器の利用

- 14回 教育実践と情報機器
- 15回 情報機器の利用

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（70%）と出席状況（30%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

- ① 基本的には講義だが、積極的な発言を期待する。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

●参考書

高田清『学校教育実践の理論と方法』コレール社 375/T-3

8. オフィスアワー

takadaki@fukuoka-edu.ac.jp

生徒指導（進路指導を含む。） Student Guidance

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 大迫 秀樹

1. 概要

●授業の目的

この授業では「生徒指導、教育相談及び進路指導等」に関して講義を行い、以下の点について学ぶことを目的とする。

学校における教育活動は、教科指導と生徒指導に大別されるが、その最終的な目標は、生徒の人格の完成を目指すところにある。そのため、教科指導のみならず、生徒指導についての充実を図ることが重要である。そこで、いかにして、一人ひとりの生徒の個性の伸張を図りながら、同時に社会的な資質や能力・態度を育成し、現在及び将来において社会的な自己実現が可能となる資質・態度を育成していくのかといった視点から、教育活動について学んでいくこととし、その理解を深めていきたい。

●授業の位置付け

教育現場では、いじめや不登校、非行等の様々な問題が発生している。このため、教師には、生徒の心の問題を理解した上で、人格の健全な発達を促していくと同時に、不適応な問題行動に対しても適切に指導・援助していく技能が求められる。また、その領域の中には、進路指導も含まれる。これらの点について、講義と体験学習によって習得していく。

具体的には、生徒指導についての概要を把握した後に、生徒を理解するために必要な人格の基礎理論等について学ぶ。続いて、いじめや非行等の実際の問題行動について、事例等を通じて検討する。また、進路指導についての概要も学ぶ。さらに、具体的な対応について、カウンセリングの考え方や技法を中心に、小グループでの体験学習による実習などを通じて学ぶ。

2. キーワード

人格の発達 心理査定 いじめ 非行 不登校 進路指導 教育相談 カウンセリング

3. 到達目標

- ① 人格理解のための基礎理論について習熟する。
- ② カウンセリングの考え方について習熟する。
- ③ 教育現場において適切な生徒指導が行えるようになるための基礎技法を習得する。

4. 授業計画

授業は講義形式でおこなう。ただし、一部体験学習（カウンセリング技法など）も取り入れる。配布資料を適宜使用する。

- 1回：生徒指導とは何か
- 2回：生徒指導の領域
- 3回：生徒指導の方法
- 4回：生徒理解 ① 人格の発達
- 5回：生徒理解 ② 発達の問題
- 6回：生徒理解 ③ 心理査定
- 7回：問題行動 ① いじめ
- 8回：問題行動 ② 非行
- 9回：問題行動 ③ 不登校
- 10回：問題行動 ④ その他
- 11回：進路指導とは何か
- 12回：進路指導の領域と方法
- 13回：カウンセリングの考え方
- 14回：カウンセリングの基礎技法
- 15回：まとめ

5. 評価の方法・基準

受講態度および講義中に実施する小テスト等によって総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 教科書・参考書

●教科書を試用する。また、必要に応じて資料の配布、および参考文献の指示を行う。

8. オフィスアワー

なし（非常勤講師のため）

教育相談 Educational Counseling

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位数：2単位

担当教員名 菊池 健一郎

1. 概要

●授業の目的

思春期・青年期は、子どもから大人への移行期として、身体性、対人関係、社会的役割といったさまざまな側面で大きな変動がみられ、心理的な混乱が生じやすくなる。実際、思春期・青年期は、ライフサイクルの中でも心理障害が生じる危険性ももっとも高い発達期である。ところが、思春期・青年期の心理障害の中には、子どもから大人への発達過程で生じる一過性の心理的混乱と深刻な精神病理と関連する精神障害がともに含まれており、その対応が困難な場合も多い。そこで教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう、思春期・青年期の心理的発達、心理障害、心理援助について学習する。

●授業の位置づけ

この授業では、まず思春期・青年期発達の特徴を理解し、さらにその心理障害との関連性を明らかにする。また心理障害の具体的な分類とその内容を記述する。後半では思春期・青年期に対する教育相談（心理援助・カウンセリング）の理論と方法についてまとめる。

2. キーワード

教育相談 思春期青年期 発達 心理障害 カウンセリング

3. 到達目標

教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう学習する。

- ① 思春期・青年期の発達を理解する。
- ② 思春期・青年期の心理障害を理解する。
- ③ 教育相談・理論と方法を理解する。

4. 授業計画

- 1回：はじめに（教育相談の意義）
- 2回：発達とは
- 3回：発達段階
- 4回：思春期・青年期の発達①
- 5回：思春期・青年期の発達②
- 6回：思春期・青年期の発達③
- 7回：思春期・青年期の問題行動・病理
- 8回：不登校、摂食障害、暴力行為、自殺、心理障害への理解（その1）
- 9回：不登校、摂食障害、暴力行為、自殺、心理障害への理解（その2）
- 10回：教育相談の現状と課題
- 11回：教育相談の理論と方法
- 12回：教育相談・カウンセリングの理論と方法（その1）
- 13回：教育相談・カウンセリングの理論と方法（その2）
- 14回：講義の復習・演習
- 15回：試験

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

心理学、特に臨床心理学に関する書籍は多くあります。興味のあるものを読んでみてください。また、小説、マンガ、映画などにも人のこころや成長を扱ったものが多くあります。鑑賞をお薦めします。

7. 教科書・参考書

●教科書：特に指定なし

●参考文献

下山：教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学（東京大学出版会）371.4/K-28/2

下山：よくわかる臨床心理学（ミネルヴァ書房）146/S-9

8. オフィスアワー

メールアドレス：kikuchi@jimukyutech.ac.jp

人間科学科目（留学生）

1. 目的

留学生が速やかに大学の教育環境に適応し、日本社会に対する理解を深めることができるように、日本語と日本事情の教育を行う。

具体的な目標としては、

- 1) 日本社会・文化について大学生として知っておくことが望ましい知識を獲得する。
- 2) 大学生として必要な日本語の語彙や文法、読解力、聴解力を獲得する。
- 3) 日本語での情報を正確に理解し、自分なりの考えを論理的に表現する力を養う。
- 4) 自分なりの日本語学習の習慣を確立し、専門の学習に備える。

2. 日本語と日本事情の科目の履修について

日本語AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡは1年次に、日本語CⅠ、CⅡは1年次または2年次に履修する。これらの単位は外国語系科目に振り替えることができる。

日本事情A、日本事情Bは1年次または2年次に履修する。これらの単位は人文社会系科目に振り替えることができる。

上記の科目の他に1年次から3年次の学生を対象にした日本事情C、日本事情Dが金曜日に開講され、これらの単位を取得して人文社会系科目に振り替えることができる。時間割を参照して、履修を希望する者は最初の講義に必ず出席すること。

日本語AⅠ Japanese I

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 石束 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

- 読む力、聞く力を向上させる。
- 社会的文化的話題について語彙を拡充する。
- 考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

4. 授業計画

第1回～第2回	第1課	いちろく銀行
第3回～第4回	第2課	動物園
第5回～第6回	第3課	仮想現実
第7回～第8回	第4課	体の時間
第9回～第10回	第5課	自然
第11回～第12回	第6課	左利き
第13回～第14回	第7課	共生住宅
第15回	試験	

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。
課題を毎回提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22

8. オフィスアワー

火曜日3限

日本語 A I Japanese I

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の現代社会に関して必要な情報を整理し、そこから日本で自ら発信する技術を養成することを狙いとする。

●授業の位置付け

中上級レベルの日本語能力を総合的に養成するためのものである。積極的に資料を使い、自分の考えを組み立て、的確に発信する力を養う。日本社会に対する理解を深める。

2. キーワード

「日本の現代社会」「読解」「文法表現」「討論」

3. 到達目標

●社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

●読解力をつける。

●考えたこと、感じたことを日本語で的確に表現する力をつける。

●積極的に他人の意見を聴き、自分の考えを組み立てて議論を進める力をつける。

4. 授業計画

第1回～第2回 余暇

第3回～第4回 健康産業

第5回～第6回 見合いは親同士で

第7回～第8回 性別役割分担

第9回～第10回 孫離れできぬ祖父母

第11回～第12回 ホテル化した家庭

第13回～第14回 義理を欠くことの大切さ

第15回 期末試験

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20%）、小テスト・宿題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

中上級レベルの学習者を対象とする。

課題を必ず提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

留学生のための時代を読み解く上級日本語（スリーエーネットワーク）810.7/M-41

8. オフィスアワー

木曜日 4限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。また、科学技術に関する読み物への導入を行い、研究室見学を行って、実際の場で日本語を使ってみる。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

①読む力、聞く力を向上させる。

②社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

③考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

④平易な科学的な読み物を読み、学んだ語彙を使って考えを述べる。

4. 授業計画

第1回～第2回 第8課 カラー柔道着

第3回～第4回 第9課 料理技能の検定

第5回～第6回 第10課 発明王

第7回～第8回 第11課 花の洋風化

第9回～第10回 第12課 さいせん回数券

第11回～第13回 KIT版科学読み物

第14回 研究室見学

第15回 試験

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

課題を毎回提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22

2) アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー

火曜日 3限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対して的確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

2. キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

3. 到達目標

- ①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できるようになる。
- ②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができるようになる。

4. 授業計画

毎回の授業は、その時々々の生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。

授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。

適宜、語彙の復習テストを行う。

5. 評価方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

なし

8. オフィスアワー

木曜日 4限

日本語 B I Japanese B I

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。

また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイデア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。

学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

- 科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
- 聞き取った内容を的確に把握する。
- 科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

- 第1回 説明文の表現練習
- 第2回 テーマ：メディア革命
- 第3回 テーマ：新エネルギー開発
- 第4回 テーマ：再生木材
- 第5回 テーマ：最先端ロボット
- 第6回 テーマ：エコタウン
- 第7回 テーマ：有毒アオコ
- 第8回 テーマ：脳科学と教育
- 第9回 テーマ：メタンハイドレート
- 第10回 テーマ：地球温暖化 島が沈む
- 第11回 テーマ：小水力発電
- 第12回 研究室見学
- 第13回 地球温暖化についてまとめ
- 第14回 テーマ：バイオメトリクス認証
- 第15回 試験

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文（30%）、試験（50%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー

木曜日 4限

日本語 B II Japanese B II

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。

また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイデア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。

学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

●科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。

●聞き取った内容を的確に把握する。

●科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

第1回 テーマ：折り紙工学

第2回 テーマ：空飛ぶ無人IT基地

第3回 テーマ：光化学スモッグの再発

第4回 テーマ：ICタグで暮らしが変わる

第5回 テーマ：磁石研究とエコカー

第6回 テーマ：東京大地震

第7回 テーマ：ペットボトルリサイクル

第8回 テーマ：脳の疲れを癒せ

第9回 テーマ：超薄型テレビ開発

第10回 テーマ：生物をまねる

第11回 テーマ：生ごみを生かせるか

第12回 研究室見学

第13回 テーマ：スペースデブリ

第14回 研究室見学

第15回 試験

5. 評価方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文・課題（30%）、試験（50%）

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

8. オフィスアワー

木曜日 4限

日本語 C I Japanese C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

様々な話題に応じた語彙や表現を学び、自分に興味のあることを詳しく説明できる力を育てる。

●授業の位置付け

会話やスピーチなど、中上級話者の話す能力を養う。

2. キーワード

「会話」「スピーチ」「説明」「興味をもってもらう」

3. 到達目標

①詳しい説明や描写ができる

②聞き手の興味や理解を確かめながら話せる

③共に話を展開させる聞き方を身につける

④メモをもとにスピーチができる

4. 授業計画

第1回 インタビューと他者紹介

第2回 前回のフィードバック：話し方を考える

第3回 きっかけを語る

第4回 方法説明のスピーチの準備

第5回 失くした体験

第6回 図の分析

第7回 性格を分析する

第8回 うごきの説明

第9回 健康・ストレス解消法

第10回 物語の説明（1）

第11回 物語の説明（2）

第12回 ゲームの説明

第13回 最近の出来事

第14回 将来の夢

第15回 日本の文化に慣れるとは

5. 評価方法・基準

授業への参加度（30%）、授業内での発表（30%）、説明方法のスピーチ（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の授業で得た手がかりを基に、共に会話を深めることができる話し手、聞き手となるよう心がけること。自分の話し方を内省し、課題を克服する努力をすること。

7. 教科書・参考書

●教科書

1) 荻原稚佳子他：日本語上級話者への道（スリーエーネットワーク）810.7/O-22

8. オフィスアワー

木曜日 4限

日本語 C II Japanese C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

各自の日本語能力を総合的に評価して、不十分な点を自覚し、それをどのようにして獲得していったらよいか、自分なりの学習方法を確立することを目的とする。

●授業の位置付け

日本語学習のまとめとして自律的に学習する態度を確立する。

2. キーワード

「自己評価」「自律的学習」

3. 到達目標

- 自分の日本語能力を客観的に評価する
- 不十分な技能を磨くための学習方法を身につける
- 自律的に日本語を学ぶ態度を身に付ける
- まとめとして説得力のあるプレゼンテーションを行う

4. 授業計画

- 第1回 インTROダクション：自己評価とは
 第2回 自分の力を知る：語彙の広さ、量
 第3回 前回のフィードバック、練習
 第4回 自分の力を知る：文法的な正確さ
 第5回 前回のフィードバック、文法の正確さのための練習
 第6回 自分の力を知る：主旨や発話者の意図を理解する力
 第7回 前回のフィードバック、練習
 第8回 自分の力を知る：論理的に話を組み立てる力
 第9回 前回のフィードバック、練習
 第10回 自分の力を知る：表現力・説得力
 第11回 前回のフィードバック、練習
 第12回 プレゼンテーションに向けて（1）構成
 第13回 プレゼンテーションに向けて（2）説得力
 第14回 プレゼンテーションに向けて（3）練習
 第15回 プレゼンテーション

5. 評価方法・基準

授業への参加度・課題（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

7. 教科書・参考書

特になし

8. オフィスアワー

木曜日 4限

日本事情 A Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①大学生にとって知っていることが望ましいと思われる日本社会に関する基本的な知識を獲得する
- ②討議に積極的に参加して考えを深める
- ③日本の社会、文化についてまとまりのある文章を書く

4. 授業計画

- 第1回 アイスブレイキング：国のイメージ
 第2回 学校生活
 第3回 英語教育
 第4回 教育問題：いじめ
 第5回 しつけと人間関係
 第6回 年中行事
 第7回 若者文化
 第8回 日本の物価
 第9回 結婚と女性
 第10回 宗教
 第11回 日本人はなぜよく働くか
 第12回 社会保障制度
 第13回 自殺
 第14回 日本の未来
 第15回 まとめ

5. 評価方法・基準

レポート（60%）及び 毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

下の参考書等を参照して理解を深めること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

●参考書

- 1) 日鉄ヒューマンデベロップメント・日本外国語専門学校：日本を話そう 15のテーマで学ぶ日本事情 (The Japan Times) 302.1/N-16
- 2) 日鉄ヒューマンデベロップメント：日本-その姿と心- (学生社) 302.1/S-10
- 3) 山本茂：留学生のための日本事情 (大学教育出版) 302.1/Y-5
- 4) 長谷川勝行：日本人の秘密 (ヤック企画) 817.7/H-3

8. オフィスアワー

月曜日 3限

日本事情 B Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

毎週のニュースを題材にして、日本の社会的な問題について知見を広げ、討論して日本の社会についての理解を深める。

●授業の位置付け

その時々々の新聞から興味のある記事を自ら選んで紹介し、意見を交換する。現代の日本社会に対する関心と理解を深める。

2. キーワード

「新聞記事」「日本社会」

3. 到達目標

- ・現代の社会的な問題を知り、その背景や対策などについて話し合う
- ・日本の社会現象について説明し、自分の意見を含めて、まとまりのある文章を書く

4. 授業計画

学生自身がその時々々の新聞から興味のある記事を取り上げて、要旨をまとめ、意見を書いて紹介する。皆で討議する問題を提起する。教師が補足的な説明、資料提供などを行って、その社会的な問題について理解を深める。提起された問題について意見を出し合い、自分の意見をまとめる。

5. 評価方法・基準

発表（50%）及び毎回のノート（30%）授業への参加度（20%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

日頃から報道されるニュースに関心を持つこと。図書館で日本の新聞記事も読んでみる習慣をつけよう。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

8. オフィスアワー

月曜日3限

日本事情 C Japanese Culture and Society C

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本の地理・歴史・政治・経済などを概観することによって、日本という国の全体像をとらえる

●授業の位置付け

日本人が中学・高校の「社会科」で学習する内容をごく簡単に紹介する。

また受講者は、自国について各回のテーマに沿った内容で輪番で発表を行う。

2. キーワード

「日本史」「日本地理」「政治・経済」

3. 到達目標

これから社会人として日本という国と関わりを持っていく上で必要な、「常識」とされる知識を身につける

4. 授業計画

第1回 データでみる日本

第2回 日本の地理・気候

第3回 憲法

第4回 政治制度

第5回 選挙と世論

第6回 戦後経済史

第7回 消費者をめぐる問題

第8回 労働問題と社会保障

第9回 宗教

第10回 日本の歴史（1）

第11回 日本の歴史（2）

第12回 現代日本社会の諸問題

第13回 北九州の地理と歴史

第14回 まとめ

5. 評価方法・基準

授業の途中で課す小レポート（50%）、発表（20%）、授業への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 教科書・参考書

特に指定しない

8. オフィスアワー

アブドゥハン教員を通して質問すること

日本事情D Japanese Culture and Society D

対象学科（コース）：全学科

学年：2年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本社会におけるコミュニケーションで、人間関係を調節するためにどのような表現が使われているかを、さまざまな例（会話、手紙文など）を通して観察・考察する。

●授業の位置付け

ある状況で、どんな表現が選択されるかは、文化によって違いがある。日本語において適切とされる表現の観察を通じて、日本文化・日本社会に対する理解を促進する。

2. キーワード

「日本社会」「人間関係」「待遇表現」

3. 到達目標

- ・丁寧な表現とくだけた表現がどのように使い分けられるかを理解する。
- ・「たのむ」「ことわる」「苦情をいう」などといった、人間関係を悪くするかもしれない場面で用いられる表現について知るとともに、その背景にある日本文化についての理解を深める。

4. 授業計画

- | | |
|--------|--------------------|
| 第1回 | 人間関係を調節する表現についての概論 |
| 第2－4回 | さまざまな表現と使い方 |
| 第5－7回 | 頼むとき・頼まれたとき |
| 第8－10回 | 苦情を言うとき・言われたとき |
| 第11回 | 意見を述べる |
| 第12回 | 感謝・謝罪 |
| 第13回 | ほめる・ほめられる |
| 第14回 | まとめと討論 |

5. 評価方法・基準

授業の途中で課す小レポート（70%）と授業への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項、授業時間外における学習等

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない

8. オフィスアワー

アプドゥハン教員を通して質問すること

九州工業大学

郵便番号 804-8550

北九州市戸畑区仙水町1番1号

電話 北九州 (093) 884 - 3088